

秋田県文化財調査報告書第488集

清水尻Ⅰ遺跡・清水尻Ⅱ遺跡

—一般国道7号象潟仁賀保道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ—



秋田県文化財調査報告書第488集

清水尻Ⅰ遺跡・清水尻Ⅱ遺跡

2013・9

秋田県教育委員会

2013・9

秋田県教育委員会

シンボルマークは、北秋田市白坂(しろざか)遺跡出土の「岩偶」です。
縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ7cm、凝灰岩。

し みず じり 1 い せき し みず じり 2 い せき
清水尻 I 遺跡・清水尻 II 遺跡

—一般国道7号象潟仁賀保道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書IV—

2013・9

秋田県教育委員会

序

本県には、これまでに発見された約5,000か所の遺跡をはじめとして、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これら埋蔵文化財の保存・継承と積極的活用は、地域社会の歴史や文化に親しみ、理解を深め、ふるさとを愛する人づくりにつながります。

一方、日本海沿岸東北自動車道をはじめとする高速交通体系の整備は、地域が活発に交流・連携する秋田の創造をめざす開発事業の根幹をなすものであります。本教育委員会では、これら地域開発との調和を図りながら、埋蔵文化財を保存し、活用することに鋭意取り組んでおります。

本報告書は、一般国道7号象潟仁賀保道路建設事業に先だって、平成23年度に実施した清水尻Ⅰ遺跡・清水尻Ⅱ遺跡の発掘調査成果をまとめたものであります。調査の結果、平安時代の道路側溝跡や竪穴建物跡、鍛冶や製塩を行ったと推定される炉跡などが見つかりました。

本書が、ふるさとの歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助となることを心から願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の刊行にあたり、協力をいただきました国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所、にかほ市教育委員会など関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成25年9月

秋田県教育委員会

教育長 米 田 進

例 言

- 1 本書は、一般国道7号象潟仁賀保道路建設事業に伴い、平成23年度に発掘調査した清水尻Ⅰ遺跡及び清水尻Ⅱ遺跡の発掘調査報告書である。また、同事業に係る埋蔵文化財調査報告書の4冊目である。
- 2 調査の内容については、すでにその一部が埋蔵文化財センター年報などによって公表されているが、本書を正式なものとする。
- 3 清水尻Ⅰ遺跡（しみずじりいちいせき）の所在地は、秋田県にかほ市平沢字清水尻93-30外であり、遺跡略記号は6 SMZⅠである。清水尻Ⅱ遺跡（しみずじりいちにせき）の所在地は、秋田県にかほ市平沢字清水尻93-25外であり、遺跡略記号は6 SMZⅡである。
- 4 発掘調査の原因は、国土交通省東北地方整備局湯沢秋田国道事務所が所轄する一般国道7号象潟仁賀保道路建設事業である。
- 5 発掘調査は、秋田県教育委員会が国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所から調査の依頼を受けて、秋田県埋蔵文化財センターが平成23年度に実施した。調査期間・調査面積・調査主体者調査担当者・総務担当者は以下のとおりである。

（1）清水尻Ⅰ遺跡

調査期間	平成23年7月4日～7月22日
調査面積	600m ²
調査主体者	秋田県教育委員会
調査担当者	高橋 学（秋田県埋蔵文化財センター調査班 主任学芸主事） 高橋和成（秋田県埋蔵文化財センター調査班 文化財主事）
総務担当者	久米 保（秋田県埋蔵文化財センター総務班 副主幹） 小松正典（秋田県埋蔵文化財センター総務班 主査）

（2）清水尻Ⅱ遺跡

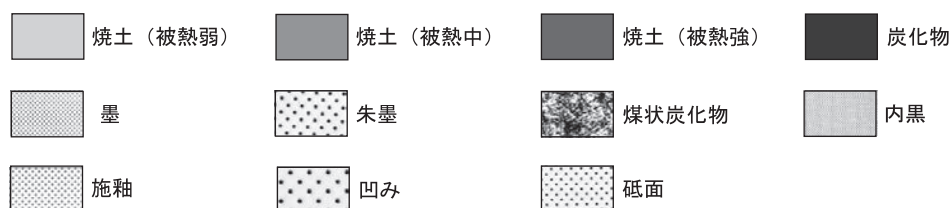
調査期間	平成23年6月8日～11月30日
調査面積	5,700m ²
調査主体者	秋田県教育委員会
調査担当者	高橋 学（秋田県埋蔵文化財センター調査班 主任学芸主事） 高橋和成（秋田県埋蔵文化財センター調査班 文化財主事） 高橋由直（秋田県埋蔵文化財センター調査班 調査・研究員） 田村瑞保（秋田県埋蔵文化財センター調査班 調査・研究員）
総務担当者	久米 保（秋田県埋蔵文化財センター総務班 副主幹） 小松正典（秋田県埋蔵文化財センター総務班 主査）

- 6 本書に使用した地形図は、国土地理院発行の50,000分の1『象潟』、25,000分の1『平沢』、国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所提供の1,000分の1工事路線計画図である。
- 7 遺跡基本層位と遺構土層中の土色の色調表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版 標準土色帖』によった。

- 8 本書に使用した空中写真は、1947（昭和22）年米軍撮影によるものを財団法人日本地図センターより購入したものである。
- 9 第2章の「理化学的分析」は、パリノ・サーヴェイ株式会社、株式会社パレオ・ラボ、株式会社加速器分析研究所、株式会社吉田生物研究所に分析を委託した成果報告である。また、清水尻Ⅰ遺跡の第3節及び清水尻Ⅱ遺跡の第8節については北海道大学総合博物館の石船夕佳氏、清水尻Ⅱ遺跡の第3節については山梨県立博物館植月学氏からそれぞれ玉稿を頂戴した。
- 10 出土した金属製品の一部はパリノ・サーヴェイ株式会社と株式会社吉田生物研究所に保存処理を委託した。
- 11 本書の執筆は、高橋学、高橋和成が行った。
- 12 本書の編集は、高橋和成が行った。
- 13 発掘調査では、国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所、にかほ市教育委員会の協力を得た。
- 14 発掘調査及び整理作業において、ご指導・ご助言を賜った以下の方々に記して感謝申し上げます。
（五十音順）
荒木志伸 石船清隆 石船夕佳 植月学 木本雅康 小松正夫 齋藤一樹 八重樫忠郎

凡 例

- 1 遺構番号は、その種類ごとに下記の略記号を付し、検出順に通し番号を付したが、後に検討の結果、遺構ではないと判断したものは欠番とした。
- | | | | | | |
|-------|-------|--------|-------|--------|--------|
| SI・・・ | 堅穴建物跡 | SKI・・・ | 堅穴状遺構 | SZ・・・ | テラス状遺構 |
| SD・・・ | 溝跡 | SQ・・・ | 集石遺構 | SN・・・ | 焼土遺構 |
| SM・・・ | 道路側溝跡 | SK・・・ | 土坑 | SKP・・・ | 柱穴様ピット |
- 2 土層番号に用いた数字は、ローマ数字を遺跡基本土層に、算用数字を遺構土層に使用して区別した。
- 3 古代の土器のうち、須恵器には断面にスクリントーンを用いて土師器と区別した。
- 4 土器の拓影配置は、表裏を採拓した場合は、断面の左側に表面、右側に裏面を配置した。表面だけの場合は、断面の左側に配置した。
- 5 挿図に使用したスクリーントーンは以下のとおりである。この他については個々の挿図中に示した。



清水尻Ⅰ遺跡・清水尻Ⅱ遺跡 報告書目次

序	
例言	
凡例	
目次	
挿図目次・表目次・図版目次	
〈調査の経過〉	1
・調査に至る経緯	1
・発掘調査の経過	1
・整理作業の経過	4
〈遺跡の位置と環境〉	5
・地理的環境	5
・歴史的環境	8
清水尻Ⅰ遺跡（6 SMZⅠ）	
第1章 調査の方法と成果	15
第1節 調査の方法	15
第2節 基本層序	15
第3節 検出遺構と遺物	20
第2章 理化学的分析	32
第1節 畑跡の栽培植物	32
第2節 溝跡の堆積環境および土坑周壁の特性	38
第3節 清水尻Ⅰ遺跡出土の動物遺存体	43
第3章 総括	45
図版	
清水尻Ⅱ遺跡（6 SMZⅡ）	
第1章 調査の方法と成果	55
第1節 調査の方法	55
第2節 基本層序	55
第3節 検出遺構と遺物	59
第2章 理化学的分析	148
第1節 清水尻Ⅱ遺跡出土の黒曜石製石器の産地同定	148
第2節 清水尻Ⅱ遺跡の火山灰分析	151
第3節 清水尻Ⅱ遺跡から出土した馬歯	154
第4節 清水尻Ⅱ遺跡出土銅製品自然科学分析および保存処理業務報告	157
第5節 秋田県清水尻Ⅱ遺跡出土青銅製品の成分分析調査	160
第6節 秋田県清水尻Ⅱ遺跡出土鉄製品の成分分析調査	164
第7節 清水尻Ⅱ遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）	167
第8節 清水尻Ⅱ遺跡出土炭化材の樹種	171
第9節 清水尻Ⅱ遺跡出土の動物遺存体	173
第3章 総括	175
図版	
報告書抄録	

挿図目次

第1図	路線と遺跡	2	第27図	S K 356・348・958・264・279・780・666・762・763	86
第2図	遺跡位置図	5	第28図	遺構内出土遺物実測図(5)	87
第3図	遺跡周辺の地形区分図	6	第29図	S I 265・S K 283	95
第4図	遺跡周辺の地質分類図	7	第30図	S I 286	96
第5図	周辺遺跡位置図	9	第31図	遺構内出土遺物実測図(6)	97
清水尻 I 遺跡			第32図	S I 291・S I 312・S K I 304	99
第1図	調査区と周辺地形	16	第33図	遺構内出土遺物実測図(7)	100
第2図	調査区設定と基本層序抽出地点	17	第34図	S K I 785	100
第3図	遺跡基本層序図	18	第35図	S K I 319・S Q 324	101
第4図	遺構配置図	19	第36図	S D 372	103
第5図	S X 129・S M 130	21	第37図	S Q 203と周辺地形	105
第6図	S D 103	22	第38図	S Q 243・226・225	106
第7図	S D 103出土遺物実測図	23	第39図	S Q 223・229・250・226・227・251・268・252・332・350	107
第8図	S N 102と出土遺物実測図	25	第40図	S N 208・241・313・355・S K 346・458・457・464	108
第9図	S K 101・112・113・119	26	第41図	S K 202・686・463	109
第10図	遺構外出土遺物実測図(1)	28	第42図	S I 302・S D 546・S K 459	111
第11図	遺構外出土遺物実測図(2)	29	第43図	遺構内出土遺物(8)	112
第12図	遺構外出土遺物実測図(3)	30	第44図	S D 308・791・811・951・S N 222・342・S K 210・242・290・509・741・805	113
第13図	植物珪酸体含量	34	第45図	S K 515・512・740・360・809・799・805・787・S K 948	114
第14図	X線回折図(定方位法)	39	第46図	遺構外出土遺物(1)	118
第15図	土壌サンプリング位置図	42	第47図	遺構外出土遺物(2)	119
清水尻 II 遺跡			第48図	遺構外出土遺物(3)	120
第1図	調査区と周辺地形	56	第49図	遺構外出土遺物(4)	121
第2図	調査区設定と基本層位抽出地点	57	第50図	遺構外出土遺物(5)	122
第3図	遺跡の基本層序図	58	第51図	遺構外出土遺物(6)	123
第4図	S K I 547・S N 749・S D 349	60	第52図	遺構外出土遺物(7)	124
第5図	S K 283・S K 626	61	第53図	遺構内出土遺物(8)	125
第6図	S I 338・S I 327・S K I 352	64	第54図	遺構外出土遺物(9)	126
第7図	遺構内出土遺物(1)	65	第55図	遺構外出土遺物(10)	127
第8図	S Z 236・S N 230・303・351・258	68	第56図	遺構外出土遺物(11)	128
第9図	S Z 237・S N 340・S Q 339	69	第57図	遺構外出土遺物(12)	129
第10図	遺構内出土遺物(2)	70	第58図	遺構外出土遺物(13)	130
第11図	遺構内出土遺物(3)	71	第59図	遺構外出土遺物(14)	131
第12図	遺構内出土遺物(4)	72	第60図	遺構外出土遺物(15)	132
第13図	S Z 690・S N 341	73	第61図	遺構外出土遺物(16)	133
第14図	S Z 628	74	第62図	遺構内出土遺物(17)	134
第15図	道路側溝跡の立地と変遷	75	第63図	遺構外出土遺物(18)	135
第16図	S K P 280出土土師器	75	第64図	遺構外出土遺物(19)	136
第17図	調査区南壁断面図	76	第65図	遺構外出土遺物(20)	137
第18図	道路構築に伴う整地状況断面図	76	第66図	遺構外出土遺物(21)	138
第19図	S N 214・240・271・247・261	77	第67図	北海道・東北地方黒曜石原石分布図	149
第20図	S N 239	78	第68図	黒曜石産地推定判別図(1)	150
第21図	S N 257・256・245	79	第69図	黒曜石産地推定判別図(2)	150
第22図	S N 277・273・238・249・285	80	第70図	火山ガラスの屈折率	152
第23図	S N 262・275・330・281・276・282・288	81			
第24図	S N 336・334・371・253・231・581・576・316	82			
第25図	S N 204・269・317・353・335・323	83			
第26図	S K 294・309・320・321・322・318・333	85			

第71図	清水尻Ⅱ遺跡出土馬歯と東日本古墳時代～中世遺跡出土馬歯の歯冠長・歯冠高の比較……………	156	第78図	波長分散型蛍光X線分析結果図(2)……………	163
第72図	清水尻Ⅱ遺跡出土馬歯と東日本古墳時代～中世遺跡出土馬歯の歯冠長L S I比較……………	156	第79図	分析資料一覧……………	164
第73図	蛍光X線分析結果……………	159	第80図	波長分散型蛍光X線分析結果図(3)……………	166
第74図	調査資料……………	160	第81図	波長分散型蛍光X線分析結果図(4)……………	167
第75図	分析箇所……………	160	第82図	歴年較正年代グラフ[参考]……………	170
第76図	波長分散型蛍光X線分析結果図(1)……………	161	第83図	平安時代の遺構の時期変遷……………	176
第77図	S E M画像……………	162	第84図	出土土師器・須恵器器種別重量……………	176
			第85図	周辺遺跡位置詳細図……………	181
			第86図	周辺遺跡出土土師器・須恵器重量……………	184

表目次

第1表	周辺遺跡一覧表……………	10	第16表	遺物観察表(弥生2)……………	140
清水尻Ⅰ遺跡					
第1表	S K P観察表(法量)……………	23	第17表	遺物観察表(平安1)……………	141
第2表	S K P観察表(堆積土)……………	23	第18表	遺物観察表(平安2)……………	142
第3表	出土遺物観察表……………	31	第19表	遺物観察表(平安3)……………	143
第4表	植物珪酸体含量……………	34	第20表	遺物観察表(平安4)……………	144
第5表	微細遺物洗い出し・種実同定結果……………	35	第21表	遺物観察表(土製品・金属製品・石製品)……………	145
第6表	微粒炭分析結果……………	36	第22表	遺物観察表(近世)……………	145
第7表	清水尻Ⅰ遺跡出土の動物遺存体……………	43	第23表	遺物観察表(中世)……………	146
清水尻Ⅱ遺跡					
第1表	道路側溝跡一覧……………	74	第24表	遺物観察表(銭貨)……………	147
第2表	平安時代の焼土遺構一覧……………	84	第25表	黒曜石分析対象……………	148
第3表	平安時代の土坑一覧……………	84	第26表	北海道・東北地方黒曜石産地の判別群……………	148
第4表	S K P観察表(1)……………	88	第27表	測定値および産地推定結果……………	151
第5表	S K P観察表(2)……………	89	第28表	出土馬歯一覧……………	155
第6表	S K P観察表(3)……………	90	第29表	青銅製品試料表……………	160
第7表	S K P観察表(4)……………	91	第30表	清水尻Ⅱ遺跡出土青銅製品成分分析結果一覧表……………	162
第8表	S K P観察表(5)……………	92	第31表	鉄製品試料表……………	164
第9表	S K P観察表(6)……………	93	第32表	清水尻Ⅱ遺跡出土鉄製品成分分析結果一覧表……………	165
第10表	中世の集石遺構一覧……………	104	第33表	炭素年代測定試料一覧……………	169
第11表	中世の焼土遺構・土坑一覧……………	104	第34表	放射性炭素年代測定結果……………	169
第12表	S I・S K I内柱穴一覧……………	112	第35表	樹種同定結果……………	172
第13表	時期不明遺構一覧……………	115	第36表	清水尻Ⅱ遺跡出土の動物遺存体……………	174
第14表	弥生時代石器観察表……………	115	第37表	周辺の遺跡群消長表……………	182
第15表	遺物観察表(弥生1)……………	139	第38表	周辺遺跡検出遺構集計表……………	182
			第39表	周辺遺跡出土遺物集計表……………	183
			第40表	周辺遺跡出土土師器・須恵器重量……………	184

図版目次

清水尻Ⅰ遺跡

- 図版1 1 遺跡近景(北→) 2 調査前状況(東→)
 図版2 1 調査後全景(東→) 2 調査後全景(南西→)
 図版3 1 S X 129・S M 130(北東→) 2 S X 129畝状遺構検出状況(西→) 3 S D 103完掘状況(南西→)
 4 S D 103底面の硬化面(北東→) 5 S D 103断面A-B(南西→) 6 S N 102確認状況(南→)
 7 S K 101確認状況(西→) 8 S K 101完掘状況(西→)
 図版4 出土遺物
 図版5 珪藻化石・植物珪酸体・種実遺体・微粒炭
 図版6 動物遺存体

清水尻Ⅱ遺跡

- 図版1 遺跡上空から(真上):1947米軍撮影
 図版2 1 遺跡上空から(南→) 2 遺跡上空から(北西→)

- 図版3 1 遺跡上空から(南東→) 2 遺跡遠景(南→)
- 図版4 1 道路側溝跡検出状況(南西→) 2 道路側溝跡検出状況(南西→)
- 図版5 1 調査区中央平坦面調査前状況(南東→) 2 調査区南側調査前状況(北→) 3 遺構検出状況(西→)
4 SM206検出状況(南東→) 5 調査区中央完掘状況(北西→) 6 調査区中央完掘状況(南西→)
7 調査区南端完掘状況(南東→) 8 調査区中央盛土整地確認状況(南→)
- 図版6 1 調査区北側土層断面(北→) 2 調査区北側土層断面(北西→) 3 地山の地滑り痕確認状況(西→)
4 断層確認状況(西→) 5 調査区中央土層断面(西→) 6 調査区南端道路構築に伴う整地層(南西→)
7 十和田a火山灰確認状況(南→) 8 SKI547・SN749(北東→)
- 図版7 1 SN749完掘状況(南西→) 2 SD349完掘状況(南西→) 3 SD349完掘状況(北東→)
4 SK283(東→) 5 SK283土層断面(北東→) 6 SK283土層断面(北→)
7 調査区南端完掘状況(南東→) 8 弥生土器(第45図-9)出土状況(西→)
- 図版8 1 SI327(西→) 2 SI338完掘状況(西→) 3 SKI352完掘状況(南→) 4 SZ236・237近景(南→)
5 SZ236底面検出状況(北東→) 6 SZ237確認状況(西→) 7 SZ237底面検出状況(南東→)
8 SN340遺物出土状況(北東→)
- 図版9 1 SZ237遺物出土状況(第10図-1・2)(南西→) 2 SZ690完掘状況(北西→) 3 SD690完掘状況(東→)
4 SZ628完掘(北東→) 5 SM411検出状況(南→) 6 十和田a火山灰確認状況(南→)
7 調査区南壁SM206・686断面(北→) 8 SN249確認状況(南→)
- 図版10 1 SN249出土粒状滓 2 SN271確認状況(西→) 3 SN239確認状況(東→) 4 SN239遺物出土状況(南→)
5 SN239半截断面(南→) 6 SK686製塩土器(第28-1・2)出土状況(東→)
7 SK320馬骨出土状況(南西→) 8 SK320馬骨出土状況(西→)
- 図版11 1 SI265完掘状況(南西→) 2 SI265土層断面(東→) 3 SI265土層断面(南→)
4 SN957・958確認状況(南西→) 5 SN957半截断面(東→) 6 SI286確認状況(南東→)
7 SI286土層断面(南→) 8 SI286完掘状況(南東→)
- 図版12 1 SI291完掘状況(東→) 2 SI312確認状況(北→) 3 SKI319確認状況(北→)
4 SKI785完掘状況(北西→) 5 SKI304確認状況(南東→) 6 SKI304完掘状況(南東→)
7 SQ203検出前状況(南東→) 8 SQ203確認状況(南東→)
- 図版13 1 SQ203検出状況(西→) 2 SQ243検出状況(北東→) 3 SQ251検出状況(北東→)
4 SQ226検出状況(東→) 5 SQ225検出状況(南西→) 6 SK202完掘状況(西→)
7 SK202底面礫検出状況(西→) 8 SK689確認状況(西→)
- 図版14 1 SK689土層断面状況(北西→) 2 SK463遺物出土状況(南→) 3 SK463遺物出土状況(南東→)
4 SKP580完掘状況(南→) 5 SKP580銭貨出土状況(南西→) 6 SI302確認状況(南西→)
7 SI302完掘状況(南西→) 8 SI302遺物出土状況(南→)
- 図版15 出土遺物(1)
- 図版16 出土遺物(2)
- 図版17 出土遺物(3)
- 図版18 出土遺物(4)
- 図版19 出土遺物(5)
- 図版20 出土遺物(6)
- 図版21 火山灰分析 1 砂分の状況 2 砂分の状況 3 火山ガラス 4 火山ガラス
- 図版22 1 馬歯取り上げ前の状況 2 左上顎臼歯列
- 図版23 1 左下顎臼歯列 2 右下顎臼歯
- 図版24 青銅製品保存処理前・処理後状況・作業工程
- 図版25 青銅品X線透過画像
- 図版26 青銅品元素マッピング画像
- 図版27 樹種同定(1)
- 図版28 樹種同定(2)

調査の経過

調査に至る経緯

一般国道7号象潟仁賀保道路は、にかほ市象潟町小滝から同市両前寺で仁賀保本荘道路に連結する13.7kmの自動車専用道路であり、日本海沿岸地域の交流・連携の促進、国道7号の交通混雑の緩和、災害時の緊急連絡道路の確保、高次医療施設へのアクセス向上等を目的として計画された。

平成19年度に国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所が工事着手し、平成24年度には仁賀保I.Cから金浦I.Cまでの6.9kmが開通し暫定部分の供用が開始された。金浦I.Cから象潟I.Cまでの区間は平成28年度以降の開通が予定されている。

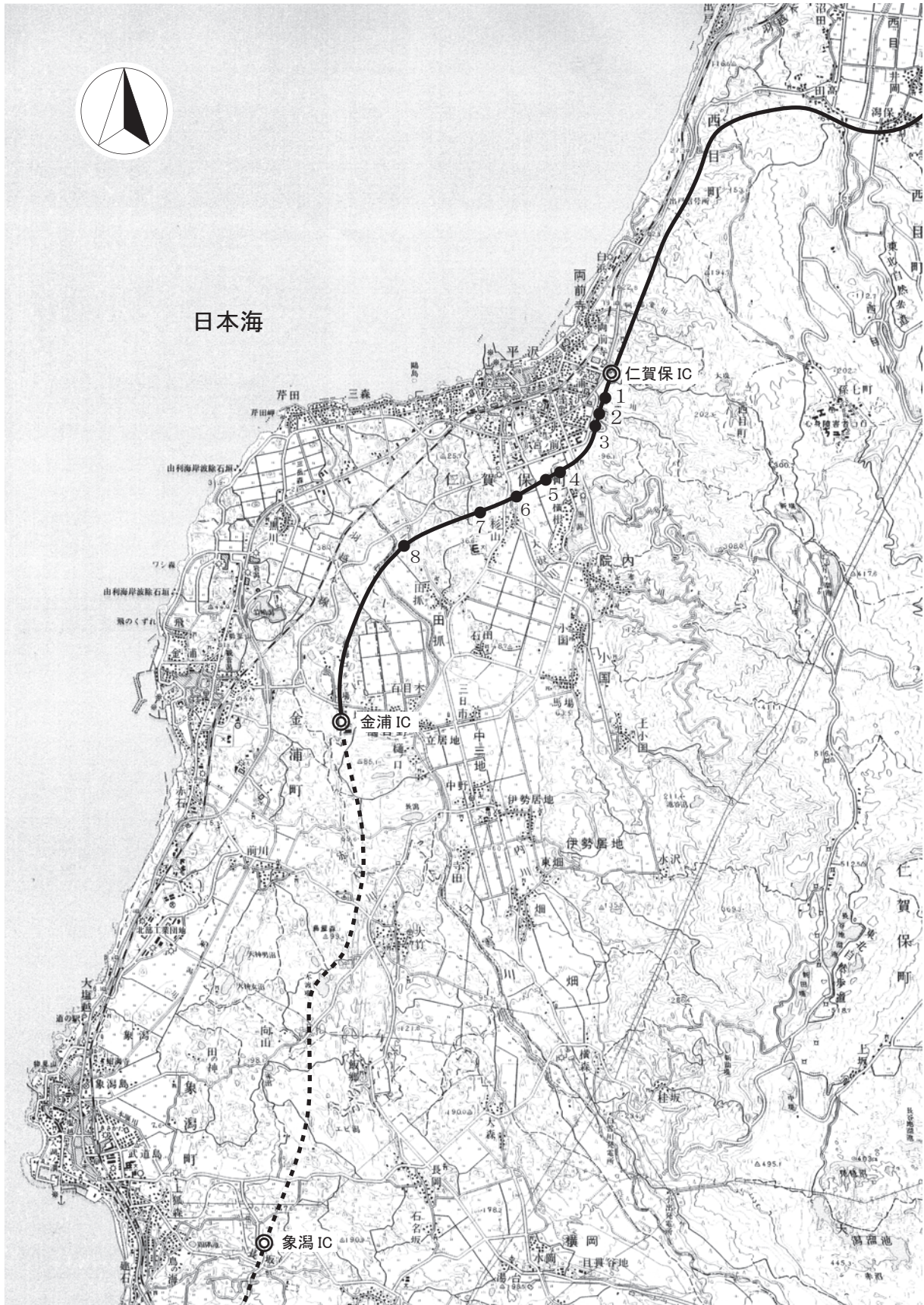
一般国道7号象潟仁賀保道路建設計画路線内には埋蔵文化財が包蔵されている可能性があるため、国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所長より、文化財保護法に基づき、秋田県教育委員会教育長に埋蔵文化財包蔵地の確認と今後の対応について、調査依頼があった。これを受けて秋田県教育委員会は平成18年度から平成23年度まで建設工事予定地内の分布調査を実施した。この結果、計画路線内に新発見の遺跡が8遺跡あることを確認した（第1図）。このため平成23年度に秋田県埋蔵文化財センターが清水尻I遺跡、清水尻II遺跡の確認調査を実施し、秋田県教育委員会は国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所長に工事区域内に清水尻I遺跡600㎡、清水尻II遺跡5,700㎡の発掘調査が必要であることを通知した。同路線は平成24年度に金浦I.Cまでの供用開始が予定されていたため、早急に国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所長と秋田県教育委員会による協議が行われ、同年度に秋田県埋蔵文化財センターが両遺跡の発掘調査を実施することになった。

参考文献

- 秋田県教育委員会『遺跡詳細分布報告書』秋田県文化財調査報告書第439集 2008(平成20)年
秋田県教育委員会『遺跡詳細分布報告書』秋田県文化財調査報告書第446集 2009(平成21)年
秋田県教育委員会『遺跡詳細分布報告書』秋田県文化財調査報告書第456集 2010(平成22)年
秋田県教育委員会『遺跡詳細分布報告書』秋田県文化財調査報告書第465集 2011(平成23)年
秋田県教育委員会『遺跡詳細分布報告書』秋田県文化財調査報告書第475集 2012(平成24)年

発掘調査の経過

平成23年7月4日から11月30日まで実施した発掘調査の経過は次のとおりである。清水尻I遺跡は7月4日～7月22日まで、清水尻II遺跡は7月6日～11月31日の期間行った。なお、本調査に先立ち6月8日から6月10日まで清水尻II遺跡西側微高地の一部区域の立会調査を行っている。



第 1 図 路線と遺跡

【第1週 7月4日～7月8日】

現場事務所及びヤードの環境整備・発掘機材準備等を行い、清水尻Ⅰ遺跡の粗掘り・遺構検出を開始。大型土坑、焼土遺構、溝跡等を検出した。6日からは清水尻Ⅱ遺跡の南端から粗掘りを開始した。

【第2週 7月11日～7月15日】

清水尻Ⅰ遺跡は遺構検出・精査を進める。清水尻Ⅱ遺跡は粗掘りと並行して遺構検出・精査を開始した。また、調査前から確認していた塚状の高まりの平板測量を行った。

【第3週 7月18日～7月22日】

清水尻Ⅰ遺跡は遺構検出・精査を進める。新たに調査区北東部の遺物包含層下から畝状遺構と道路状遺構を検出した。22日で調査は終了し、機材の撤収を行った。清水尻Ⅱ遺跡は粗掘りを行った。

【第4週 7月25日～7月29日】

清水尻Ⅰ遺跡の調査が終了したため、清水尻Ⅱ遺跡の調査専従体制をとる。調査区南～中央部の粗掘り、遺構検出・精査作業を進める。新たに焼土遺構、道路側溝跡を検出した。

【第5週 8月1日～8月5日】

調査区中央部の粗掘り、遺構検出作業を進める。新たに焼土遺構、土坑、集石遺構等を検出した。

【第6週 8月8日～8月12日】

調査区中央～北部の粗掘りと遺構検出作業を行う。

【第7週 8月18日～8月19日】

雨天・荒天のため、遺物集中区に存在する杉根等の抜根・除去作業を行う。

【第8週 8月22日～8月26日】

調査区北部の粗掘り、調査区中央部の遺構検出作業を行う。新たに焼土遺構、土坑等を検出した。

【第9週 8月29日～9月2日】

調査区中央部の遺構検出・精査作業を行う。中央西部の古代の包含層中から青銅製品の破片が出土した。31日、秋田県立博物館解説員14人が研修のため来跡。発掘実習・遺物洗浄実習を行った。

【第10週 9月5日～9月9日】

調査区北側の粗掘り、調査区中央～南部の遺構検出・精査作業を行う。遺構は新たに焼土遺構、道路側溝跡、竪穴状遺構等を検出した。

【第11週 9月12日～9月16日】

調査区北部の粗掘り、調査区中央～南部の遺構検出・精査作業を行う。道路状遺構の下位面から焼土遺構を新たに検出した。このことから遺構面が最低2面あることが分かった。

【第12週 9月20日～9月22日】

20日、21日は荒天のため、調査区北部の粗掘りと抜根作業に専念した。22日は調査区南部の遺構検出作業、遺構平面図作成作業を行った。

【第13週 9月26日～9月30日】

調査区北部の粗掘り、中央～南部の遺構検出・精査作業、東部の包含層掘り下げを行う。29日、高所作業車を用いて遺構確認状況全景写真撮影を行った。

【第14週 10月3日～10月7日】

調査区中央部の遺構検出・精査作業を行う。中央やや北寄りでは古代の盛土整地を確認した。この

調査の経過

整地上面から竪穴建物跡や焼土遺構を検出した。

【第15週 10月11日～10月14日】

調査区中央部の遺構検出・精査作業を行う。精査中の竪穴建物跡から美濃産の丸皿が出土したため、16世紀代の構築と判明した。

【第16週 10月17日～10月21日】

調査区中央～南側の遺構検出・精査作業を行う。

【第17週 10月24日～10月28日】

調査区全域の粗掘りが終了。さらに調査区中央から南側の遺構検出・精査作業を行った。精査中の竪穴建物跡の多くが出土遺物により中世末から近世初頭の構築であることが判明した。

【第18週 10月31日～11月4日】

調査区北西部の沢状地形部、調査区中央から南側の遺構検出・精査作業を行った。古代の盛土整地下から竪穴建物跡を検出した。調査区南端部の地山直上面から十和田a火山灰の二次堆積を確認した。

【第19週 11月7日～11月12日】

調査区北西部の沢状地形部、調査区中央から南側の遺構検出・精査作業を行った。先週検出した火山灰より下層で道路側溝跡を確認した。11日、航空写真撮影を行う。12日、遺跡見学会開催。

【第20週 11月14日～11月19日】

調査区北部の遺構検出・精査作業、調査区中央から南側の遺構検出・精査作業を行った。19日、秋田県埋蔵文化財センター主催のバスツアー一行が見学のため来跡。

【第21週 11月21日～11月25日】

調査区北部の遺構検出・精査作業、調査区中央から南側の遺構検出・精査作業を行った。調査区中央西側で検出したテラス状遺構底面の焼土遺構内から土師器・須恵器が出土し、古代の構築と確定した。

【第22週 11月28日～11月30日】

最後の遺構精査を行い調査区全域の精査を完了した。28日、国土交通省秋田河川国道事務所への現場引き渡し。30日、機材を片付け現場を撤収する。地元教育委員会へ終了の報告を兼ね挨拶を行った。

整理作業の経過

整理作業は、発掘調査終了後に秋田県埋蔵文化財センターで行った。出土遺物は、洗浄・注記・分類・接合を行った後、実測と採拓を行った。検出遺構については、調査で記録作図した実測図を基に第2原図を作成した。次に遺物の実測図と遺構の第2原図をトレースして挿図を、また遺物の写真撮影を行って遺物の図版を作成した。その後、割付と編集を行って報告書を刊行した。

なお、清水尻Ⅰ遺跡から採取した土壌分析をパリノサーヴェイ株式会社へ委託した。また、清水尻Ⅱ遺跡から出土した石器の一部は株式会社アルカへ実測委託した。さらに、炭化物の樹種同定及び放射性炭素年代測定を株式会社加速器研究所へ、出土した黒曜石の産地同定をパレオ・ラボへ、火山灰の同定と出土した青銅製品の保存処理と分析をパリノサーヴェイ株式会社へ、金属製品の分析と保存処理を吉田生物研究所へそれぞれ委託した。

遺跡の位置と環境

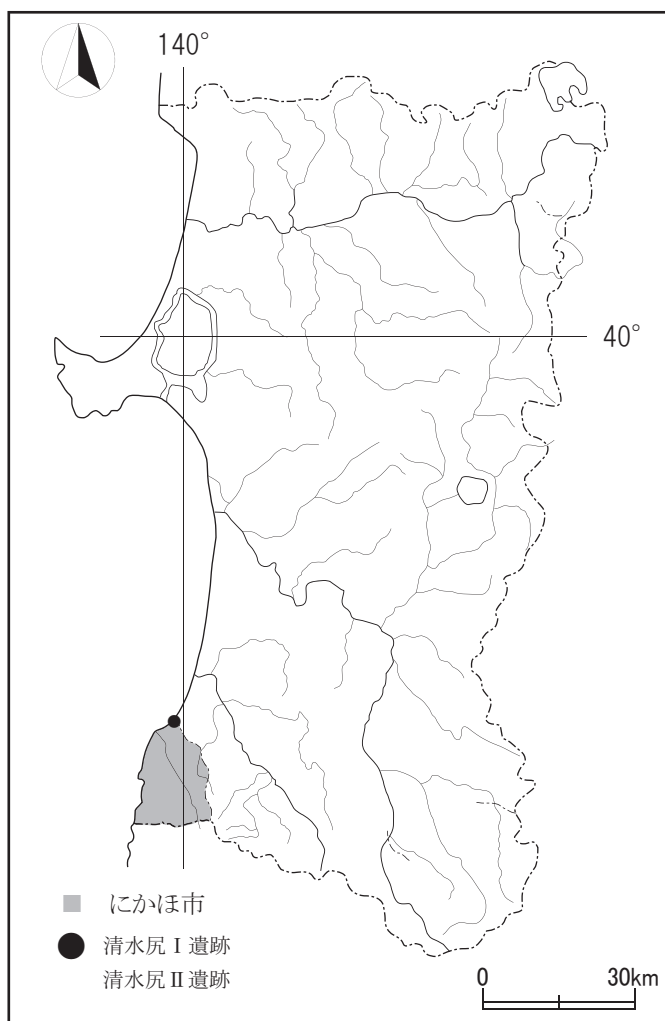
地理的環境

清水尻Ⅰ遺跡、清水尻Ⅱ遺跡が所在するにかほ市は、秋田県の南西部に位置する。平成17年10月、仁賀保町、金浦町、象潟町の三町が合併し、現在のにかほ市が誕生した。北側から東側にかけて由利本荘市と、南側は山形県飽海郡遊佐町と接し、西側は日本海に面しており、その面積は240km²である。南東には独立峰の標高2,236mの鳥海山がそびえ、これを扇の要とし扇状に市域が広がり、日本海に向かって規則的に高度を下げ傾斜する地勢である。

清水尻Ⅰ遺跡は旧仁賀保町の平沢地区に所在し、JR仁賀保駅から南東へ0.8kmの北緯39度17分1秒、東経139度58分18秒に、清水尻Ⅱ遺跡は清水尻Ⅰ遺跡から南200mの北緯39度17分11秒、東経139度58分24秒に位置している（第2図）。

にかほ市の地形は山地・丘陵、台地、低地であるが鳥海山の近傍に位置していることにより、その形成は主として火山活動に起因している。山地・丘陵は東部と南部に分布している（第3図）。東部の丘陵は非火山性の南北に延びる仁賀保丘陵（Ⅰa）であり、南部の山地は火山性の鳥海火山地（Ⅰb）である。台地は火山性と非火山性のものが存在する。火山性台地は古期のものから鳥海火山噴出物台地（Ⅱa）、小滝泥流台地（Ⅱb）、象潟泥流台地（Ⅱc）に区別される。非火山性台地には古期扇状台地（Ⅱd）と古期砂丘台地（Ⅱe）がある。低地は仁賀保沖積低地（Ⅲa）、象潟沖積低地（Ⅲb）、本郷沖積低地（Ⅲc）、横岡新期扇状地（Ⅲd）、仁賀保新期扇状地（Ⅲe）、象潟新期砂丘地（Ⅲf）に区別される。これらのうち、ⅢaとⅢdは象潟泥流台地上に白雪川が沖積作用が形成した低地であり、Ⅲfはかつての象潟湖が文化元年（1804年）の地震によって隆起し、出現した低地である。

両遺跡は日本海江線まで1.2kmの仁賀保丘陵地（Ⅰa）の西側縁辺部に立地する。この丘陵縁辺

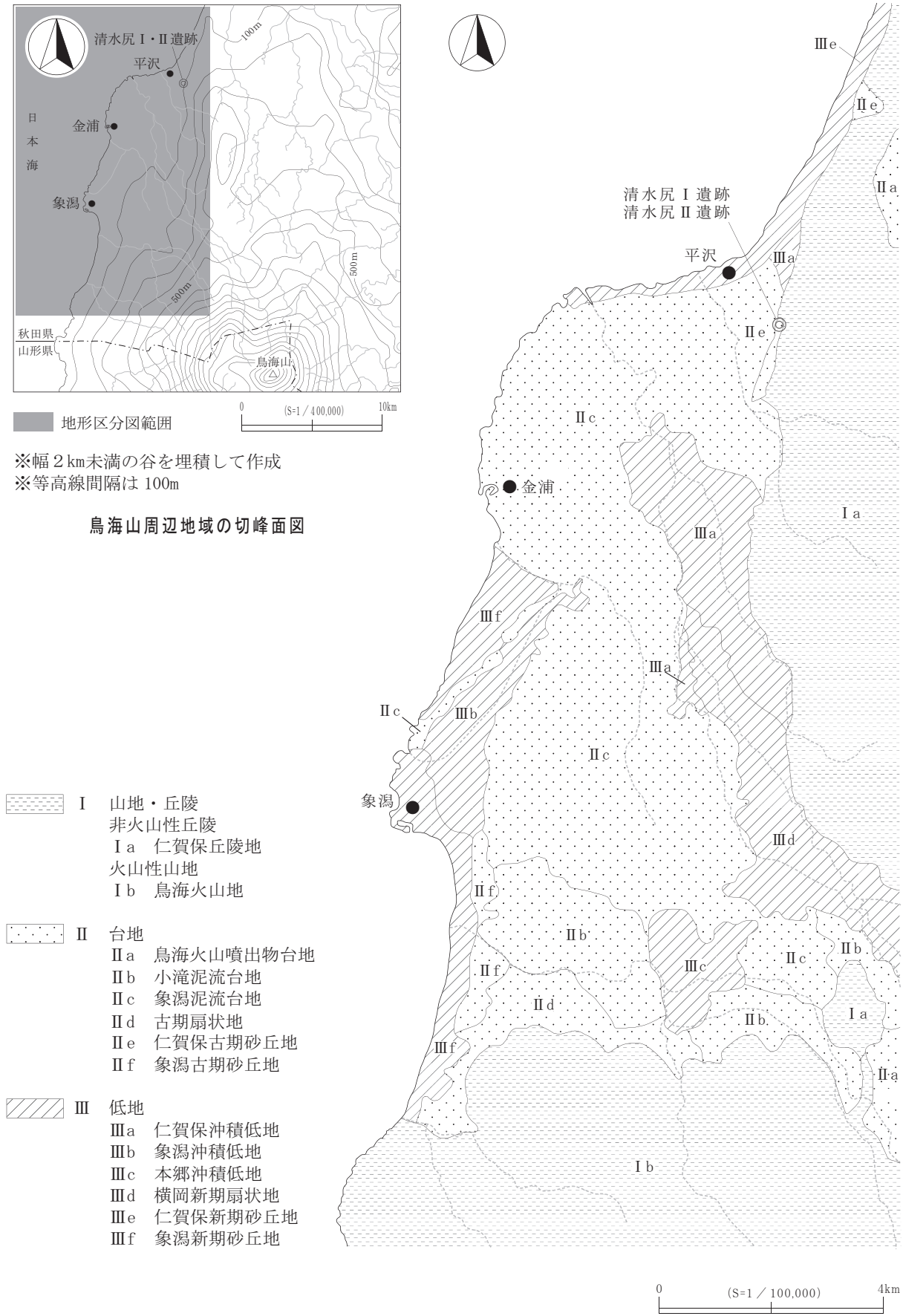


第2図 遺跡位置図

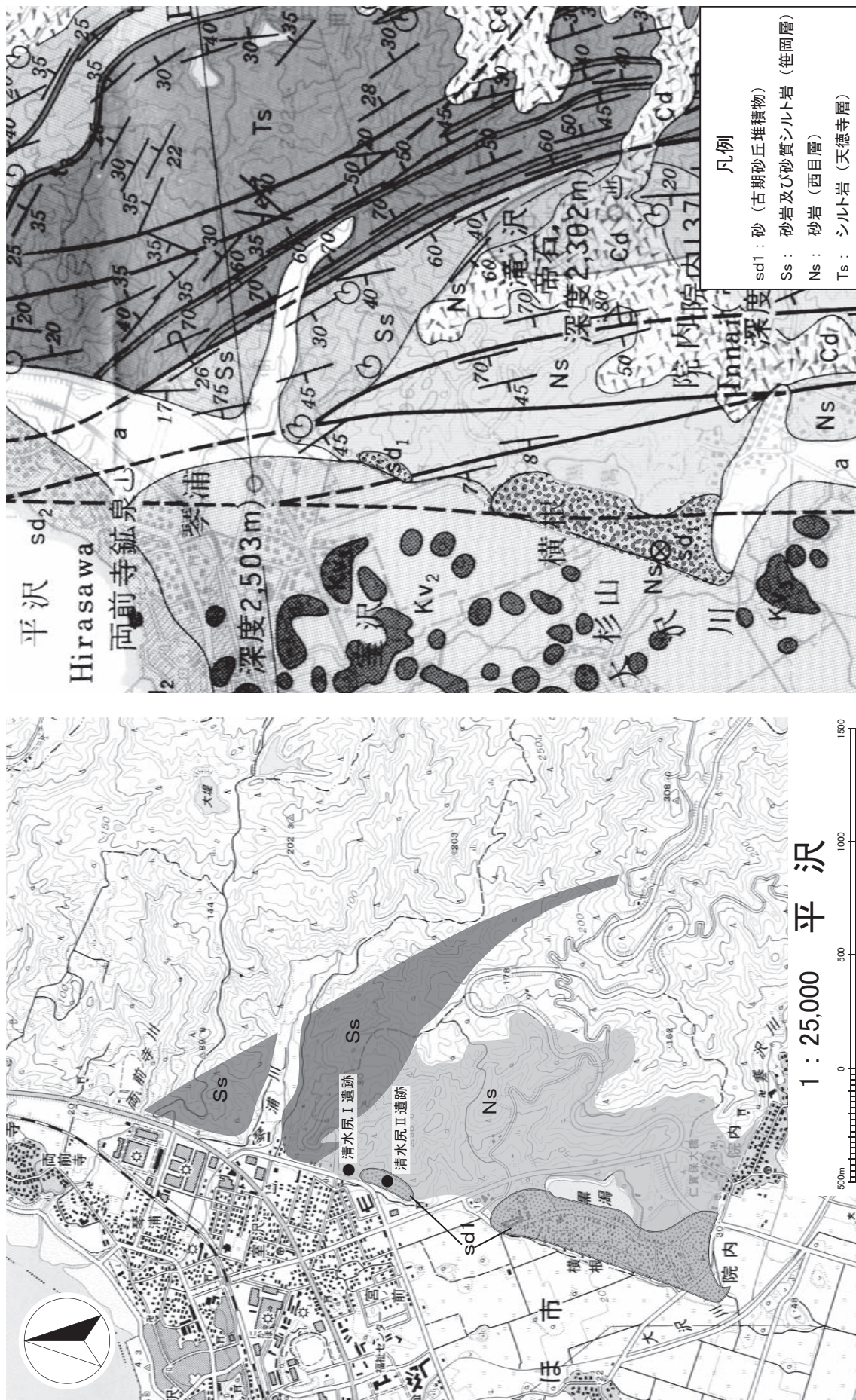


※幅 2 km 未満の谷を埋積して作成
 ※等高線間隔は 100m

鳥海山周辺地域の切峰面図



第 3 図 遺跡周辺の地形区分図



第4図 遺跡周辺の地質分類図

部は主に砂岩からなる西目層（第四系最下位）で構成されるが、最縁辺部には西目層を不整合に被覆する仁賀保古期砂丘地（Ⅱe）が帯状・断続的に分布する。古期砂丘中に挟み込まれていた泥炭の14C年代は7700±210yrBPと示されている。一方、古期砂丘地より低位の微高地・沖積面は紀元前466年とされる鳥海山の山体崩壊に伴う泥流堆積物・泥流丘（Mh）で広く覆われている。清水尻Ⅰ遺跡は、この古期砂丘上に立地し、標高は約24mである。清水尻Ⅱ遺跡は標高14～23mの丘陵地、15～18mの古期砂丘面、約12mの微高地にまたがって立地している。

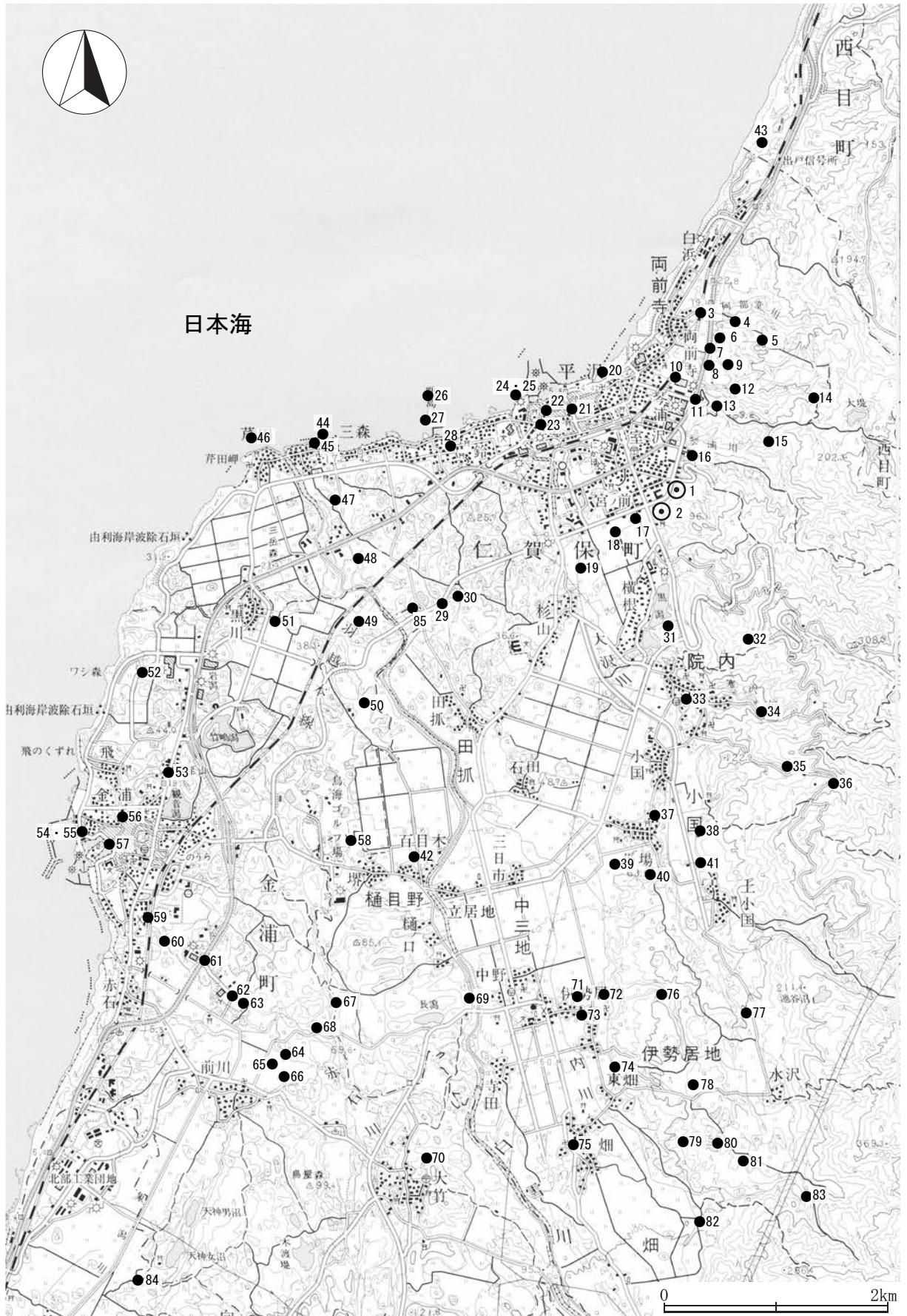
歴史的環境

清水尻Ⅰ遺跡、清水尻Ⅱ遺跡は、いずれも古代を中心とする遺跡であるが、後者では他に弥生時代、中世、近世初頭の遺構・遺物が出土している。本遺跡の周辺に所在する縄文時代から近世までの遺跡について概観する。なお、遺跡名の次の（ ）内の数字は、第5図と第1表の表示番号に対応している。

遺跡周辺の弥生時代以前の様相は、紀元前466年に発生した鳥海山の山体崩壊の際に押し寄せた岩屑なだれによって、台地上にあった遺跡を覆ってしまったため、あまり明らかになっていない。この岩屑なだれから免れ、現在確認されている縄文時代の遺跡に黒瀉遺跡（31）、下岩ノ沢遺跡（40）、上小国遺跡（41）、前川谷地中遺跡（65）、鹿島台遺跡（66）、高田遺跡（47）、岱山Ⅰ遺跡（80）、岱山Ⅱ山遺跡（79）、岱山Ⅲ遺跡（81）がある。このうち、下岩ノ沢遺跡からは陥し穴が見つかった。また、前川谷地中遺跡・鹿島台遺跡からは中期、高田遺跡からは晩期の土器片がそれぞれ出土している。弥生時代の遺跡は両遺跡の周辺では見つかっていない。

古代になると、この地域は律令制下に組み込まれ、出羽国飽海郡に属していた。『延喜式』によれば蚌方（象潟）駅が置かれ、秋田城へ続く駅路が設けられていた。古代の遺跡は下岩ノ沢遺跡（40）、立沢遺跡（10）、前田表遺跡（4）、前田表Ⅱ遺跡（3）、家ノ浦遺跡（7）、家ノ浦Ⅱ遺跡（8）、阿部館遺跡（9）、横枕遺跡（11）、猿田遺跡（43）等がある。下岩ノ沢遺跡からは竪穴建物跡3棟と土坑7基が検出され、土坑内からは精錬滓や鍛冶滓が出土していることから製鉄に関連する集落と考えられている。立沢遺跡からは掘立柱建物跡や製塩遺構等が見つかっていて、出土遺物には土師器・須恵器のほか緑釉陶器や円面硯が出土し、一般集落ではなく官衙との関係を持つ遺跡であると考えられる。この立沢遺跡の周辺には古代の遺跡が多く存在し、近年の発掘調査によってその様相が徐々に明らかになってきている。水路・板塀に画された祭祀場である前田表Ⅱ遺跡、鍛冶関連の工房跡と集石遺構が検出された前田表遺跡、「中將」と記された木簡や石帯の丸靱、風字硯等が出土した家ノ浦遺跡、鍛冶関連の工房や水場の祭祀遺構が見つかり、緑釉陶器・灰釉陶器や墨書土器が出土し、水辺の祭祀が行われていた家ノ浦Ⅱ遺跡、9世紀代の溝跡を検出した阿部館遺跡等がある。これらの遺跡が集中する両前寺地区は、古代における当地域の政治的な中心地であると考えられる。なお、清水尻Ⅰ遺跡、清水尻Ⅱ遺跡はこの両前寺地区から南約1.2kmに位置している。

中世の遺跡では山根館跡（34）、安倍館跡（5）、鴻ノ巣館（16）、平沢館跡（23）、美濃輪館跡（48）、



第5図 周辺遺跡位置図

遺跡の位置と環境

番号	遺跡地図番号	遺跡名	種別	主な遺構・遺物	備考
1	214-35-66	清水尻Ⅰ	集落跡	畑畝跡・溝跡・焼土遺構・土師器・須恵器	
2	214-35-67	清水尻Ⅱ	集落跡	竪穴建物跡・道路状遺構・テラス状遺構・焼土遺構・溝跡	
3	214-35-57	前田表Ⅱ	集落跡	溝跡・柵列・土師器・須恵器	
4	214-35-36	前田表	集落跡	竪穴建物跡・集石遺構・土器埋設遺構・焼土遺構	
5	214-35-30	安倍館	館跡	空堀	
6	214-35-15	阿部堂	遺物包含地	古銭（開元通寶・宗元通寶等）360枚	
7	214-35-61	家ノ浦	集落跡	掘立柱建物跡・竪穴建物跡・井戸跡・焼土遺構	
8	214-35-65	家ノ浦Ⅱ	集落跡		
9	214-35-68	阿部館	集落跡	掘立柱建物跡・大溝跡・井戸跡・土坑墓・柵列・鍛冶関連遺構	
10	214-35-34	立沢	集落跡	掘立柱建物跡・土師器・須恵器・緑釉陶器・円面硯・製塩土器	
11	214-35-62	横枕	集落跡	掘立柱建物跡・竪穴建物跡・溝跡・土器埋設遺構・焼土遺構	
12	214-35-16	旧熊野神社	寺院跡	鉄滓・羽口	
13	214-35-48	出ヶ沢	遺物包含地	土師器・須恵器	
14	214-35-49	須郷谷地	遺物包含地	鉄滓	
15	214-35-17	旧雄野寺	寺院跡		
16	214-35-39	鴻ノ巢館	館跡	空堀	
17	214-35-59	上谷地Ⅰ	遺物包含地		
18	214-35-60	上谷地Ⅱ	集落跡	掘立柱建物跡・溝跡・柵列・土師器・須恵器	
19	214-35-58	新脇田	遺物包含地		
20	214-35-13	平沢・琴浦境の立石	境界石		
21	214-35-39	仁賀保家陣屋	陣屋跡	空堀	
22	214-35-12	建武碑Ⅱ	板碑		
23	214-35-53	平沢館	館跡		
24	214-35-10	丁刃森方角石	方角石		
25	214-35-11	建武碑Ⅰ	板碑		
26	214-35-6	古兵井戸	井戸跡	井戸跡	
27	214-25-5	淀切不動	磨崖仏		
28	214-35-7	千石家陣屋	陣屋跡	石垣	
29	214-35-8	法界寺	寺院跡	郭状遺構・土師器・須恵器	
30	214-35-9	高寺	遺物包含地	石垣・土師器・須恵器	
31	214-35-52	黒湯	遺物包含地	縄文土器・土師器・須恵器	
32	214-35-18	七高神社	寺院跡		
33	214-35-50	南野	遺物包含地	土師器・須恵器・陶器	
34	214-35-②	山根館	館跡	郭状遺構・空堀・土壘・礎石・陶磁器	県指定史跡
35	214-35-40	研石	遺物包含地	鉄滓・羽口	
36	214-35-41	十文字	遺物包含地	鉄滓	
37	214-35-33	細久保	遺物包含地	鉄滓・羽口	
38	214-35-19	八森屋敷	遺物包含地	鉄滓	
39	214-35-38	丸山館	館跡		
40	214-35-35	下岩ノ沢	集落跡	竪穴建物跡・縄文土器・土師器・須恵器	
41	214-35-51	上小国	遺物包含地	石鏃	
42	214-35-32	待居館	館跡		
43	214-41-6	猿田	遺物包含地	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・製塩土器	
44	214-35-4	恵比須森方角石	方角石		
45	214-35-3	山王森方角石	方角石		
46	214-35-2	高磯森砲台	砲台跡		
47	21-35-52	高田	遺物包含地	縄文土器（晩期）	
48	214-35-37	美濃輪館	館跡	土壘	
49	214-36-3	普断寺	寺院跡	宝篋印塔	
50	214-36-4	八幡	遺物包含地	土師器・須恵器	
51	214-36-5	黒川館	館跡		
52	214-36-6	釜木森	集落跡		
53	214-36-12	掃除丁場（南）（北）	境界石		
54	214-36-8	港島御台場	御台場跡		
55	214-36-9	港島方角石	方角石		
56	214-36-10	金浦役所	役所跡		
57	214-36-11	金浦御蔵屋敷	屋敷跡		
58	214-35-20	梵字石	磨崖仏		
59	214-36-13	金浦谷地中	遺物包含地	土師器・須恵器	
60	214-36-14	赤石館	館跡		
61	214-36-15	館ヶ森	遺物包含地	土師器・須恵器	
62	214-36-16	金沢	遺物包含地	土師器・須恵器	
63	214-36-17	屋敷森	遺物包含地	土師器・須恵器	
64	214-36-20	菟森	遺物包含地	土師器・須恵器	
65	214-36-19	前川谷地中	遺物包含地	縄文土器（中期）	
66	214-36-18	鹿島台	遺物包含地	縄文土器（中期）	
67	214-35-22	中山	遺物包含地	土師器・須恵器・鉄滓	
68	214-35-54	中山館	館跡		
69	214-35-21	中野道標	道標石		
70	214-36-22	前谷地道標石	道標石		
71	214-35-43	生駒陣屋敷	陣屋跡		
72	214-35-24	延命地藏尊裏経塚	経塚	経文石	
73	214-35-25	伊勢居地道標	道標石		
74	214-35-26	平太屋敷	寺院跡		
75	214-35-29	畑道標	道標石		
76	214-35-31	栗山館	館跡	空堀	
77	214-35-42	クラカケ	遺物包含地	鉄滓	
78	214-35-27	水沢道標	道標石		
79	214-35-44	岱山Ⅱ	遺物包含地	縄文土器	
80	214-35-43	岱山Ⅰ	遺物包含地	石鏃・石匙	
81	214-35-45	岱山Ⅲ	遺物包含地	縄文土器	
82	214-35-28	天狗平館	館跡		
83	214-35-46	程ヶ沢	遺物包含地	鉄滓	
84	214-37-22	十二林	集落跡	礎石・石垣・井戸跡	
85	214-35-64	六日市	集落跡	竪穴建物跡・溝跡・土師器・須恵器・鍛冶滓	

第1表 周辺遺跡一覧表

待居館跡（42）、黒川館跡（51）、丸山館跡（39）、赤石館跡（60）、中山館跡（68）、栗山館跡（76）、天狗平館跡（82）等の中世城館が多く確認されている。県指定史跡である山根館跡は、古くは由利氏の居城として使用されたという伝承を持ち、その後250年ほど過ぎて仁賀保氏が135年間居城し、1602年に仁賀保氏の常陸武田への転封とともに廃城している。出羽丘陵の西へ舌状に突き出した台地に位置し、20以上の郭が主郭を守っている。主郭からは土塁・空堀、石塁、礎石建物跡等が検出している。また、出土遺物には、中国龍泉窯産の青磁、中国景德鎮産の染め付け、美濃産の施釉陶器、越前産の陶器等がある。

近世の遺跡には仁賀保家陣屋（21）、千石家陣屋（28）、生駒陣屋敷（71）、金浦御蔵屋敷（57）等の屋敷跡がある。仁賀保氏の転封後は最上義光領となった由利郡だが、元和8（1622）年に最上氏が改易となり本多正純領となる。しかし、これも翌年改易となり、元和9（1623）年、仁賀保挙誠が平沢以南、庄内藩境に至る1万石を賜り戻ってきた。以降、領土分割・断絶等を経て、平沢に陣屋を置く仁賀保氏が仁賀保郷を治め幕末に至っている。

引用・参考文献

- 秋田県 『土地分類基本調査 象潟・吹浦』 2003（平成15）年
- 仁賀保町教育委員会 『にかほ町史 普及版』 2005（平成17）年
- 仁賀保町教育委員会 『山根館跡―「にかほ史跡の里づくり事業」に係る予備発掘調査報告書』 1999（平成11）年
- 仁賀保町教育委員会 『立沢遺跡発掘調査報告』 1987（昭和62）年
- 仁賀保町教育委員会 『下岩ノ沢遺跡発掘調査報告書』 1986（昭和61）年
- 西目町教育委員会 『猿田遺跡―遺構確認調査報告書』 1994（平成6）年
- 秋田県教育委員会 『家ノ浦遺跡―一般国道7号仁賀保本荘道路建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ―』 秋田県文化財調査報告書473集 2012（平成24）年
- 秋田県教育委員会 『前田表Ⅱ遺跡―一般国道7号仁賀保本荘道路建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ―』 秋田県文化財調査報告書451集 2010（平成22）年
- 秋田県教育委員会 『前田表遺跡―一般国道7号仁賀保本荘道路建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書―』 秋田県文化財調査報告書469集 2011（平成23）年
- 秋田県教育委員会 『阿部館遺跡―一般国道7号仁賀保本荘道路建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ―』 秋田県文化財調査報告書481集 2012（平成24）年
- 秋田県教育委員会 『横枕遺跡―一般国道7号象潟仁賀保道路建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ―』 秋田県文化財調査報告書480集 2012（平成24）年
- 秋田県教育委員会 『上谷地Ⅱ遺跡―一般国道7号象潟仁賀保道路建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ―』 秋田県文化財調査報告書461集 2010（平成22）年
- 秋田県教育委員会 『六日市遺跡―一般国道7号象潟仁賀保道路建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ―』 秋田県文化財調査報告書479集 2012（平成24）年

清水尻 I 遺跡
(6 SMZ I)

第1章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法

計画的な調査の推進と遺構・遺物の検出地点を把握するため、調査区に方眼を設定した。清水尻Ⅱ遺跡と同時に調査を行ったため、測量原点も共通のものとした。国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所が打設した工事用中心杭No. 616を基準とし、清水尻Ⅱ遺跡の調査区中央北寄りに原点MA50（X=-79140.000、Y=-74330.000）を設置した。この杭から世界測地系国家座標X系座標北を求め、このラインを南北基線、これに直交するラインを東西基線とした。

この東西南北に沿って4×4mの区画を設定し、東西方向には西に向かって昇順する2文字のアルファベットを、南北方向には北に向かって昇順する2桁の数字をそれぞれ付した。東西方向に付したアルファベットは、繰り返しとなるA～Tまでの20文字を組み合わせて用いた。このアルファベットと数字の組み合わせからなる記号を各区画の名称とした。なお、区画の杭は4m間隔の東西基線と南北基線の交点すべてに打設し、前記の名称を南東隅の杭に記入した（第2図）。

調査は確認調査の結果に基づき、バックホーにより表土除去を行った。包含層の掘り下げ及び遺構精査は全て手作業で行った。出土した遺物には、遺跡名・出土位置または遺構名・出土層位・出土年月日を記録し、取り上げた。

調査の記録は、平面図・断面図の作成及び写真撮影によった。平面図・断面図の縮尺は1/20を原則とした。写真撮影には35mmモノクロ・カラーリバーサルフィルム及びデジタルカメラを使用した。

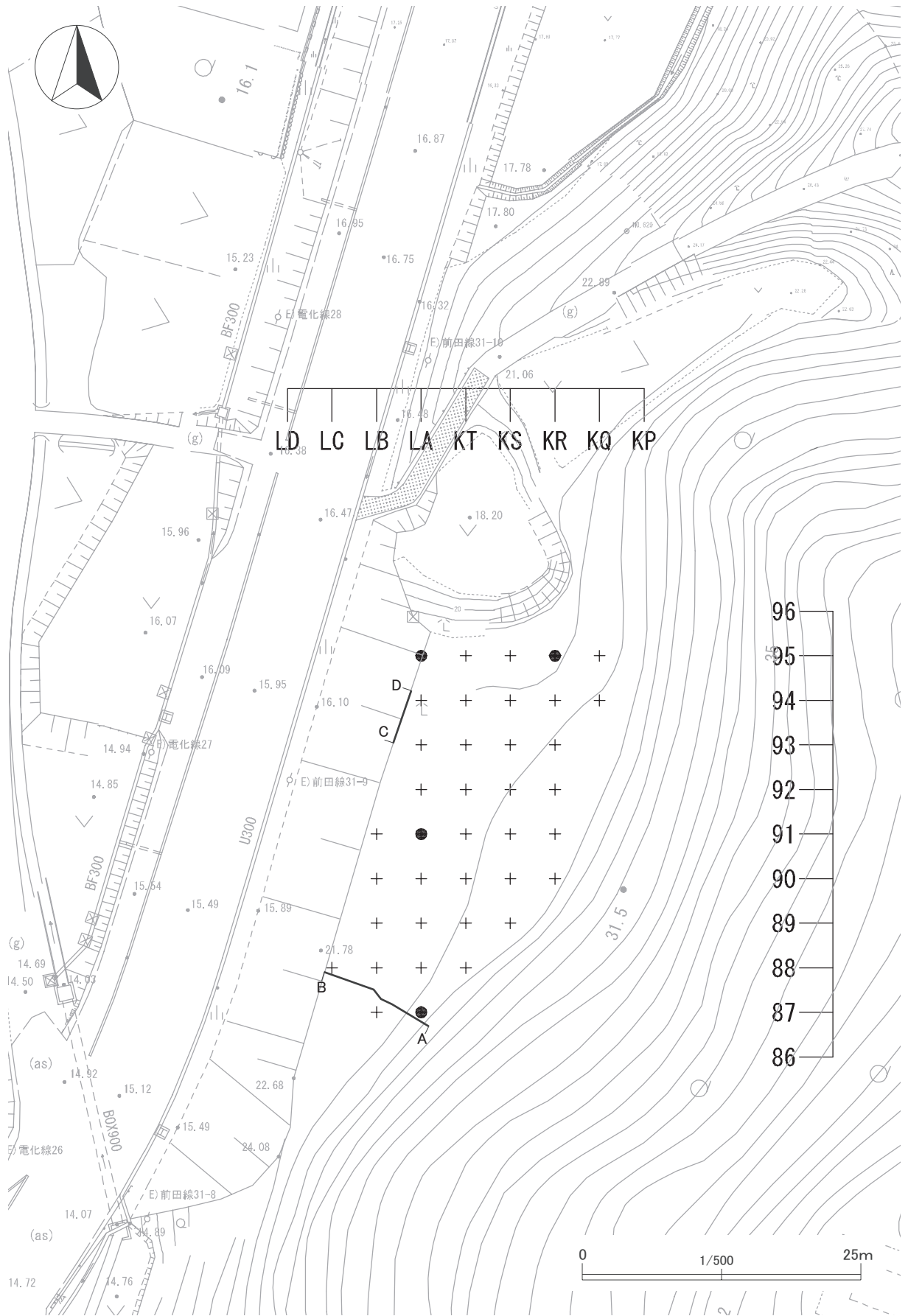
第2節 基本層序

遺跡の基本層序は調査区の南壁及び西壁で観察し、大別して6層に分層した。第Ⅱ層から古代の遺物包含層であり、第Ⅴ層まで遺物を含む。第Ⅵ層は仁賀保古期砂丘であり、地山とした。各層の詳細は以下のとおりである（第3図）。

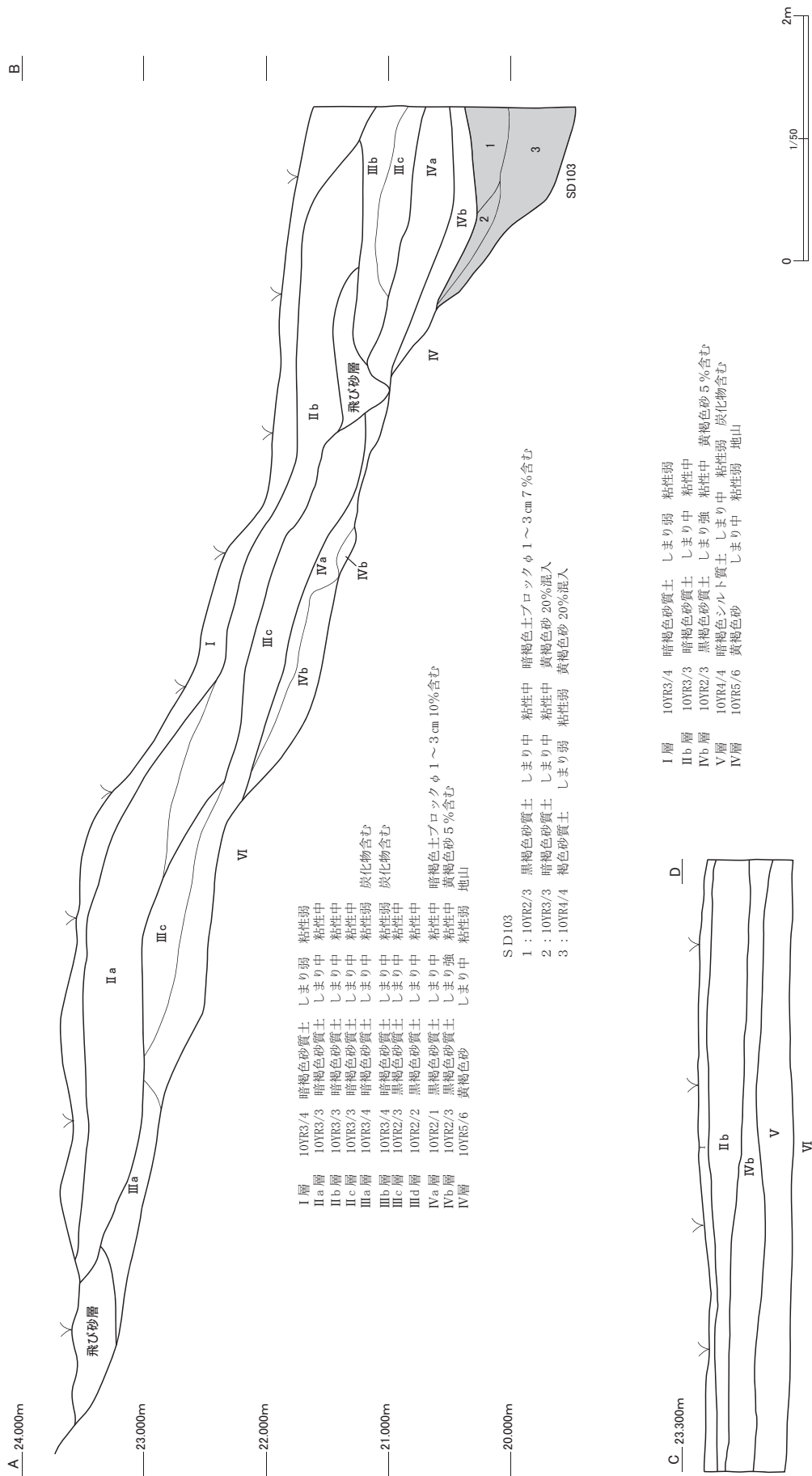
第Ⅰ層	暗褐色（10YR3/4）砂質土	しまり弱	粘性弱	表土
第Ⅱa層	暗褐色（10YR3/3）砂質土	しまり中	粘性中	
第Ⅱb層	暗褐色（10YR3/3）砂質土	しまり中	粘性中	黄褐色砂20%含む
第Ⅲa層	暗褐色（10YR3/3）砂質土	しまり中	粘性中	黄褐色砂10%・炭化物含む
第Ⅲb層	黒褐色（10YR2/3）砂質土	しまり中	粘性中	炭化物含む
第Ⅲc層	暗褐色（10YR3/3）砂質土	しまり中	粘性中	黄褐色砂15%含む
第Ⅳa層	黒色（10YR2/1）砂質土	しまり中	粘性中	暗褐色土塊φ1～3cm10%含む
第Ⅳb層	黒褐色（10YR2/2）砂質土	しまり強	粘性中	黄褐色砂20%含む
第Ⅴ層	褐色（10YR4/4）シルト質土	しまり中	粘性弱	
第Ⅵ層	黄褐色（10YR5/6）砂	しまり中	粘性なし	地山（仁賀保古期砂丘地）



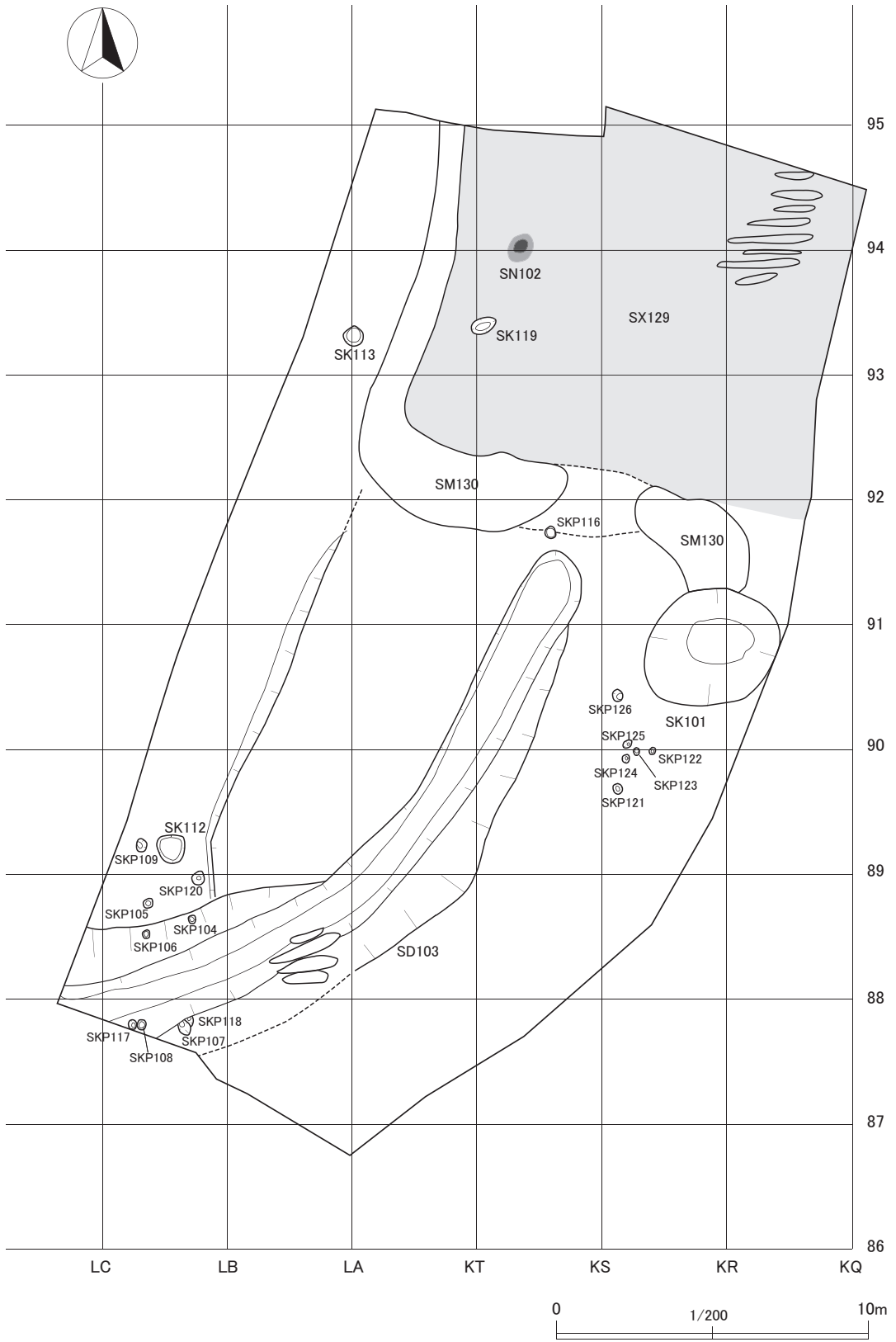
第1図 調査区と周辺地形



第2図 調査区設定と基本層序抽出地点



第3図 遺跡基本層序図



第4図 遺構配置図

第3節 検出遺構と遺物

本調査で検出された遺構は、畑跡1面、道路状遺構1条、焼土遺構1基、溝跡1条、土坑4基、柱穴様ピット17基ですべて平安時代に帰属する（第4図）。出土した遺物は須恵器1,411g、土師器18,511g、製塩土器284g、土製品1点である。

1 検出遺構と出土遺物

(1) 畑跡

SX129（第5図、図版3-1・2）

位置：KT92・93・94・95、KS92・93・94・95、KR92・93・94・95、KQ91・92・93・94に位置する。

規模：面積約143m²（約11m×13m）以上。

確認状況：V層上面にて黒褐色土の広がりとして確認。遺構北東部にて9条の畝状遺構を確認した。

重複遺構：SN102と重複し、本遺構の方が古い。

堆積土：V層を耕作土とし、そこへ畝状遺構が掘り込まれている。耕作土中には炭化物が少量含まれ、土師器小片が出土する。

出土遺物：土師器が44g出土した。

時期：平安時代の9世紀後半～10世紀代。

所見：本遺構から採取した土壌は植物珪酸体分析・微細物分析を行っている。第2章参照。

(2) 溝跡

SD103（第6図、図版3-3・4・5）

位置：KS89・90・91、KT88・89・90、LA88・89、LB87・88に位置する。

規模：長さ22.05m、幅1.40～3.08m、深さ0.55m～1.33m。

確認状況：VI層上面にて黒褐色・暗褐色土の広がりとして確認。

重複遺構：なし。

堆積土：深度が最大となる南側では5層に分けられる。溝の側面下半から底面にかけて硬化がみられ、その痕跡から少なくとも5時期の変遷があり、東から西へ徐々に移動している。

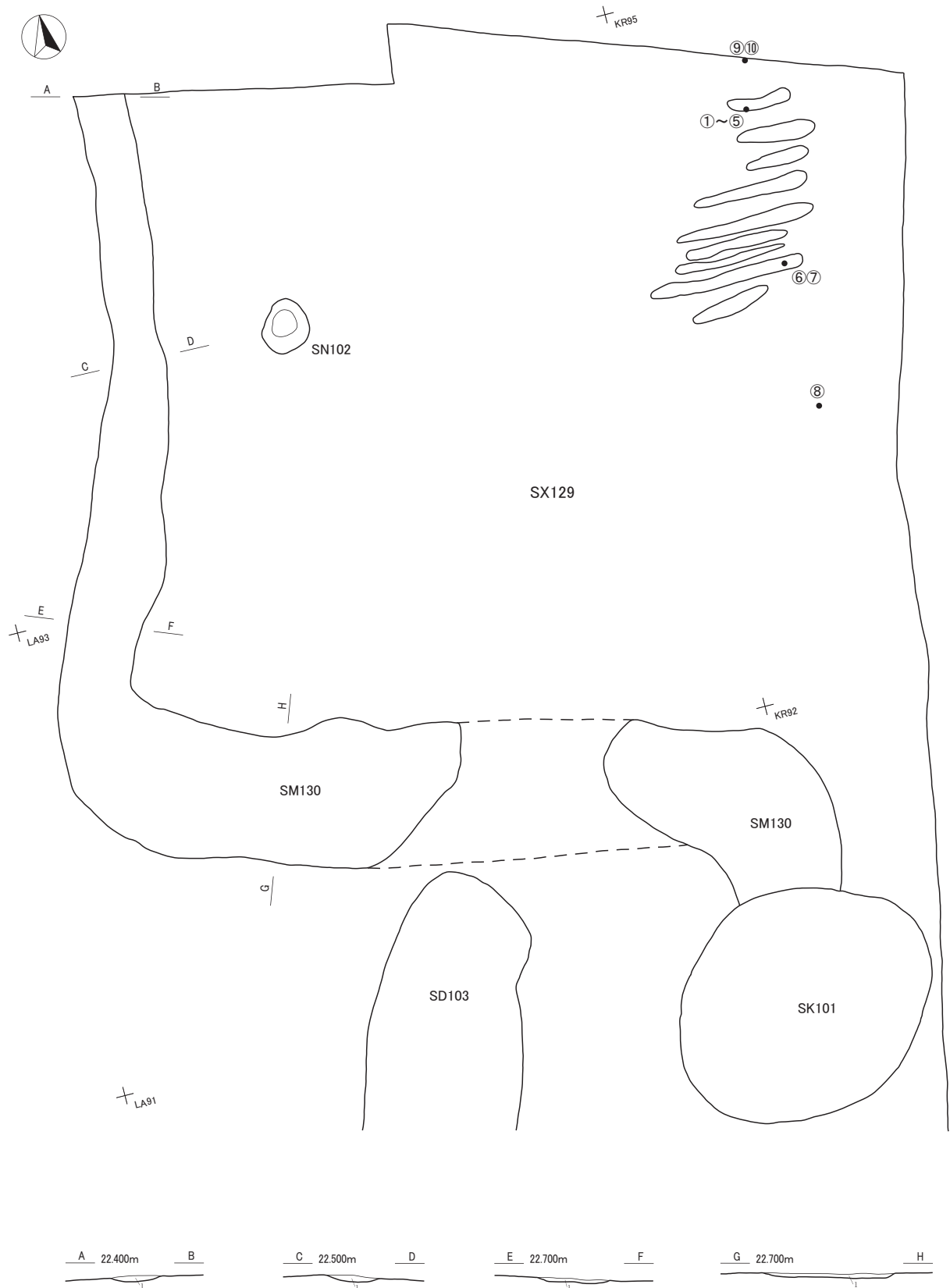
出土遺物：土師器が3,540g出土し、うち3点（第7図）を掲載した。遺物の詳細は第3表へ示す。

時期：出土遺物より、平安時代の9世紀後半～10世紀代。

所見：本遺構に隣接するSKP104・105・106・107・108・109・117・118・120は、その配置から簡易的な橋が架かっていたと考えられる。溝跡の底面から採取した土壌の珪藻分析・粘土鉱物分析を行った。第2章参照。

(3) 道路状遺構

SM130（第5図、図版3-1）

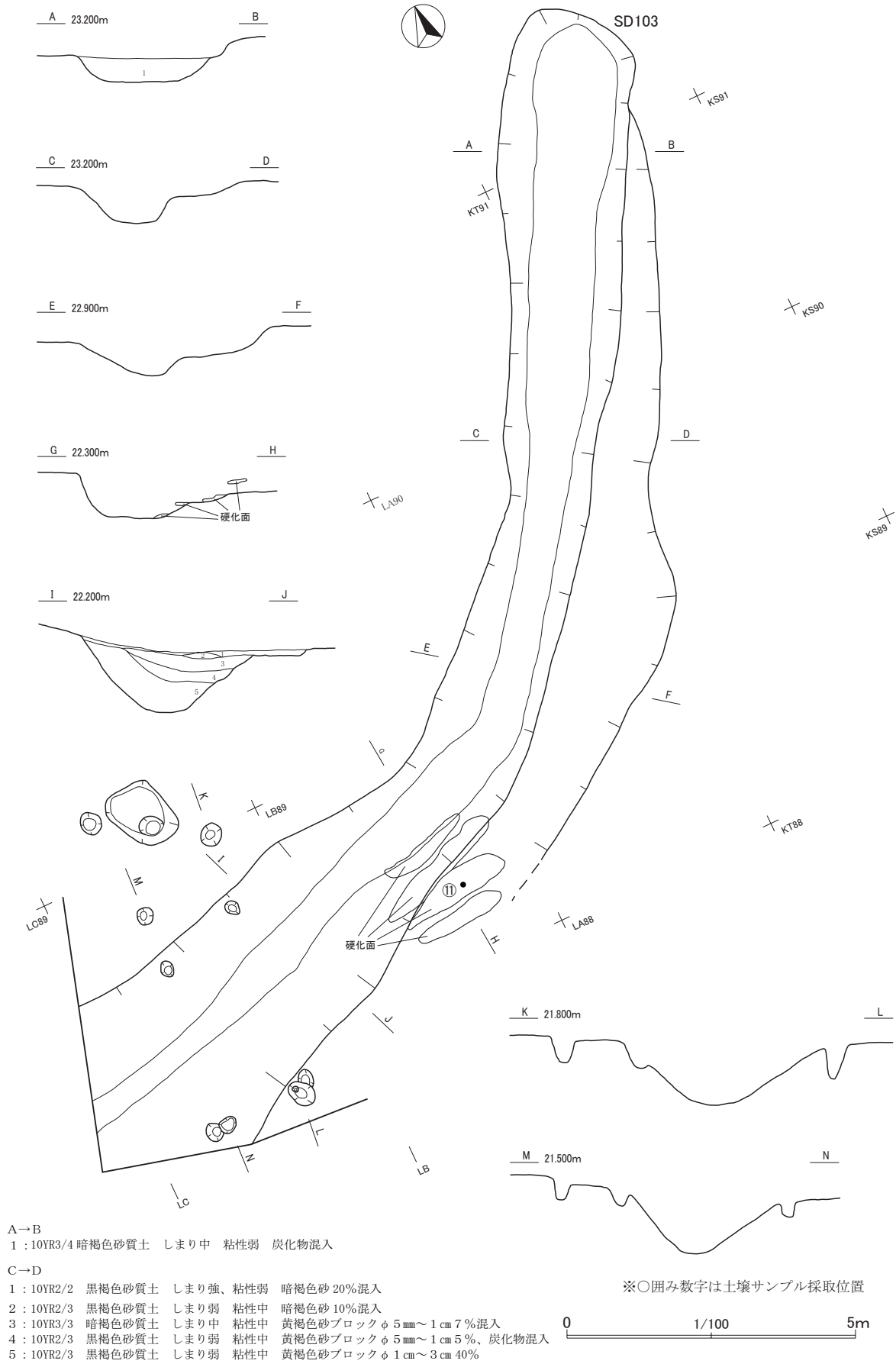


SM130
1: 褐色 (10YR4/6) 砂質土 しまり強 粘性中

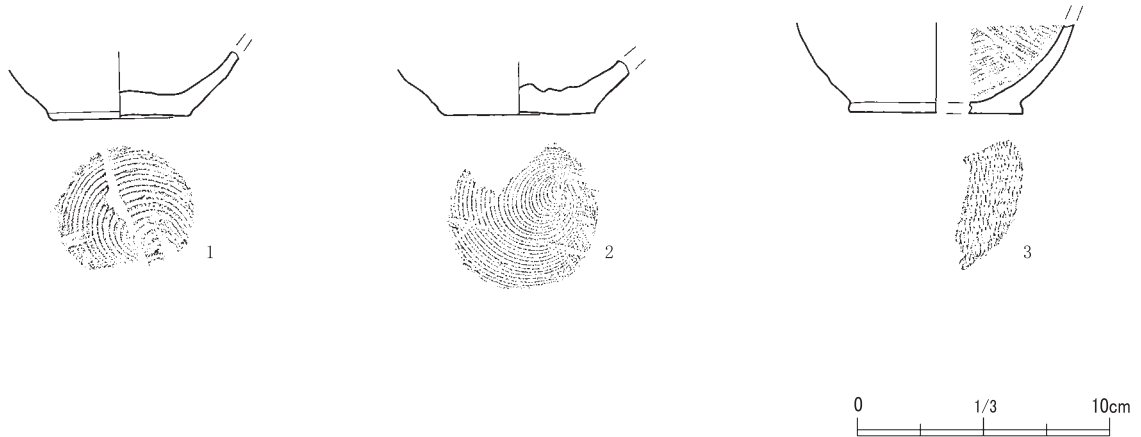
※○囲み数字は土壤サンプル採取位置

第5図 SX129・SM130

第1章 調査の方法と成果



第6図 SD103



第7図 S D 103出土遺物実測図

No.	SKP番号	検出区	平面形	規模 (m)			底面標高 (m)	備考
				長軸	短軸	深さ		
1	104	L B88	楕円形	0.28	0.24	0.13	20.940	
2	105	L B88	円形	0.30	0.28	0.38	20.841	
3	106	L B88	楕円形	0.31	0.21	0.27	20.740	
4	107	L B87	楕円形	0.51	0.35	0.58	20.760	
5	108	L B87	円形	0.32	0.28	0.27	20.545	
6	109	L B89	楕円形	0.42	0.36	0.60	21.030	
7	116	K S91	円形	0.41	0.39	0.25	22.375	
8	117	L B87	不明	0.34	(0.23)	0.53	20.309	
9	118	L B87	不明	(0.35)	(0.26)	0.44	20.790	
10	120	L B88・89	楕円形	0.42	0.37	0.45	21.023	
11	121	K R89	円形	0.35	0.33	0.37	23.379	
12	122	K R89・90	楕円形	0.23	0.20	0.06	23.498	
13	123	K R89・90	楕円形	0.24	0.20	0.08	23.430	
14	124	K R89	楕円形	0.31	0.22	0.09	23.439	
15	125	K R90	楕円形	0.27	0.19	0.03	23.427	
16	126	K R90	円形	0.36	0.34	0.27	22.919	

第1表 SKP観察表 (法量)

No.	SKP番号	堆積土					備考
		色	土性	しまり	粘性	混入物	
1	104	暗褐色 (10YR3/4)	砂質土	中	弱	黄褐色砂10%	
2	105	暗褐色 (10YR3/4)	砂質土	中	弱	黄褐色砂5%	
3	106	暗褐色 (10YR3/4)	砂質土	中	弱	黄褐色砂10%	
4	107	黒褐色 (10YR2/3)	砂質土	弱	弱	黄褐色10%	
5	108	黒褐色 (10YR2/3)	砂質土	弱	弱	黄褐色砂15%	
6	109	暗褐色 (10YR3/4)	砂質土	中	弱	黄褐色砂7%	
7	116	黒褐色 (10YR2/3)	砂質土	弱	中	黄褐色砂3%	
8	117	黒褐色 (10YR2/3)	砂質土	弱	弱	黄褐色砂2%	
9	118	黒褐色 (10YR2/2)	砂質土	弱	弱	黄褐色砂3%	
10	120	暗褐色 (10YR3/3)	砂質土	弱	弱	黄褐色砂5%	
11	121	暗褐色 (10YR3/4)	砂質土	中	弱		
12	122	暗褐色 (10YR3/4)	砂質土	中	中	黄褐色砂5%	
13	123	暗褐色 (10YR3/4)	砂質土	中	中		
14	124	暗褐色 (10YR3/4)	砂質土	中	中		
15	125	暗褐色 (10YR3/4)	砂質土	中	中		
16	126	黒褐色 (10YR2/3)	砂質土	中	中		

第2表 SKP観察表 (堆積土)

位置：K T91・92・93・94・95、K S91・92に位置する。

規模：長さ9.54m、幅0.75～2.55m

確認状況：VI層上面にて硬化するにぶい黄褐色土の広がりとして確認。

重複遺構：なし。

堆積土：厚さ0.05～0.11mのシルト質土が貼られており、部分的に硬化している。

出土遺物：なし。

時期：遺構の配置からS X129と同時期と考えられる。

所見：S X129に伴う道路跡と考えられる。この道路跡は畑跡を囲むようL字に巡り、S K101に到達する。これらは畑とそれに関連する施設であると考えられる。

(4) 焼土遺構

S N102 (第8図、図版3-6)

位置：K S93・94に位置する。

規模：長軸0.95m、短軸0.77m、深さ0.18m、被熱深度0.06m。

形態：平面形は円形である。遺構の中心が被熱しており、その周囲に粘性の強い黄褐色土が巡る。焼土下には土坑状の掘り込みを有する。堆積土の観察から、土坑を掘り、そこに粘性の強い土を入れ、炉を構築したと考えられる。

確認状況：V層上面にて黄褐色と明赤褐色土の広がりとして確認。

重複遺構：S X129と重複しており、本遺構の方が新しい。

堆積土：4層に分けられる。遺構内堆積土は遺構外の土と比べ粘性が強い。

出土遺物：土師器1, 450gが出土し、そのうちの6点(第8図)を掲載した。遺物の詳細は第3表へ示す。第8図5は判読できないが墨書土器である。

時期：出土遺物より10世紀代の遺構である。

(5) 土坑

S K101 (第9図、図版3-7・8)

位置：K Q90・91、K R90・91に位置する。

規模：長軸4.44m、短軸3.70m、深さ1.00m。

形態：平面形は楕円形である。壁の傾きは緩やかで底面は平坦となる播鉢状の断面を呈する。

確認状況：VI層上面にて地山由来砂(黄褐色)を含む黒褐色・暗褐色土の広がりとして確認。

重複遺構：なし。

堆積土：8層に分けられる。自然堆積による埋没である。

出土遺物：須恵器が31g、土師器が46g出土した。

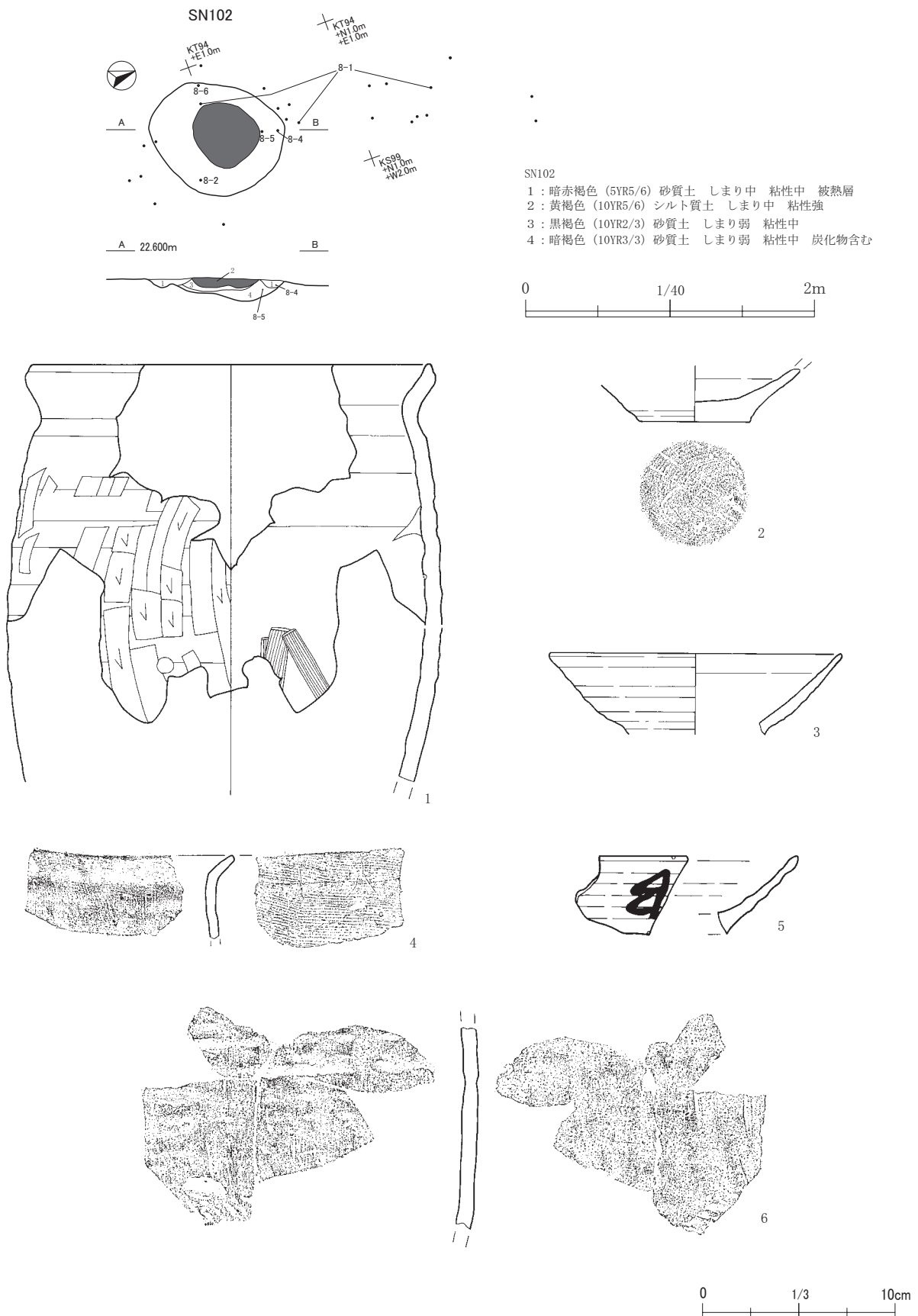
時期：平安時代の9世紀後半～10世紀代。

所見：土坑側面には白色粘土状の付着物が認められ、砂地における貯水施設の可能性がある。この付着物は粘土鉱物分析を行っている。第2章参照。

S K112 (第9図)

位置：L B89に位置する。

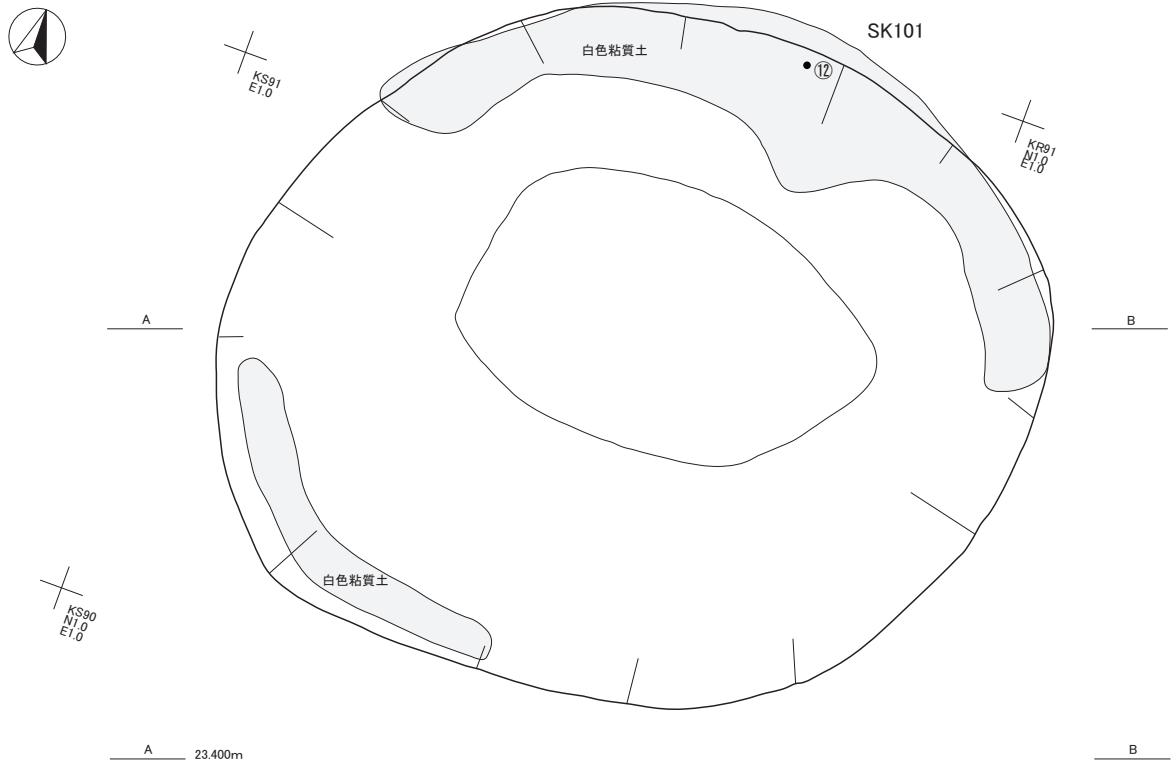
規模：長軸1.32m、短軸1.00m、深さ0.44m。



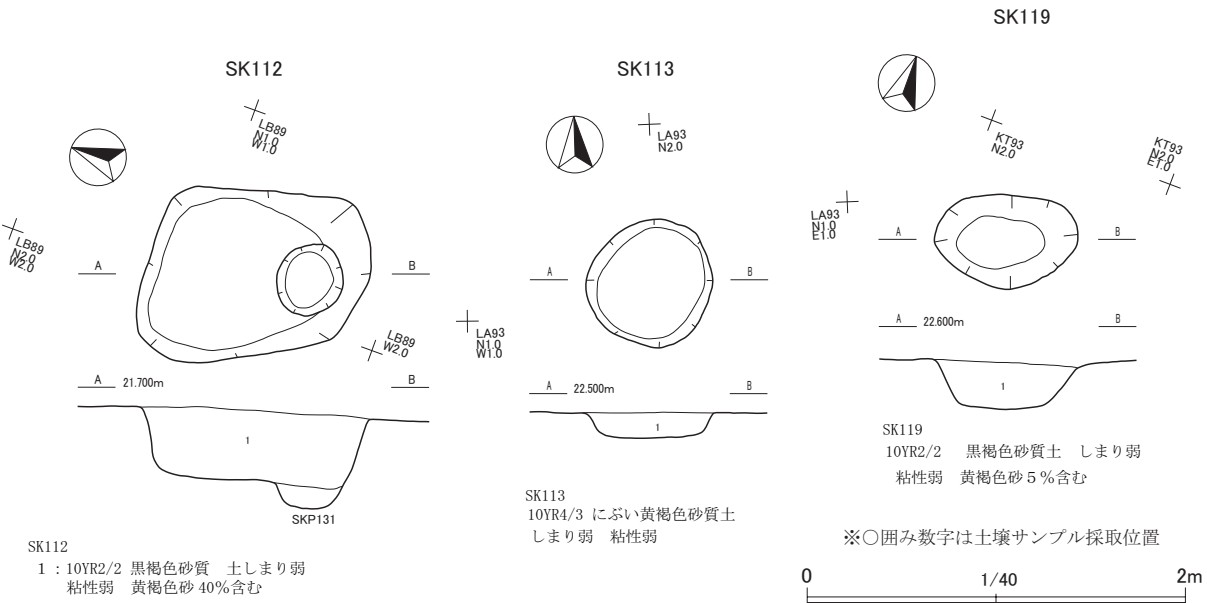
- SN102
- 1: 暗赤褐色 (5YR5/6) 砂質土 しまり中 粘性中 被熱層
 - 2: 黄褐色 (10YR5/6) シルト質土 しまり中 粘性強
 - 3: 黒褐色 (10YR2/3) 砂質土 しまり弱 粘性中
 - 4: 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土 しまり弱 粘性中 炭化物含む

第8図 SN102と出土遺物実測図

第1章 調査の方法と成果



- SK101
- | | | | | | |
|---|-----------|--------|------|-----|-------------|
| 1 | : 10YR3/3 | 暗褐色砂質土 | しまり弱 | 粘性弱 | |
| 2 | : 10YR2/3 | 黒褐色砂質土 | しまり中 | 粘性中 | 黄褐色砂 5% 含む |
| 3 | : 10YR3/4 | 暗褐色砂質土 | しまり中 | 粘性中 | 黄褐色砂 1% 含む |
| 4 | : 10YR3/3 | 暗褐色砂質土 | しまり中 | 粘性中 | 黄褐色砂 10% 含む |
| 5 | : 10YR3/3 | 暗褐色砂質土 | しまり中 | 粘性中 | 炭化物含む |
| 6 | : 10YR3/2 | 黒褐色砂質土 | しまり中 | 粘性中 | 黄褐色砂 25% 含む |
| 7 | : 10YR2/3 | 黒褐色砂質土 | しまり強 | 粘性中 | |
| 8 | : 10YR2/3 | 黒褐色砂質土 | しまり強 | 粘性中 | 黄褐色砂 7% 含む |



- SK112
- | | | | | | |
|---|-----------|--------|------|-----|-------------|
| 1 | : 10YR2/2 | 黒褐色砂質土 | しまり弱 | 粘性弱 | 黄褐色砂 40% 含む |
|---|-----------|--------|------|-----|-------------|

- SK113
- | | | | | | |
|---|-----------|-----------|------|-----|--|
| 1 | : 10YR4/3 | にぶい黄褐色砂質土 | しまり弱 | 粘性弱 | |
|---|-----------|-----------|------|-----|--|

- SK119
- | | | | | | |
|---|-----------|--------|------|-----|------------|
| 1 | : 10YR2/2 | 黒褐色砂質土 | しまり弱 | 粘性弱 | 黄褐色砂 5% 含む |
|---|-----------|--------|------|-----|------------|

※○囲み数字は土壤サンプル採取位置

第9図 SK101・112・113・119

形態：平面形は不正形である。壁の傾きは急で底面は平坦である。

確認状況：VI層上面にて地山由来砂（黄褐色）を含む黒褐色土の広がりとして確認。

重複遺構：SKP131と重複し、本遺構の方が新しい。

堆積土：単層である。

出土遺物：なし。

時期：遺物が出土しなかったため、詳細な時期は不明であるが、周辺の遺構や堆積土から平安時代の遺構と考えられる。

SK113（第9図）

位置：LA93に位置する。

規模：長軸0.70m、短軸0.68m、深さ0.14m。

形態：平面形は円形である。壁の傾きは急で底面は平坦である。

確認状況：VI層上面にてにぶい黄褐色土の広がりとして確認。

重複遺構：なし。

堆積土：単層である。

出土遺物：なし。

時期：遺物が出土しなかったため、詳細な時期は不明であるが、周辺の遺構や堆積土から平安時代の遺構と考えられる。

SK119（第9図）

位置：KS93、KT93に位置する。

規模：長軸0.77m、短軸0.51m、深さ0.27m。

形態：平面形は楕円形である。壁の傾きは急で底面は平坦である。

確認状況：VI層上面にて地山由来砂（黄褐色）を含む黒褐色土の広がりとして確認。

重複遺構：なし。

堆積土：8層に分けられる。自然堆積による埋没である。

出土遺物：なし。

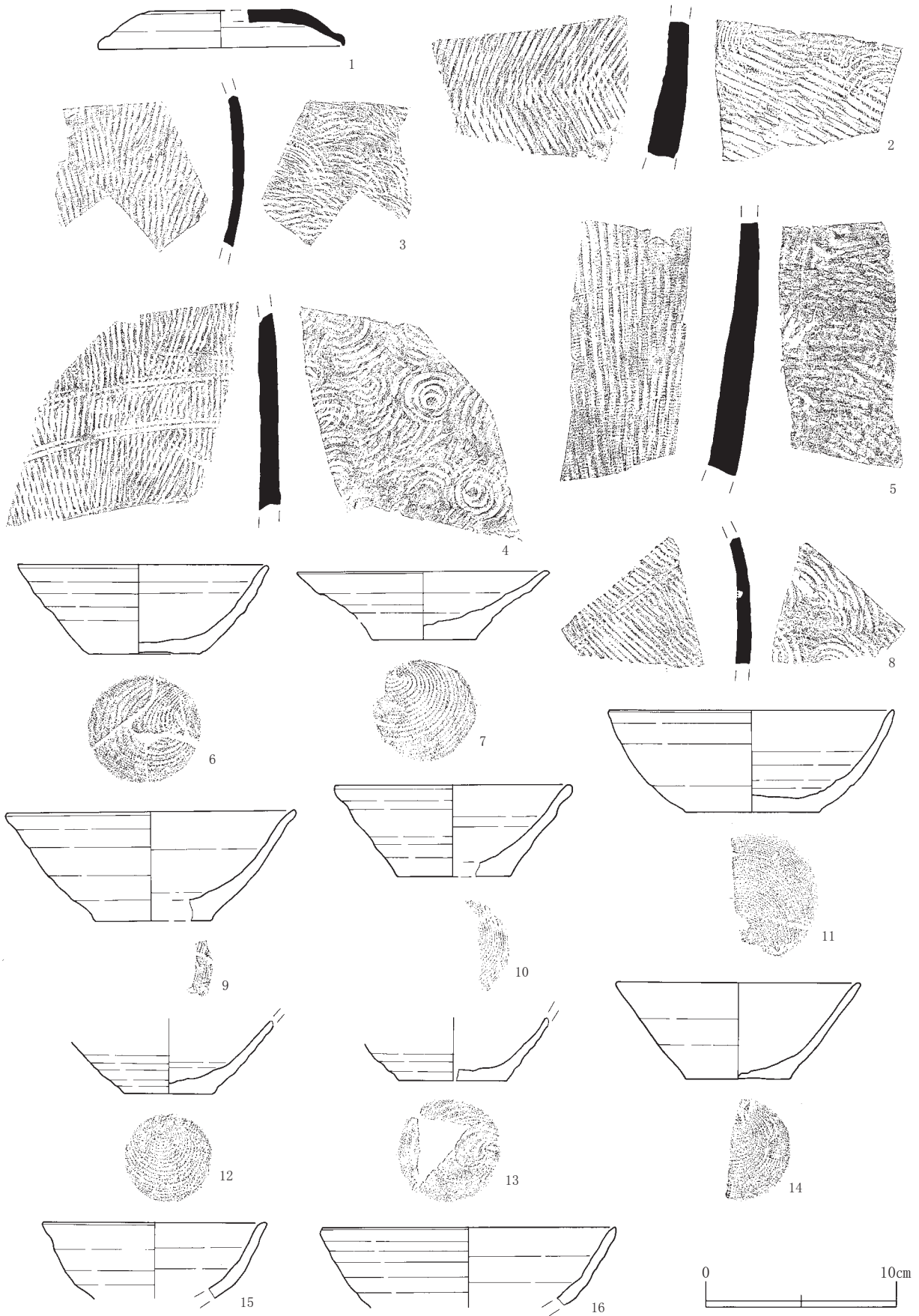
時期：遺物が出土しなかったため、詳細な時期は不明であるが、周辺の遺構や堆積土から平安時代の遺構と考えられる。

（6） 柱穴様ピット

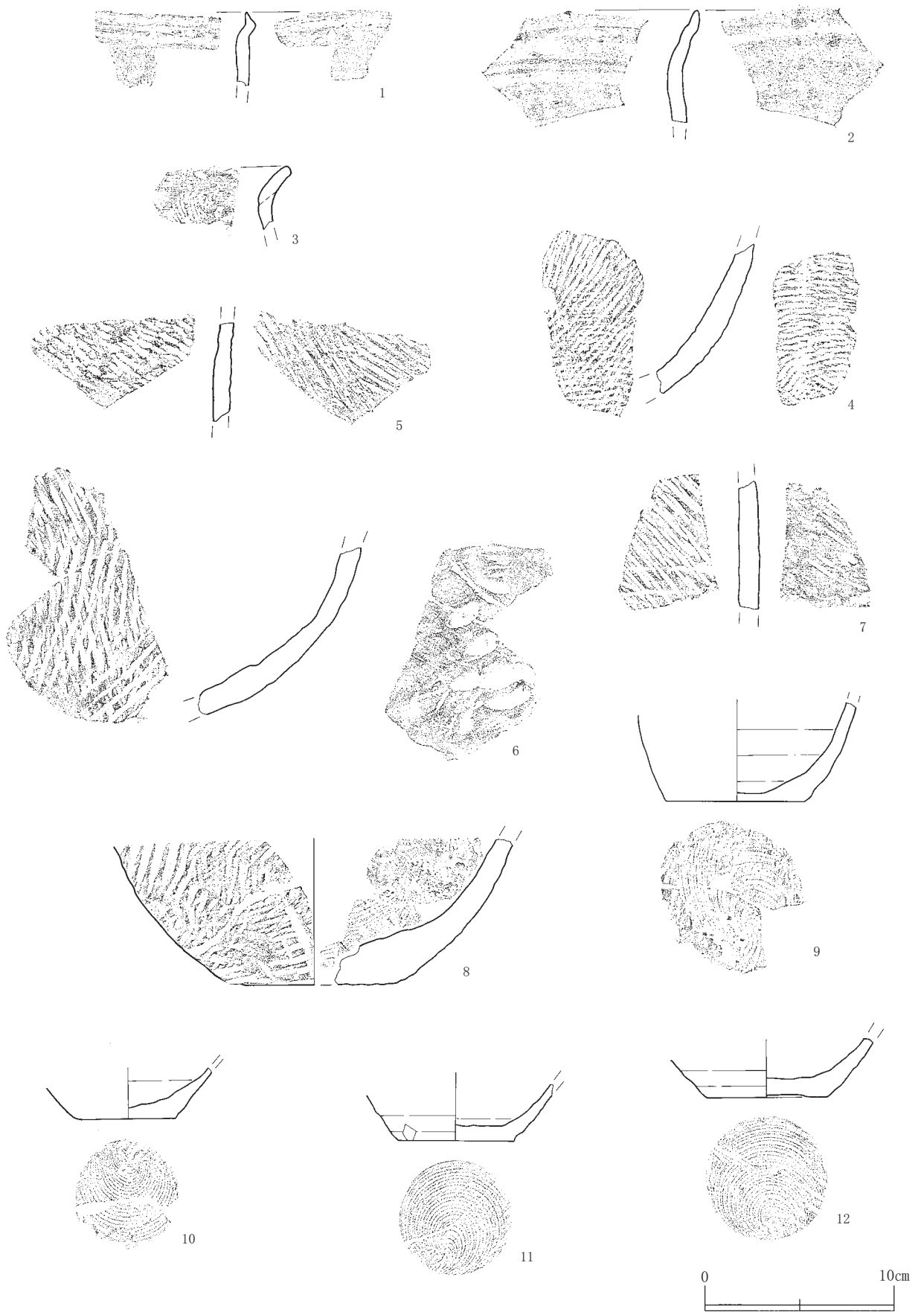
柱穴様ピットは調査区内から17基を検出した。平面形は円形・楕円形を呈し、建物跡に復元できるような規則的な配列は認められず、柱痕も確認できなかった。堆積土は黒褐色または暗褐色で単層である。個々の法量と堆積土については第1表・第2表にまとめた。

2 遺構外出土遺物（第10～12図）

遺構外からは土師器14,823グラム、須恵器1,303グラム、製塩土器284グラム、土製品1点が出土した。ここではそれらのうち、細片を除くいくつかの遺物を掲載する。なお、各遺物の法量等のデータは第3表にまとめた。出土した器種は、須恵器には坏蓋・甕、土師器には坏・甕・鍋がある。土師器

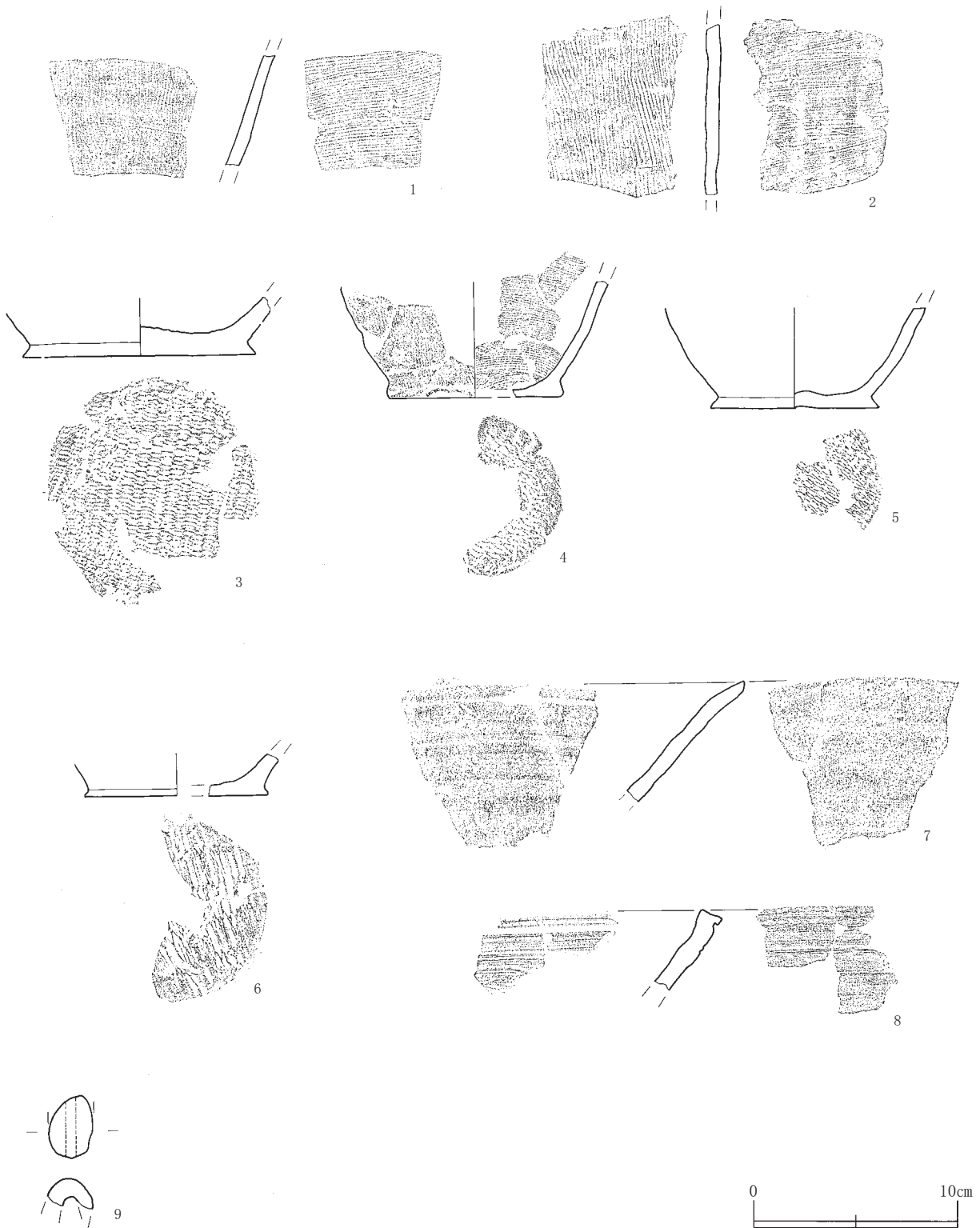


第10図 遺構外出土遺物実測図(1)



第11図 遺構外出土遺物実測図(2)

甕にはロクロ使用のものと非使用のものがあり、非使用の甕底にはムシロ状圧痕が認められる。製塩土器はSN102の周囲を中心に出土した。いずれも小破片であり、図示できるものはなかった。また、製塩土器に伴う土製支脚と思われる破片も含まれているが、細分は困難であった。



第12図 遺構外出土遺物実測図(3)

挿図番号	種類	器種	出土位置	遺構	出土層位	部位	調整	切り離し	法量 (cm)		備考
									口径	底径 器高	
7-1	土師器	坏	KS89	SD103	5	底部～胴部	ロクロナデ	切り離し	口径		
7-2	土師器	坏	KS89	SD103	5	底部～胴部	ロクロナデ	回転糸切り	5.5		
7-3	土師器	坏	LB88	SD103	5	底部～胴部	ヘラナデ	回転糸切り	6.0		
8-1	土師器	甕	KS94	SN102	1	口縁部～胴部	外：ロクロナデ→ケズリ (縦方向) 内：ロクロナデ→ヘラナデ		(6.8)		底部にムシロ状圧痕
8-2	土師器	坏	KS93	SN102	4	底部～胴部	ロクロナデ	回転糸切り	(10.2)		
8-3	土師器	坏	KS93	SN102	4	口縁部～底部	ロクロナデ	回転糸切り	(14.9)		
8-4	土師器	甕	KS93	SN102	1	口縁部～胴部	ヘラナデ				
8-5	土師器	坏	KS93	SN102	4	口縁部～胴部	ロクロナデ				裏面(判断不可)
8-6	土師器	甕	KS93	SN102	4	胴部	外：ロクロナデ→ケズリ (縦方向) 内：ロクロナデ→ヘラナデ				
10-1	須恵器	蓋	KS94		II層	天井部～端部	ロクロナデ		(13.0)	2.0	
10-2	須恵器	甕	表探		一	胴部	叩き				
10-3	須恵器	甕	KS94		V層	胴部	叩き				
10-4	須恵器	甕	KR93		II層	胴部	叩き				
10-5	須恵器	甕	KR94		V層	胴部	叩き				
10-6	土師器	坏	KR90		V層	口縁部～底部	ロクロナデ	回転糸切り	(13.3)	6.0	4.7
10-7	土師器	坏	KS94		V層	口縁部～底部	ロクロナデ	回転糸切り	(13.1)	5.5	3.6
10-8	須恵器	甕	KT94		II層	胴部	叩き				
10-9	土師器	坏	K094		V層	口縁部～底部	ロクロナデ	糸切り	(15.1)	(6.0)	5.8
10-10	土師器	坏	KS94		V層	口縁部～胴部	ロクロナデ		(12.2)	(5.8)	4.9
10-11	土師器	坏	LA87		IIIa層	口縁部～底部	ロクロナデ	回転糸切り	(14.9)	(7.0)	5.4
10-12	土師器	坏	KS94		V層	底部～胴部	外：ロクロナデ→ヘラナデ 内：ロクロナデ 底：切り離し後ヘラナデ	回転糸切り		4.6	
10-13	土師器	坏	KS93		V層	底部～胴部	ロクロナデ	回転糸切り→		5.6	
10-14	土師器	坏	KS94		V層	口縁部～底部	ロクロナデ	回転糸切り	(12.4)	(5.4)	5.1
10-15	土師器	坏	KS90		II層	口縁部～胴部	ロクロナデ	回転糸切り	(11.7)		
10-16	土師器	坏	KS94		V層	口縁部	ロクロナデ				
11-1	土師器	甕	KS93		V層	口縁部	ロクロナデ				
11-2	土師器	甕	KS94		II層	口縁部	ロクロナデ				
11-3	土師器	甕	LB88		IIIb層	口縁部	ロクロナデ→ヘラナデ				
11-4	土師器	甕	KS93		V層	底部～胴部	叩き				
11-5	土師器	甕	KS93		II層	胴部	叩き				
11-6	土師器	甕	LB88		IVa層	底部～胴部	外：叩き 内：ヘラナデ				
11-7	土師器	鍋	LB88		V層	胴部	叩き				
11-8	土師器	甕	KS89		II層	底部～胴部	叩き		(7.5)		
11-9	土師器	甕	KS94		V層	底部～胴部	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ→ヘラナデ 底：切り離し後ヘラナデ	回転糸切り	7.4		
11-10	土師器	甕	LA88		IIIa層	底部～胴部	ロクロナデ	回転糸切り	5.1		
11-11	土師器	甕	K091		IIIa層	底部～胴部	外：ロクロナデ→ヘラナデ 内：ロクロナデ	回転糸切り	6.1		
11-12	土師器	甕	KS94		V層	底部～胴部	外：ロクロナデ→ヘラナデ 内：ロクロナデ	回転糸切り	6.4		
12-1	土師器	甕	KS93		II層	胴部	ヘラナデ				
12-2	土師器	甕	KS94		II層	胴部	ヘラナデ				
12-3	土師器	甕	K091		V層	底部	ヘラナデ		11.5		底部にムシロ状圧痕
12-4	土師器	甕	K093		V層	底部～胴部	ヘラナデ				底部にムシロ状圧痕
12-5	土師器	甕	KS94		V層	底部～胴部	ヘラナデ				底部にムシロ状圧痕
12-6	土師器	甕	KS94		V層	口縁部	ヘラナデ		(9.0)		
12-7	土師器	鍋	KR90		II層	口縁部～胴部	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ→ヘラナデ				煤状炭化物付着
12-8	土師器	鍋	KS88		IIIa層	口縁部	ロクロナデ				
12-9	土製品	土埴	KS93		II層	口縁部	ロクロナデ				

※ () 内の数値は復元値である

第3表 出土遺物観察表

第2章 理化学的分析

第1節 畑跡の栽培植物

パリノ・サーヴェイ株式会社

馬場健司・松本美由紀・斉藤崇人・堀内誠示・斉藤紀行

1 試料

試料は、平安時代の畑跡（S X129）の任意の地点4箇所（A～D地点）より採取された土壌10点（試料番号1～10）である。これらの試料が採取された地点の堆積層は、第Ⅰ～Ⅵ層に区分されており、第Ⅰ層が表土、第Ⅱ層下部および第Ⅴa層上部が畑耕作層、Ⅵ層が地山とされている。土壌試料の観察では、第Ⅴa層が暗褐色を呈するやや泥分が混じる極細粒～細粒砂、第Ⅴb層が暗褐色の細粒砂、第Ⅵ層が暗黄褐色の細粒～中粒砂であり、基質となる砂の粒径や土壌の色調が異なるという特徴が認められた。

分析に供された試料の内訳は、A地点が第Ⅴa層（上位・下位）、第Ⅴb層（上位・下位）、第Ⅵ層（上位）の5点（試料番号1～5）、B地点が第Ⅴa層（上位・下位）の2点（試料番号6,7）、C地点が第Ⅴa層（上位）の1点（試料番号8）、D地点が第Ⅴa層（上位・下位）の2点（試料番号9,10）である。これらの試料のうち、A地点 第Ⅵ層（試料番号5）を除く9点を対象に植物珪酸体分析、A～D地点から採取された試料全点を対象に微細遺物分析を実施する。

2 分析方法

（1）植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体）を、近藤（2010）の分類を参考に同定し、計数する。分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量を正確に計量し、堆積物1gあたりの植物珪酸体含量（同定した数を堆積物1gあたりの個数に換算）を求める。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、各分類群の含量は100単位として表示し、100個/g未满是「<100」で表示する。また、各分類群の植物珪酸体含量とその層位的変化について検討するために、植物珪酸体含量の層位的変化を図示する。

（2）微細物分析

試料を粒径0.5mmの篩を通して水洗する。水洗後の篩内の試料を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて同定可能な種実や炭化材などの遺物を抽出する。

種実遺体の同定は、現生標本および石川（1994）、中山ほか（2000）等との対照から実施し、個数を表示する。炭化材は、70°C48時間乾燥後の重量（g）と最大径を併記する。分析後は、抽出物を種類毎に容器に入れて保管する。種実遺体は、約70%のエタノール溶液で液浸保存する。

また、今回の分析試料は、後述するように種実遺体などの産出が少なかったことから、A地点の3試料（試料番号1, 3, 5）について微粒炭（微細な炭化植物片）の産状を検討した。以下に、微粒炭分析の分析工程を記す。

試料10ccを正確に秤り取り、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛，比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鋳物質の除去、アセトリシス（無水酢酸9，濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。処理後の残渣を定容してから一部をとり、グリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下で微粒炭を計数する。同定基準は山野井（1996）や井上ほか（2002）を参考にする。計数は、山野井（1996）などを参考にし、長径が約20 μ m以上の微粒炭を対象とし、それ以下のものは除外する。分析土壌量（cc）、分析残渣量（ml）、プレパラート作成量（ μ l）を測定し、堆積物1ccあたりに含まれる個数を一覧表に示す。この際、有効数字を考慮し、10の位を四捨五入して100単位として表示する。また、花粉化石が検出された場合は、その種類、個数も合せて示す。

3 結果

(1) 植物珪酸体分析

結果を表1、図1に示す。S X 129のA～D地点の各試料からは植物珪酸体が検出され、保存状態は比較的良好である。以下、各地点の産状を示す。

【A地点】

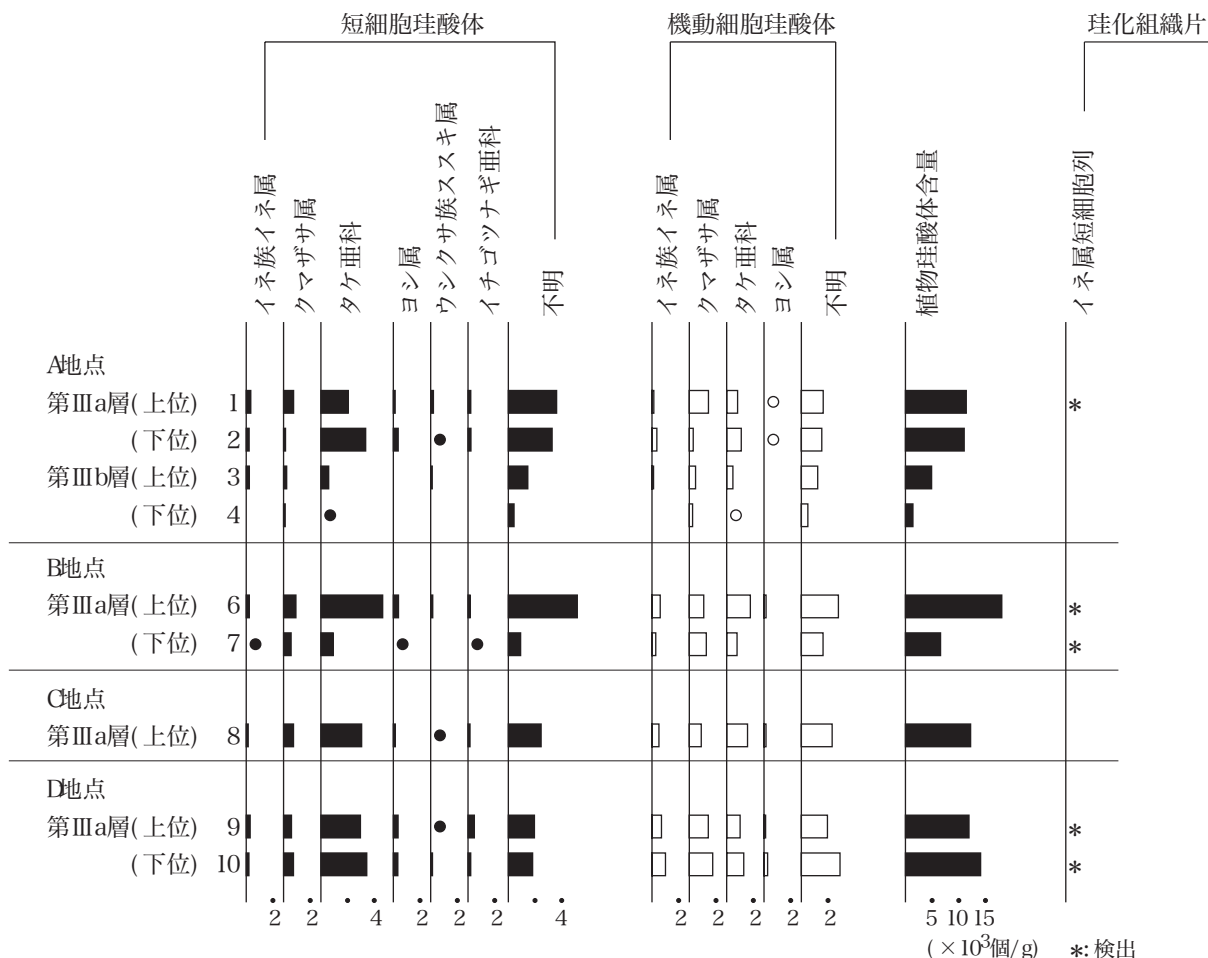
A地点の植物珪酸体含量は1,400～11,400個/gであり、第V b層から第V a層へと含量が高くなる傾向を示す。産出した種類についてみると、クマザサ属を含むタケ亜科、ヨシ属、ススキ属、イチゴツナギ亜科などが認められ、第V a層ではタケ亜科の含量が高い。また、栽培植物としてイネ属が第V b層（上位）および第III a層より検出され、さらに第III a層（上位）からは珪化組織片（短細胞列）も検出される。イネ属の含量は、短細胞珪酸体が200～300個/g、機動細胞珪酸体が100～400個/gである。

【B地点】

B地点の植物珪酸体含量は、第V a層（下位）が6,600個/g、第V a層（上位）が18,100個/gである。産出した種類はA地点と類似し、クマザサ属を含むタケ亜科の含量が高い。また、栽培植物のイネ属が検出され、その含量は短細胞珪酸体が100個未満～200個/g、機動細胞珪酸体が300～600個/gである。

【C地点】

第V a層（上位）の植物珪酸体含量は12,200個/gである。産出した種類は、他の地点と類似し、クマザサ属を含むタケ亜科の含量が高い。また、栽培植物のイネ属も検出され、その含量は短細胞珪酸体が100個/g、機動細胞珪酸体が500個/gである。



堆積物1gあたりに換算した個数を示す。●○は100個/g未滿を示す。
*は珪化組織片の産状を示す。

第13図 植物珪酸体含量

分類群	SX129畑跡									
	A地点				B地点		C地点		D地点	
	第Va層		第Vb層		第Va層		第Va層		第Va層	
	上位	下位	上位	下位	上位	下位	上位	上位	下位	
1	2	3	4	6	7	8	9	10		
イネ科葉部短細胞珪酸体										
イネ族イネ属	300	200	200	-	200	<100	100	300	200	
クマザサ属	800	100	200	100	900	600	700	600	700	
タケ亜科	2,000	3,400	600	<100	4,600	900	3,100	3,000	3,400	
ヨシ属	100	400	-	-	400	<100	100	400	300	
ウシクサ族ススキ属	200	<100	100	-	200	-	<100	<100	100	
イチゴツナギ亜科	200	200	-	-	200	<100	100	500	200	
不明	3,600	3,300	1,500	400	5,200	900	2,500	2,000	1,800	
イネ科葉身機動細胞珪酸体										
イネ族イネ属	100	400	100	-	600	300	500	700	1,000	
クマザサ属	1,400	300	500	200	1,100	1,300	900	1,400	1,800	
タケ亜科	800	1,100	500	<100	1,800	800	1,600	1,000	1,300	
ヨシ属	<100	<100	-	-	200	-	100	100	300	
不明	1,600	1,500	1,200	500	2,800	1,600	2,300	2,000	2,900	
合計										
イネ科葉部短細胞珪酸体	7,300	7,700	2,600	600	11,700	2,600	6,800	6,700	6,900	
イネ科葉身機動細胞珪酸体	4,100	3,400	2,300	800	6,400	4,000	5,400	5,200	7,200	
総計	11,400	11,100	4,900	1,400	18,100	6,600	12,200	11,900	14,100	
珪化組織片										
イネ属短細胞列	*	-	-	-	*	*	-	*	*	

珪化組織片の産状 - : 未検出、* : 検出

(個/g)

第4表 植物珪酸体含量

【D地点】

D地点の植物珪酸体含量は、第V a層（下位）が14,100個/g、第Ⅲa層（上位）が11,900個/gである。産出した種類はA～C地点と類似し、クマザサ属を含むタケ亜科の含量が高い。また、栽培植物のイネ属も検出され、その含量は短細胞珪酸体が200～300個/g、機動細胞珪酸体が700～1,000個/gである。

(2) 微細物分析

結果を表5に示す。S X129のA～D地点より採取された土壌試料からは、種実遺体27個、炭化材1.3g（最大11mm）を抽出した。その他に、菌類の菌核と不明炭化物も確認された。分析残渣は砂礫主体で、炭化していない植物片を含む。

種実遺体は、A地点の第V b層（試料番号3, 4）を除く8試料より検出され、木本4分類群（アカメガシワ、サンショウ、サンショウ亜属、タラノキ）16個と、草本3分類群（イネ、ヒゴクサ節、タデ属）9個が同定され、1個は不明であった。栽培種は、炭化したイネの穎の破片（基部）が、A地点 第V a層（下位）（試料番号2）より4個、B地点 第V a層（上位）（試料番号6）とC地点 第V a層（上位）（試料番号8）より各1個、計6個が確認された。

炭化材は、全試料より検出されC地点（0.35g）、B地点（0.28～0.29g）で比較的多く検出された。

以下に、本分析で確認された種実各分類群の形態的特徴等を記す。

- ・アカメガシワ (*Mallotus japonicus* (Thunb.) Muell. Arg.) トウダイグサ科アカメガシワ属

種子は赤みを帯びた黒褐色、径4mm程度の歪な球体。腹面基部近くにあるY字状の稜に沿って割れている。種皮表面には粗い瘤状突起が密布し、断面は柵状組織が内側に湾曲する。

- ・サンショウ (*Zanthoxylum piperitum* (L.) DC.) ミカン科サンショウ属

種子は黒色、完形ならば、長さ4mm、幅3.5mm、厚さ2.5mm程度のやや偏平な倒卵体。破片の大きさは2mm程度。腹面正中線上基部に斜切形の臍がある。種皮は厚く硬く、表面には浅く細かな網目模様がある。なお、臍の形状が不明の種子破片をサンショウ亜属としている。

- ・タラノキ (*Aralia elata* (Miq.) Seemann) ウコギ科タラノキ属

核（内果皮）は炭化しており黒色、長さ2mm、幅1.1mm程度のやや偏平な半月形。腹面はほぼ直線状

分類群	部位	状態	SX129畑跡										備考
			A地点					B地点		C地点	D地点		
			第V a層		第V b層		第VI層	第V a層		第V a層	第V a層		
			上位	下位	上位	下位	地山面上位	上位	下位	上位	上位	下位	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
木本													
アカメガシワ	種子	完形	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1/3欠損 計2個未満	
		破片	-	-	8	-	-	-	-	-	-		
サンショウ	種子	破片	-	-	-	-	-	-	1	-	-		
サンショウ亜属	種子	破片	1	2	-	-	-	1	-	-	-		
タラノキ	核	完形	炭化	-	-	-	-	-	1	-	-		
草本													
イネ	穎	破片(基部)	炭化	-	4	-	-	-	1	-	1	-	
ヒゴクサ節	果実	完形		-	-	-	-	-	-	-	2	-	
タデ属	果実	完形	炭化	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
不明種実		完形		-	-	-	-	-	1	-	-	-	
炭化材		炭化		0.02g	0.17g	0.03g	0.01g	<0.01g	0.29g	0.28g	0.35g	0.08g	0.10g
				3.3mm	8.3mm	8.2mm	2.6mm	1.7mm	9.1mm	7.6mm	11.0mm	4.0mm	5.4mm
菌核				11	51	179	23	9	42	64	73	33	10
不明炭化物				-	-	-	-	-	2	-	-	3	-
分析残渣(砂礫・植物片など)				65.37g	53.49g	61.82g	58.55g	73.65g	47.76g	62.46g	59.76g	35.31g	66.26g
分析量				400cc	350cc	400cc	400cc	400cc	400cc	350cc	400cc	200cc	350cc
				731.43g	632.84g	776.60g	805.36g	840.36g	684.61g	621.79g	710.54g	338.92g	678.00g

第5表 微細遺物洗い出し・種実同定結果

で、片端に突起がある。背面には数本の浅い溝が走る。表面は小さな凹凸が多く粗面。

- ・イネ (*Oryza sativa* L.) イネ科イネ属

穎(果)は炭化しており黒色。完形ならば長さ6~7.5mm、幅3~4mm、厚さ2mm程度のやや扁平な長楕円体。基部に斜切状円柱形の果実序柄と1対の護穎を有し、その上に外穎(護穎)と内穎がある。外穎は5脈、内穎は3脈をもち、ともに舟形を呈し、縫合してやや扁平な長楕円形の稲朶を構成する。果皮は薄く柔らかく、表面には顆粒状突起が縦列する。破片は基部の果実序柄が確認され、大きさは1mm程度。

- ・ヒゴクサ節 (*Carex sect. Extensae*) カヤツリグサ科スゲ属

果実は黒色、長さ1.5mm、径1mm程度の三稜状倒卵体。頂部の柱頭部分は円盤状。果皮表面には微細な網目模様がある。

- ・タデ属 (*Polygonum*) タデ科

果実は炭化しており黒色、長さ2mm、径1.7mm程度のレンズ状広卵体。頂部はやや尖り、基部は切形で萼が残存する。果皮表面には網目模様がある。

(3) 微粒炭分析

結果を表6に示す。微粒炭含量は、A地点 第V a層(上位)(試料番号1)が14,600個/cc、第V b層(上位)(試料番号3)が3,100個/cc、第VI層(試料番号5)が400個/ccである。微粒炭は、木本類に由来するとみられる分野壁孔などの木材組織を有するものが確認された。また、これらの微粒炭の中には斜めから光を当てると光沢を示すものや、典型的な微粒炭と比べ透過光を通すものも認められたことから、完全に炭化していないものも含まれている可能性がある。なお、試料番号1からは、

分類群	SX129畑跡A地点		
	第V a層 上位 1	第V b層 上位 3	第VI層 地山面上位 5
木本花粉			
モミ属	-	2	-
トウヒ属	-	1	-
マツ属複雑管束亜属	-	1	-
マツ属(不明)	4	21	-
スギ属	1	8	-
ハンノキ属	-	1	-
ブナ属	2	1	-
クリ属	-	1	-
ニレ属-ケヤキ属	-	2	-
シナノキ属	-	10	-
草本花粉			
イネ科	26	2	4
カヤツリグサ科	2	-	-
クワ科	-	1	-
アカザ科	1	-	-
ナデシコ科	2	-	-
カラマツソウ属	-	1	-
ヨモギ属	7	4	3
タンポポ亜科	1	1	-
不明花粉			
不明花粉	3	1	-
シダ類孢子			
ゼンマイ属	1	-	-
他のシダ類孢子	33	54	1
合計			
木本花粉	7	48	0
草本花粉	39	9	7
不明花粉	3	1	0
シダ類孢子	34	54	1
合計(不明を除く)	80	111	8
1ccあたりの微粒炭量[個]	14,600	3,100	400

第6表 微粒炭分析結果

細胞が縦長の長方形で、細胞壁が波打つ形状の微粒炭が検出された。これは、波状組織を持つ微粒炭として記載されていることが多く、イネ科葉部に由来する微粒炭とされる(小椋, 2007など)。

さらに、微粒炭分析を行った試料からは、保存状態の悪い花粉化石が僅かに確認された(表6)。各試料の産状は、試料番号1は草本花粉、試料番号3は木本花粉の割合が多く、試料番号5はほとんど検出されなかった。産出した種類についてみると、試料番号1はイネ科、カヤツリグサ科、アカザ科、ナデシコ科、ヨモギ属、タンポポ亜科などの草本花粉が多く、木本花粉はマツ属、スギ属、ブナ属などがわずかに認められる。試料番号3はモミ属、トウヒ属、マツ属、スギ属、ハンノキ属、ブナ属、クリ属、ニレ属-ケヤキ属、シナノキ属などの木本花粉が多く、草本花粉はイネ科、クワ科、カラマツソウ属、ヨモギ属、タンポポ亜科などがわずかに認められる。試料番号5は、草本花

粉のイネ科、ヨモギ属がわずかに認められたのみである。

4 考察

畑跡（S X 129）の第V～VI層を対象とした分析調査の結果、第V b層（上位）および第V a層より栽培植物のイネ属の植物珪酸体（珪化組織片を含む）が検出されたほか、A～C地点の第V a層より炭化したイネの穎の破片（基部）が確認された。

また、S X 129の第V a～VI層の微粒炭含量の変化についてみると、地山面上位の第IV層が約400個/ccに対し、第V b層上位が約3,100個/cc、第V a層上位が約14,600個/ccと、上位層に向かって顕著に増加する。土壌中に含まれる微粒炭は、人間活動と密接に関係していることが知られており、その変化は人為活動の変化を反映している場合が多く認められる（例えば安田, 1987; 山野井, 1996; 井上ほか, 2002）。また、微粒炭の形状から母植物を推定する試みは、山野井（1996）、鬼頭・尾崎（1997）、小椋（1999, 2000, 2001, 2007）などがあり、イネ科などの草本類の微粒炭は細長いものが形成される傾向にあるとされている（小椋, 1999, 2000）。今回検出された微粒炭にも細長い形状のものが認められたことから、草本由来の微粒炭が含まれていると考えられる。特に第V a層（上位）では、イネ科由来とみられる組織をもった微粒炭片も検出されており、イネ科植物の混入も想定される。さらに、木材組織を有する微粒炭も検出されることから、木本由来の微粒炭も含まれていると考えられ、微細物分析における炭化材の産状と概ね調和する。

以上のイネ属植物珪酸体や微粒炭の産状を踏まえると、第V b層以降で人為的活動の影響やイネの植物体の存在が推定され、さらに第III a層ではその傾向が明瞭となることが指摘できる。畑跡（S X 129）における栽培植物については、イネの植物珪酸体や穎の種子の検出により稲作が想定されるが、イネの穎が炭化していることや木本・草本由来の微粒炭が多く含まれることなどから、耕作に伴う人為活動（たとえば草木灰や施肥の付加、野焼きなど）などにより残留した植物体に由来する可能性も考慮する必要がある。

栽培種を除いた分類群では、木本は落葉小高木のアカメガシワ、落葉低木のサンショウ、タラノキの種子が確認された。これらには未炭化の種実が含まれるため、後代の混入の可能性のあるものの、いずれも周辺に分布した森林の林縁や伐採地などに生育した樹木に由来すると考えられる。この他に花粉化石で検出されたモミ属、トウヒ属、マツ属、スギ属などの針葉樹や、ブナ属、クリ属などの落葉広葉樹は、周辺丘陵に分布した森林要素を反映しており、ハンノキ属、ニレ属－ケヤキ属、シナノキ属などは谷沿いや丘陵下の低地などに分布した林分に由来すると考えられる。

なお、本荘市葛法などの日本海沿岸部では、完新世後半以降にコナラ亜属－ブナ属帯、スギ属－ブナ属－コナラ亜属帯、マツ属帯の3つの地域花粉帯が設定できるとし、また山地部では常にブナ属が優占してスギ属やマツ属の拡大が山地深部まで及んでおらず、これらの増加・拡大が低地やその周縁地域を中心に起こったとしている（辻, 1981）。今回産出した花粉化石は僅かであったため、上述した資料との比較には至らないが、さらに資料の蓄積により周辺の古植生変遷を明らかにできると考えられる。

一方、草本では、クマザサ属を含むタケ亜科、ススキ属、イチゴツナギ亜科などの植物珪酸体、ヒゴクサ節とタデ属の果実、イネ科、カヤツリグサ科、クワ科、アカザ科、ナデシコ科、カラマツソウ

属、ヨモギ属、タンポポ科の花粉が確認された。これらは、いわゆる人里植物に属する分類群であることから、調査地周辺の明るく開けた草地環境に由来すると考えられる。また、周辺の湿潤な場所にはヨシ属も生育していたと考えられる。

第2節 溝跡の堆積環境および土坑周壁の特性

パリノ・サーヴェイ株式会社

馬場健司・松本美由紀・斉藤崇人・堀内誠示・斉藤紀行

1 試料

試料は、上記したS X129と同じ確認面より検出された溝跡（S D103）および土坑（S K101）から採取された土壌2点である。S D103は底面に階段状の硬化面が確認される溝跡であり、S K101は壁面に粘土様の堆積物を貼り付けた可能性が想定されており、いずれも畑跡に付帯する施設と考えられている。

本分析では、溝跡の水域（堆積）環境の検討、土坑の周壁を構成する堆積物の特性の検討を目的として、珪藻分析、粘土鉱物分析を実施する。

分析に供した試料は、S D103が溝底面の硬化面より採取されたやや固結した暗褐色砂の偽礫が混じる暗褐色砂（試料番号11）、S K101が土坑周壁より採取された暗褐色砂である（試料番号12）。

2 分析方法

（1）珪藻分析

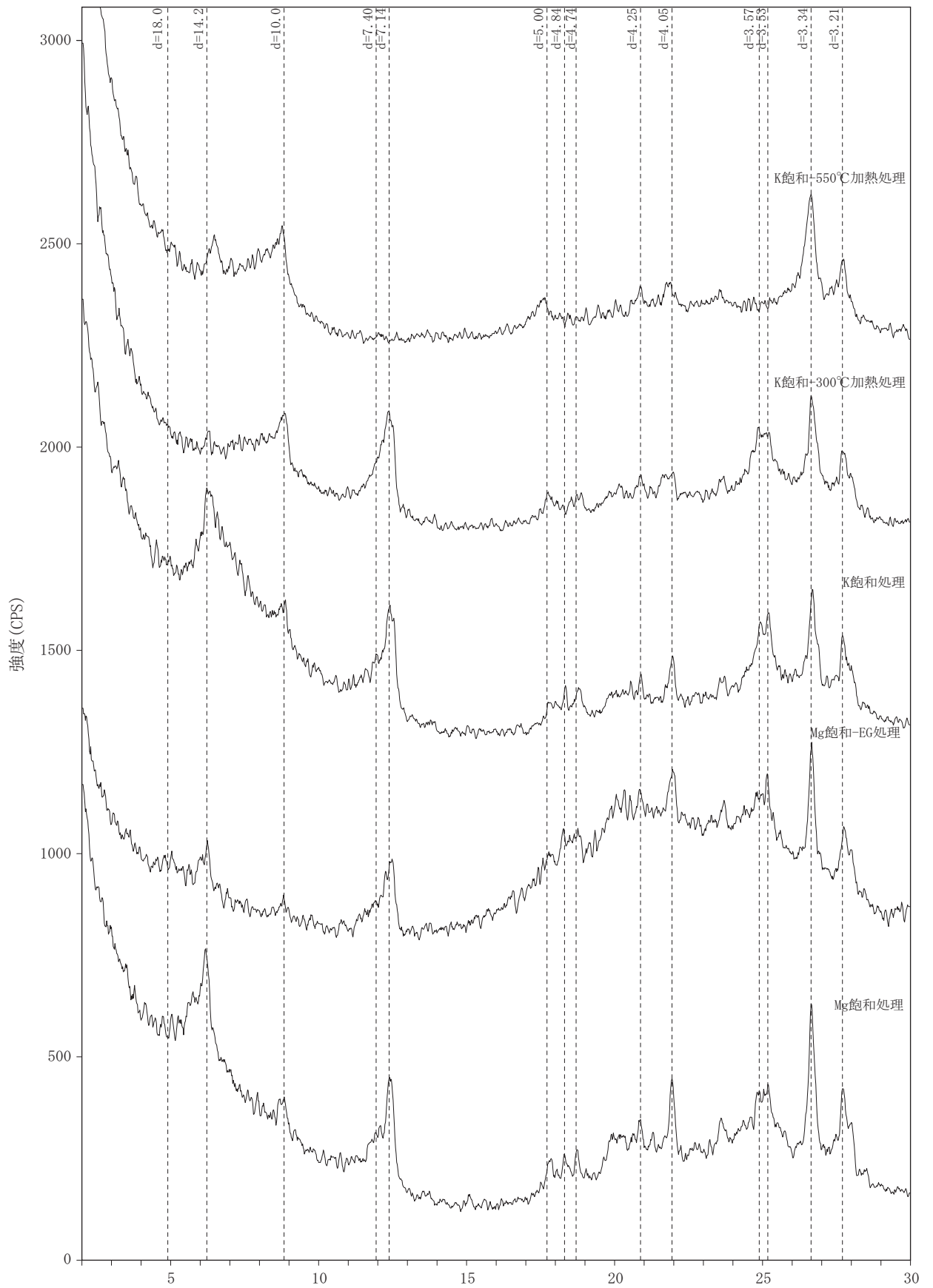
湿重約5gをビーカーに計り取り、過酸化水素水と塩酸を加えて試料の泥化と有機物の分解・漂白を行う。次に、分散剤を加えた後、蒸留水を満たし放置する。その後、上澄み液中に浮遊した粘土分を除去し、珪藻殻の濃縮を行う。この操作を4～5回繰り返す。次に、自然沈降法による砂質分の除去を行い、検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下して乾燥させる。乾燥した試料上に封入剤のプレウラックスを滴下し、スライドガラスに貼り付け永久プレパラートを作製する。

検鏡は、油浸600倍または1000倍で行い、メカニカルステージを用い任意に出現する珪藻化石が200個体以上になるまで同定・計数した。なお、原則として、珪藻殻が半分以上破損したものについては、誤同定を避けるため同定・計数は行わない。200個体が検出できた後は、示準種等の重要な種類の見落としがないように、全体を精査し、含まれる種群すべてが把握できるように努める。

（2）粘土鉱物分析

粘土鉱物分析は和田（1966）に従う。以下に分析工程を記す。

試料約50gを500mlビーカーに秤とり、蒸留水を適量加えた後、30%過酸化水素水10mlを加えて混合する。時計皿で蓋をして約1時間放置した後、砂浴上に乗せて加熱し、試料から黒色味が完全に抜けるまで過酸化水素水を10mlずつ滴下し、有機物を分解する。さらに加熱を続け、過剰の過酸化水素水を分解除去した後、DCB抽出液を加え、75℃まで加熱する。約2gのヒドロサルファイトナトリウム（Na₂S₂O₄）を加えて攪拌し、15分間放置した後、遠心分離を行い、上澄み液を捨てる（脱鉄処理）。蒸留水で2回洗浄した後、蒸留水を加えて超音波処理を実施し、分散させた後、1000ml



第14図 X線回折図 (定方位法)

沈底瓶に移す。液温20℃の状態では16時間静置した後、水面下20cm深にサイフォンを挿入し、粘土画分 ($2\mu\text{m}$) の懸濁液を採取する (粘土懸濁液)。

懸濁液の一定量を2本の遠沈管に採取し、1N酢酸ナトリウム-酢酸緩衝液 (pH5.0) を加え、内容物を攪拌した後、上澄み液を遠沈除去する。この操作を2回繰り返す。遠沈管の1本に1N酢酸マグネシウム溶液 (pH7.0) を加え (Mg飽和試料)、もう1本の遠沈管に1N酢酸カリウム溶液 (pH7.0) を加え (K飽和試料)、遠沈洗浄する。この操作を更に2回繰り返し、最後に水を加えて過剰の塩溶液を除く。遠沈管の内容物に水を加えて懸濁状態とし、その懸濁物をスライドガラス上に採取し、ガラス全面に拡げ、風乾する。

これら試料をX線回折装置によって以下の条件で測定する。なお、Mg飽和試料についてはEG (エチレングリコール) 処理、K飽和試料については300℃と550℃加熱処理を施し、再度測定を実施する。

装置: 理学電気製MultiFlex	Divergency Slit: 1°
Target: Cu (K α)	Scattering Slit: 1°
Monochrometer: Graphite湾曲	Receiving Slit: 0.3mm
Voltage: 40kV	Scanning Speed: 2° /min
Current: 40mA	Scanning Mode: 連続法
Detector: SC	Sampling Range: 0.02°
Calculation Mode: cps	Scanning Range: 2~30°

3 結果

(1) 珪藻分析

分析の結果、SD103溝跡 (底面) (試料番号11) からは、珪藻化石は1個体も検出されなかった。

(2) 粘土鉱物分析

SK101土坑 (周壁) (試料番号12) の粘土試料の定方位回折図を第14図に示す。Mg飽和处理では、14.2、10.0、7.14、4.05、3.57、3.53、3.34、3.21Å に比較的明瞭なピーク、7.40、5.00、4.84、4.74、4.25Å に弱いピークが認められる。

14.2Åの反射は、Mg飽和-EG処理によって一部が18.0Åに膨潤することからスメクタイトと判定される。さらに、EG処理によって移動しない14.2Åのピークは、K飽和-300℃加熱処理によって一端弱まるが、550℃加熱処理によって再度13.8Å付近に強いピークとして現れることから緑泥石に由来するものと判定される。7.14、4.74、3.53Åの反射も緑泥石によるものである。

10.0Åの反射は、5.0Å、3.34ÅのピークとともにK飽和-550℃加熱処理においても消失変化しないことから雲母鉱物と判断され、7.40Åおよび3.57Åの反射は、K飽和-550℃加熱処理によって消失することからハロサイト由来のものと判定される。

さらに、4.84Åの反射はK飽和-300℃加熱処理によって消失することからギブサイトが同定され、粘土鉱物以外に石英 (4.25、3.34Å)、斜長石 (3.21Å)、クリストバライト (4.05Å) が確認される。

なお、これら結晶性粘土鉱物の回折強度は全体的に低い傾向にあるため、アロフェンなどに代表される非晶質鉱物を含んでいる可能性が高い。

4 考察

(1) S D103の堆積（水域）環境

分析の結果、S D103溝跡（底面）から珪藻化石は検出されなかった。したがって、珪藻化石の生態性から、水域環境を復元することは困難である。珪藻の化石が検出されない理由として、以下のよう原因が考えられる。

生物源シリカ鉱物は、温度増加および時間経過にしたがって、オパールA→オパールCT→石英に変化することが知られている（Mizutani,1977;Mitsui & Taguchi,1977;Kano,1979;Iijima & Tada,1981）。経験的には、堆積後に好氣的環境下で大気にさらされると、短期間に分解消失することがわかっている。溝内が常に水が存在する状態でなかったとすれば、堆積物の粒子の大きさに関係無く、比較的短期間に分解が促進された可能性がある。また、小杉（1986）によると、珪藻の遺骸が堆積する際には、その大きさからシルトと挙動と共にするとされている。S D103溝跡（底面）の試料は、極細粒～細粒砂が主体であることから、珪藻化石が堆積しづらかった可能性もある。

(2) S K101土坑周壁の粘土鉱物

清水尻I遺跡周辺の地質については、大沢ほか（1982）の5万分の1地質図幅に概要が記されている。本遺跡周辺には、更新世～完新世の砂を主体とする古期砂丘堆積物が分布している。この古期砂丘堆積物は、遺跡の東方に分布する砂岩を主体とした西目層を覆っている。また、遺跡西方の平野部には、鳥海山爆裂火口から発生した象潟泥流堆積物が広範に分布している。象潟泥流堆積物は、安山岩礫を主体とし、軽石や異質岩片を含み、基質はローム化した火山灰で埋められている。

一方、5万分の1都道府県土地分類基本調査「象潟・吹浦」（秋田県,2001）によれば、遺跡近傍の非火山性山地には褐色森林土や乾性褐色森林土が分布し、一部地域では黒ボクグライ土壌も見られる。また、象潟泥流台地には主にグライ土壌が分布し、水田に利用されていることが記されている。

分析結果では、S K101土坑（周壁）の結晶性粘土鉱物として、スメクタイト、緑泥石、雲母鉱物、ハロイサイトおよびギブサイトを認め、アロフェンなどの非晶質鉱物が含まれる可能性を示唆した。緑泥石や雲母鉱物は砂岩中にしばしば認められる鉱物であり、スメクタイトやハロイサイトなどは水田などにおいて検出される例も多い。また、ハロイサイト、ギブサイト、アロフェンなどの非晶質鉱物はローム中に認められることが多い鉱物である。

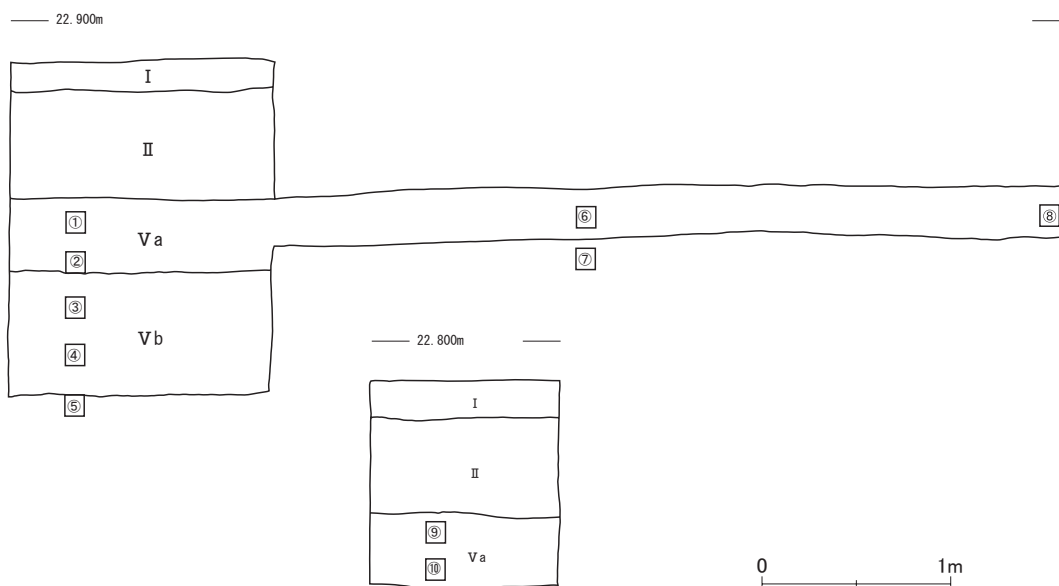
調査所見では、古期砂丘上に形成された土坑内に遮水用途として粘土が人為的に貼られていた可能性が想定されたが、試料の野外土性（ペドロジスト懇談会編,1984）がLS（壤質砂土）で粘土に乏しい状況であった。また、検出された粘土鉱物が、後背丘陵などの周辺地質や周囲の分布土壌に広く含まれる鉱物と考えても矛盾がないことから、遮水用途に粘土が貼られていたことを支持することは難しい。

引用文献

秋田県,2001,1/50,000土地分類基本調査（土壌図）「象潟・吹浦」

第2章 理化学的分析

- Iijima, A. and Tada, R.,1981,Silica diagenesis of Neogene diatomaceous and volcanoclastic sediments In northern Japan. *Sedimentology*,28,185-200.
- 井上 淳・吉川周作・千々和一豊,2002,琵琶湖周辺域に分布する黒ボク土中の黒色木片について.日本第四紀学会講演要旨集, 32,74-75.
- 石川茂雄,1994,原色日本植物種子写真図鑑.石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.
- Kano, K., 1979, Deposition and diagenesis of siliceous sediments of the Onnagawa Formation. *Sci. Rep., Tohoku Univ.*, 14, 135-189.
- 鬼頭 剛・尾崎和美, 1997, 古代人は何を燃やしたのかー微粒炭よりわかる燃焼の記録ー.財団法人愛知県埋蔵文化財センター平成8年度年報,財団法人愛知県埋蔵文化財センター, 133-143.
- 近藤鍊三, 2010, プラント・オパール図譜.北海道大学出版会, 387p.
- 小杉正人, 1986, 現世干潟における珪藻遺骸の運搬・堆積パターン. *地理学評論*, Vol. 59, (Ser. A) -1, p. 37-50.
- Mitsui, K and Taguchi, K.,1977,Silica minerals diagenesis in Neogene Tertiary shales in the Tempoku district, Hokkaido, Japan. *Jour. Sedim. Petrol.*, 47, 158-167.
- Mizutani, S.,1977,Progressiv ordering of cristobalitic silica in early stage of diagenesis. *Contrib. Miner. Petrol.*,61,129-140.
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志, 2000, 日本植物種子図鑑.東北大学出版会, 642p.
- 小椋純一, 1999, 微粒炭の形態と母材植生との関係(1), *京都精華大学紀要*, 17, 53-69.
- 小椋純一, 2000, 微粒炭の形態と母材植生との関係(2), *京都精華大学紀要*, 19, 45-64.
- 小椋純一, 2001, 微粒炭の形態と母材植生との関係(3), *京都精華大学紀要*, 20, 32-50.
- 小椋純一, 2007, 微粒炭の母材植物特定に関する研究. *植生史研究*, 15, p. 85-95.
- 大沢 禮・池辺 穰・荒川洋一・土谷信之・佐藤博之・垣見俊弘, 1982, 象潟地域の地質. *地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)*, 地質調査所, 73p.
- ペドロジスト懇談会編, 1984, 野外土性の判定. *土壤調査ハンドブック*, 博友社, 39-40.
- 白石建雄, 2003, I 地形分類図, 土地分類基本調査 象潟・吹浦. *秋田県農林水産部農山村振興課*, 9-17.
- 辻 誠一郎, 1981, 秋田県の低地における完新世後半の花粉群集. *東北地理*, 33, 81-88.
- 和田光史, 1966, 粘土鉱物の同定および定量法. *土肥誌*, 37, 9-17.
- 山野井 徹, 1996, 黒土の成因に関する地質学的検討. *地質学雑誌*, 102, 526-544.
- 安田喜憲, 1987, 文明は緑を食べる, 読売新聞社, 227p.



第15図 土壤サンプリング位置図

第3節 清水尻 I 遺跡出土の動物遺存体

石船夕佳（北海道大学総合博物館）

はじめに

清水尻 I 遺跡は秋田県にかほ市平沢字清水尻に所在する。仁賀保丘陵の西側縁辺部の象潟泥流堆積物から構成される台地との境界に帯状に取り残された古期砂丘面上に立地し、平安時代の畑跡などが確認されている。

ここでは発掘調査の際に出土した動物遺存体についての同定結果を報告する。

1 資料

動物遺存体はⅡ層粗掘中に肉眼で確認されたもの4点、および溝跡（SD103）から検出された1点であり、いずれも平安時代に属するものである。溝跡からの骨片は摩耗が進んでいたが、Ⅱ層から出土した4点についての保存状態は良好であった。出土した動物遺存体を第7表に示す。目以下の同定が困難であった資料については、中型哺乳類として記載した。

同定にあたっては、現生骨格標本との比較をして行い、標本がない場合には骨などの図や写真が掲載された文献を参考にした。北海道大学総合博物館 江田真毅氏には現生標本を見せて頂き、同定に際してご教示をいただいた。記して感謝申し上げる次第である。

No.	グリッド	層・遺構	種名	部位	左右	点数	備考
1-①	KS89	Ⅱ	イノシシ	大腿骨	ℓ	1	遠位。癒合済。遠位端近くで破損。イヌ科動物の咬痕とみられる凹みあり。
1-②			ニホンジカ	脛骨	ℓ	1	癒合済
1-③			ニホンジカ	踵骨	ℓ	1	癒合済
1-④			中型哺乳類	四肢骨	不明	1	骨幹部。両端破損。
2	KS91	SD103	中型哺乳類	四肢骨	不明	1	骨片

第7表 清水尻 I 遺跡出土の動物遺存体

2 結果と若干の考察

5点のうち同定された動物遺存体は次の通りである。

哺乳綱 Mammalia

偶蹄目 Artiodactyla

イノシシ科 Suidae

イノシシ属 *Sus scrofa*

シカ科 Cervidae

ニホンジカ *Cervus nippon*

第2章 理化学的分析

イノシシ属としたものは、左側大腿骨である。遠位前側（顆上窩）には骨病変と考えられる骨の変形がみられるが、振れ具合や栄養孔の位置などからイノシシと判断された。ブタ、もしくはイノブタの生息の可能性も否定できないことから、本報告では、ブタも含むイノシシ属とした。遠位端の最大幅は47.5mmである。遠位内側にはイヌ科動物の咬痕とみられる凹みが見られる（図版6—1—①下）。

ニホンジカとしたものは右側脛骨及び踵骨であり、ほぼ完形に近い状態で出土している。これらは大きさや風化の度合いが一致し、互いに関節することから同一個体のものと考えられる。脛骨の最大長は245.5mm、近位最大幅は46.0mm、遠位最大幅は31.2mmであり、現生のものに比べ若干小振りである。残存している骨端の全てが癒合済であることから、2歳以上の成獣のものであると考えられる。

ニホンジカおよびイノシシは県内の縄文時代遺跡からは出土がみられるが、平安時代遺跡からの出土は少ない。また、現在県内での生息はほとんど確認されていない。しかし両種共に繁殖力が強い種であり、シカは最深積雪が50cm未滿、イノシシでは積雪深30cm未滿の年が続けば、通年生存・繁殖することは充分可能だと考えられ、両種の分布域は気候の寒暖によって変動すると考えられている（近年、北海道ではエゾシカが積雪深200cmを超える多雪地でも越冬していることが確認されている）。本遺跡で両種が確認されたことは、平安時代同地域に両種が生息していたことが推測できる貴重な資料である。

謝辞

分析の機会を与えて頂いた秋田県埋蔵文化財センター 高橋学氏、高橋和成氏ならびに調査に関わった皆様に記して深謝の意を表する次第である。

参考文献

- 秋田県（2003）『土地分類基本調査 象潟・吹浦』
- 秋田県埋蔵文化財センター（2012）『秋田県埋蔵文化財センター年報』30 平成23年度
- 加藤嘉太郎（1979）『家畜比較解剖図説』第二次増訂改版 上巻 養賢堂
- 仁賀保町史編纂委員会（1972）『仁賀保町史』
- 日本野生生物研究センター（1980）『第2回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書（哺乳類）全国版（その2）』
- 哺乳類分布調査科研グループ（1979）「カモシカ・シカ・ヒグマ・ツキノワグマ・ニホンザル・イノシシの全国的生息分布ならびに被害分布」『生物科学』31(2):98-112

第3章 総括

清水尻Ⅰ遺跡の発掘調査は一般国道7号象潟仁賀保道路建設事業に伴い、平成23年度に実施した。調査の結果、平安時代の畑跡1面、溝跡1条、道路状遺構1条、焼土遺構1基、土坑4基、柱穴様ピット17基を検出し、須恵器、土師器、製塩土器が出土した。

1 遺構について

検出した遺構は、出土遺物から全て平安時代に属すると判断される。畑跡（S X 129）と焼土遺構（S N 102）が重複していることから、少なくとも2時期の遺構変遷が確認された。

S X 129とS N 102の切り合い関係から、S X 129が古いことが分かる。このS X 129を囲むように道路状遺構（S M 130）があり、S K 101に到達している。また、S D 103が隣接して検出され、これらの遺構は検出層位・出土遺物・位置関係から、同時期に存在していたと考えられる。また、S M 130とS K 101の一部には粘性がやや高い白色シルト質土が貼られており、前者は作業通路、後者は貯水という性格、さらにS D 103は水路という性格が想定され、これらは、いずれも畑作に関連した遺構とみることができる。その後、畑作が途絶えた後にS N 102が残される。周辺から小片ではあるが製塩土器が出土していることから、このS N 102では製塩が行われていたと考えられる。

2 遺物について

須恵器には甕・蓋の器種があるが、出土数が少ない。土師器には坏・甕・鍋等の器種がある。坏・甕にはロクロ成形のものと非ロクロのものがある。後者は底面にムシロ状圧痕がみられ、在地的な要素を見て取ることができる。^{註1}土師器・須恵器の形態から9世紀後半～10世紀の範囲に収まると考えられる。

3 遺跡の性格について

本遺跡は9世紀後半から10世紀代の畑作と製塩に関連した遺跡である。

今回の調査で検出した畑跡には道路状遺構・溝跡・大型土坑が隣接し、一連の遺構群として機能していたと考えられる。これは当時の畑作の状況を復原する上では、一つの手がかりと成り得る。秋田県内で平安時代の畑跡が検出している例は、鹿角市はりま館跡の1例のみである。^{註2}東北地方では、宮城県仙台市の下ノ内浦遺跡^{註3}、山形県米沢市二タ俣B遺跡^{註4}・飽海郡遊佐町北目長田遺跡^{註5}、岩手県九戸郡軽米町皂角子久保IV遺跡^{註6}などの類例があり、特に皂角子久保IV遺跡では用水路に想定される溝跡が検出している。

土壌分析の結果、栽培植物である稲属の植物珪酸体や種実遺体が検出されたことから、S X 129では陸稲栽培が行われていた可能性が指摘できる。^{註7}

S X 129の範囲は調査区の他の部分よりも地山が東側に向かって低くなっており、その上層に堆積するシルト質が混入する土（第Ⅴ層）を耕作面としている。この地山の下がりには堆積する土から自然のものと判断され、砂丘が南北方向に尾根上に走っていることに起因している。地形の観察から、緩やかに傾斜する丘陵の縁と砂丘との境目を利用し、畑を開墾したことが推察される。

第3章 総括

古代の遺跡から製塩土器が出土する例は周辺地域では、同市カウヤ遺跡^{註8}、清水尻Ⅱ遺跡^{註9}、立沢遺跡^{註10}等がある。立沢遺跡は円面硯や緑釉陶器が出土する官衙関連遺跡であり、清水尻Ⅱ遺跡では9世紀から10世紀にかけての官道跡が見ついている。この道は丘陵に沿って北上し、立沢遺跡の脇を通ると考えられ、本遺跡は清水尻Ⅱ遺跡と立沢遺跡の間に位置し、官道沿いに立地していると想定される。本遺跡の製塩土器は出土量が少なく、焼土遺構も1基のみであるため、製塩作業としては小規模なものであったと考えられるが、遺跡の立地から周辺遺跡と製塩を通じて関連していた可能性が指摘できる。

註

- 註1 伊藤武士 「平安時代におけるムシロ底土器の出現と展開」『北方世界の考古学』すいれん舎 平成22（2010）年
ムシロ底の土器は、律令体制と律令的文化の蝦夷社会への拡大と浸透を受け、在地の工人が新たに生み出した「蝦夷系土器」と位置づけられている。
- 註2 県内の畑跡の類例として、羽後町軽内遺跡でも焼土・炭化物を含む畝状の溝跡が検出されているが、報告書では不明遺構としている。
羽後町教育委員会『町内遺跡発掘調査報告書 軽内遺跡・大久保（杉宮）遺跡』羽後町文化財調査報告書第13集 平成5（1993）年
- 註3 仙台市教育委員会『下ノ内浦遺跡—第4次発掘調査報告書—』仙台市文化財調査報告書第173集 平成5（1993年）
- 註4 米沢市教育委員会『米沢市万世町桑山団地造成地内埋蔵文化財調査報告書第Ⅰ集 水神前遺跡 柿の木遺跡 二タ俣B遺跡』米沢市埋蔵文化財調査報告書第6集 昭和57（1982）年
- 註5 財団法人山形県埋蔵文化財センター『北目長田遺跡 櫓待遺跡 堂田遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第24集 平成7（1995）年
- 註6 （財）岩手県文化振興事業団 埋蔵文化財センター『皂角子久保Ⅳ遺跡—一般国道340号改良工事関連遺跡発掘調査—』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書129集 昭和63（1988年）
軽米町教育委員会 『皂角子久保Ⅴ遺跡・皂角子久保Ⅵ遺跡発掘調査報告書（基盤整備事業沼地区農道整備事業に伴う発掘調査）』軽米町文化財調査報告書第12集 平成12（2000）年
- 註7 第2章参照。稲作の他に施肥や野焼き等の人為活動により残留した可能性も考慮する必要がある。
- 註8 秋田県教育委員会『カウヤ遺跡第2次発掘調査報告書—一般国道7号砂川局政計画路線に伴う埋蔵文化財発掘調査—』昭和61（1986）年
- 註9 本書所収
- 註10 仁賀保町教育委員会『立沢遺跡発掘調査報告』昭和62（1987）年



1 遺跡近景（北→）



2 調査前状況（東→）



1 調査後全景（東→）



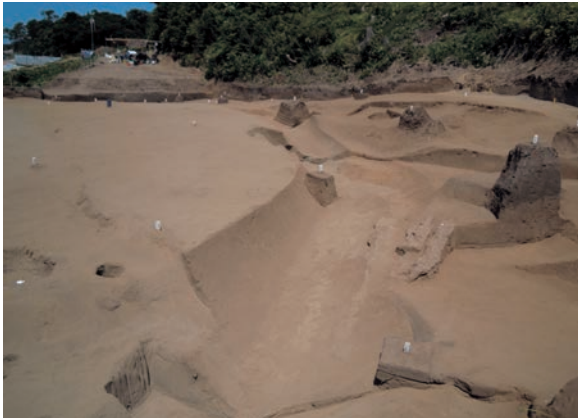
2 調査後全景（南西→）



1 S X 129・SM130 (北東→)



2 S X 129 畝状遺構検出状況 (西→)



3 S D 103 完掘状況 (南西→)



4 S D 103 底面の硬化面 (北東→)



5 S D 103 断面 A-B (南西→)



6 S N 102 確認状況 (南→)



7 S K 101 確認状況 (西→)



8 S K 101 完掘状況 (西→)



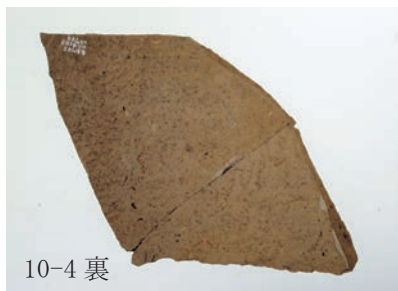
10-5 表



10-5 裏



10-4 表



10-4 裏



8-1



10-1



10-14



10-7



11-10



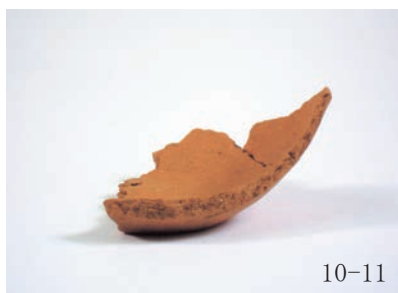
11-12



8-2



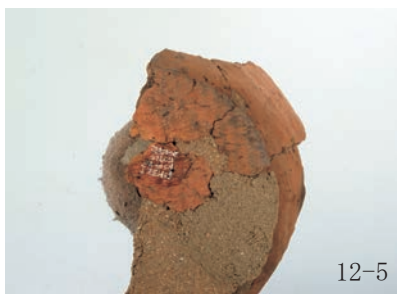
8-5



10-11



10-12



12-5

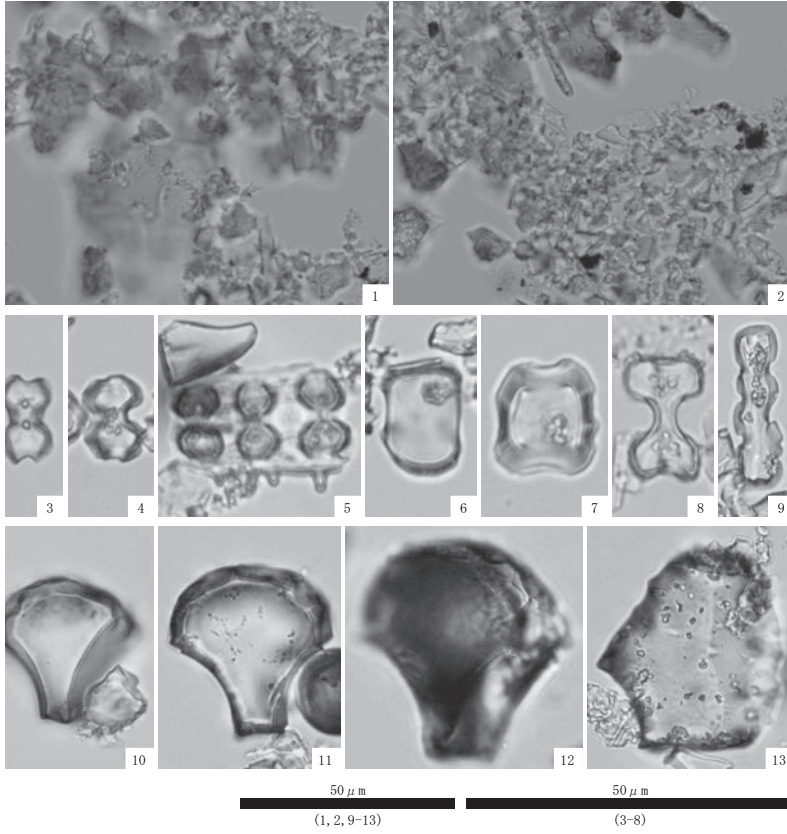


12-6



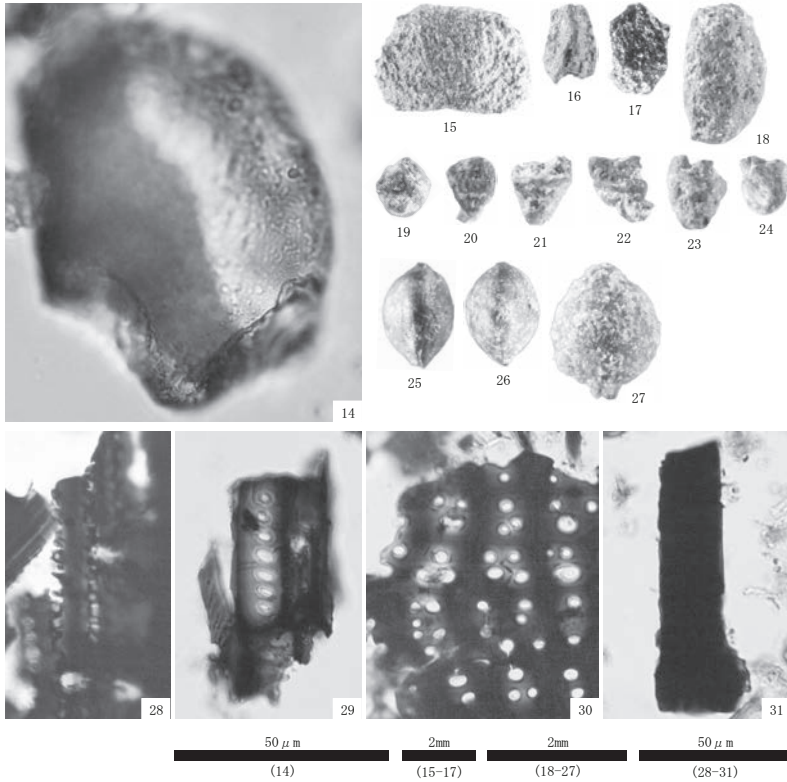
12-3

1 珪藻化石・植物珪酸体(1)



1. プレバート内の状況写真1 (SD103溝跡(底面))
2. プレバート内の状況写真2 (SD103溝跡(底面))
3. イネ属短細胞珪酸体 (SX129畑跡A地点第Ⅲa層(上位);1)
4. イネ属短細胞珪酸体 (SX129畑跡B地点第Ⅲa層(上位);6)
5. イネ属短細胞列 (SX129畑跡C地点第Ⅲa層(上位);8)
6. クマザサ属短細胞珪酸体 (SX129畑跡A地点第Ⅲb層(上位);3)
7. ヨシ属短細胞珪酸体 (SX129畑跡A地点第Ⅲa層(下位);2)
8. ススキ属短細胞珪酸体 (SX129畑跡A地点第Ⅲa層(下位);2)
9. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体 (SX129畑跡C地点第Ⅲa層(上位);8)
10. イネ属機動細胞珪酸体 (SX129畑跡A地点第Ⅲa層(下位);2)
11. イネ属機動細胞珪酸体 (SX129畑跡B地点第Ⅲa層(上位);6)
12. イネ属機動細胞珪酸体 (SX129畑跡C地点第Ⅲa層(上位);8)
13. クマザサ属機動細胞珪酸体 (SX129畑跡A地点第Ⅲb層(上位);3)

2 植物珪酸体(2)・種実遺体・微粒炭



14. ヨシ属機動細胞珪酸体 (SX129畑跡B地点第Ⅲa層(上位);6)
15. アカメガシワ 種子 (SX129畑跡C地点第Ⅲa層(上位);8)
16. サンショウ 種子 (SX129畑跡C地点第Ⅲa層(上位);8)
17. サンショウ亜属 種子 (SX129畑跡D地点第Ⅲa層(下位);10)
18. タラノキ 核 (SX129畑跡C地点第Ⅲa層(上位);8)
19. イネ 穎 (SX129畑跡A地点第Ⅲa層(下位);2)
20. イネ 穎 (SX129畑跡A地点第Ⅲa層(下位);2)
21. イネ 穎 (SX129畑跡A地点第Ⅲa層(下位);2)
22. イネ 穎 (SX129畑跡A地点第Ⅲa層(下位);2)
23. イネ 穎 (SX129畑跡B地点第Ⅲa層(上位);6)
24. イネ 穎 (SX129畑跡C地点第Ⅲa層(上位);8)
25. ヒゴクサ節 果実 (SX129畑跡D地点第Ⅲa層(上位);9)
26. ヒゴクサ節 果実 (SX129畑跡D地点第Ⅲa層(上位);9)
27. タデ属 果実 (SX129畑跡B地点第Ⅲa層(下位);7)
28. 微粒炭(イネ科由来?) (SX129畑跡A地点第Ⅲa層(上位);1)
29. 微粒炭(木本由来) (SX129畑跡A地点第Ⅲa層(上位);1)
30. 微粒炭(木本由来) (SX129畑跡A地点第Ⅲa層(上位);1)
31. 微粒炭(不明) (SX129畑跡A地点第Ⅲa層(上位);1)

珪藻化石・植物珪酸体・種実遺体・微粒炭

1-①
イノシシ大腿骨



1-②
ニホンジカ脛骨



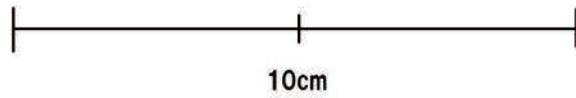
1-③
ニホンジカ踵骨



1-④
中型哺乳類四肢骨



1-①
咬痕



2
中型哺乳類四肢骨片



動物遺存体

清水尻Ⅱ遺跡
(6 SMZⅡ)

第1章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法

計画的な調査を進め遺構・遺物の検出地点を把握するため、調査区に方眼を設定した。国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所が打設した工事用中心杭No.616を基準とし、調査区中央北寄りに原点MA50（X=-79140.000、Y=-74330.000）を設置した。この杭から世界測地系国家座標X系座標北を求め、このラインを南北基線、これに直交するラインを東西基線とした。

この東西南北に沿って4×4mの区画を設定し、原点MA50を起点に、東西方向に「LB・LC・・・LK・LL・・・LT・MA・MB・・・ML・MH」という2文字のアルファベットを、南北方向には南から北へ「26・27・・・49・50・51・・・70・71」という2桁の数字を与え、このアルファベットと数字の組み合わせからなる記号を各区画の名称とした。なお、区画の杭は4m間隔の東西基線と南北基線の交点すべてに打設し、前記の名称を南東隅の杭に記入した（第2図）。

調査は確認調査の結果に基づき、バックホーにより表土除去を行った。包含層の掘り下げ及び遺構精査は全て手作業で行った。出土した遺物には、遺跡名・出土位置または遺構名・出土層位・出土年月日を記録し、取り上げた。

調査の記録は、平面図・断面図の作成及び写真撮影によった。平面図・断面図の縮尺は1/20を原則とした。写真撮影には35mmモノクロ・カラーリバーサルフィルム及びデジタルカメラを使用した。航空写真はラジコン・ヘリコプターによるもので、委託業務で実施した。

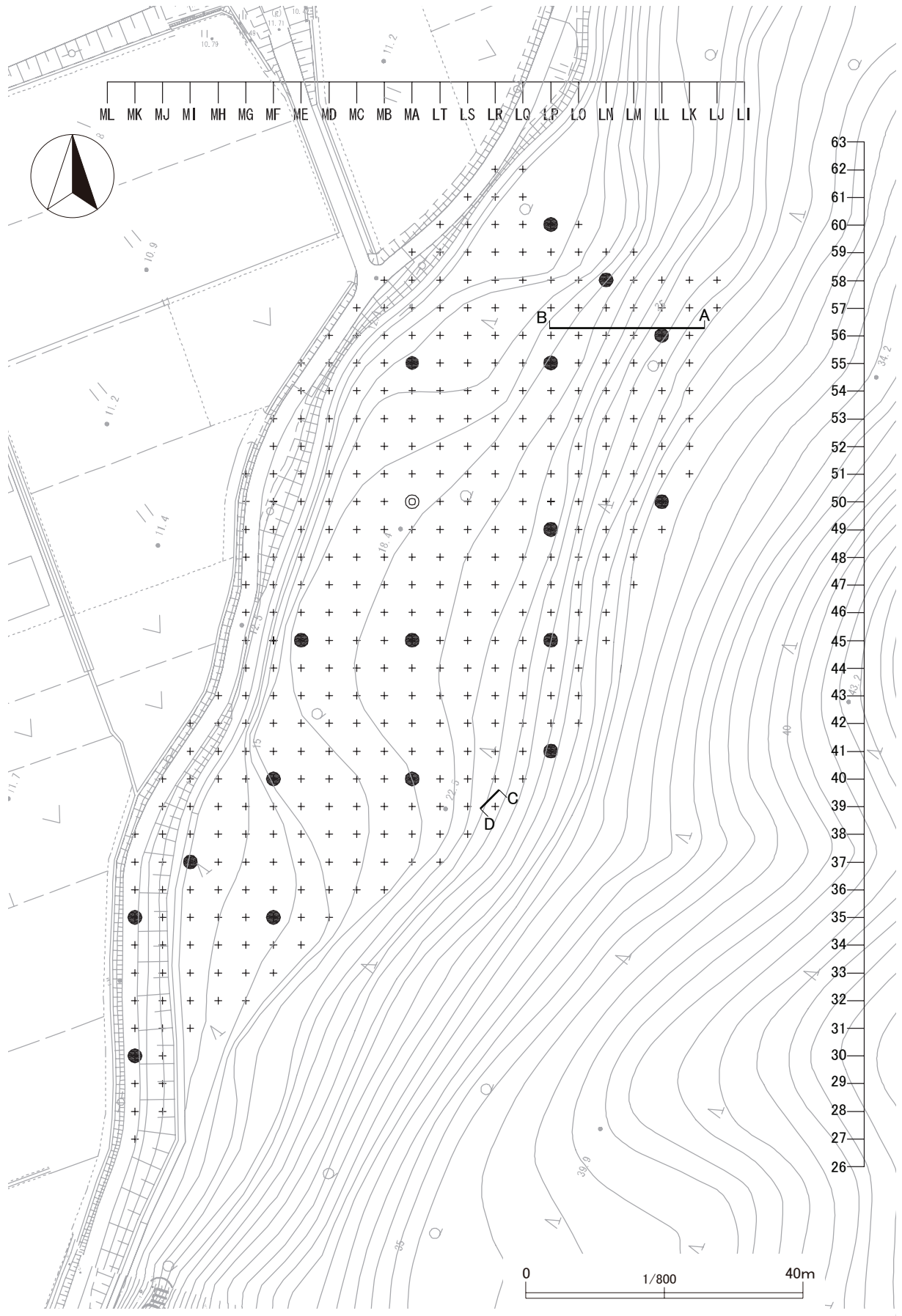
第2節 基本層序

遺跡の基本層序は調査区北側の沢状地形部・調査区南側の2か所で観察し、大別して9層に分層した。第IX層を地山としたが、地点によって砂質、シルト質、砂利があり細分している。表土下の第II層から古代の遺物包含層である。各層の詳細は以下のとおりである（第3図）。

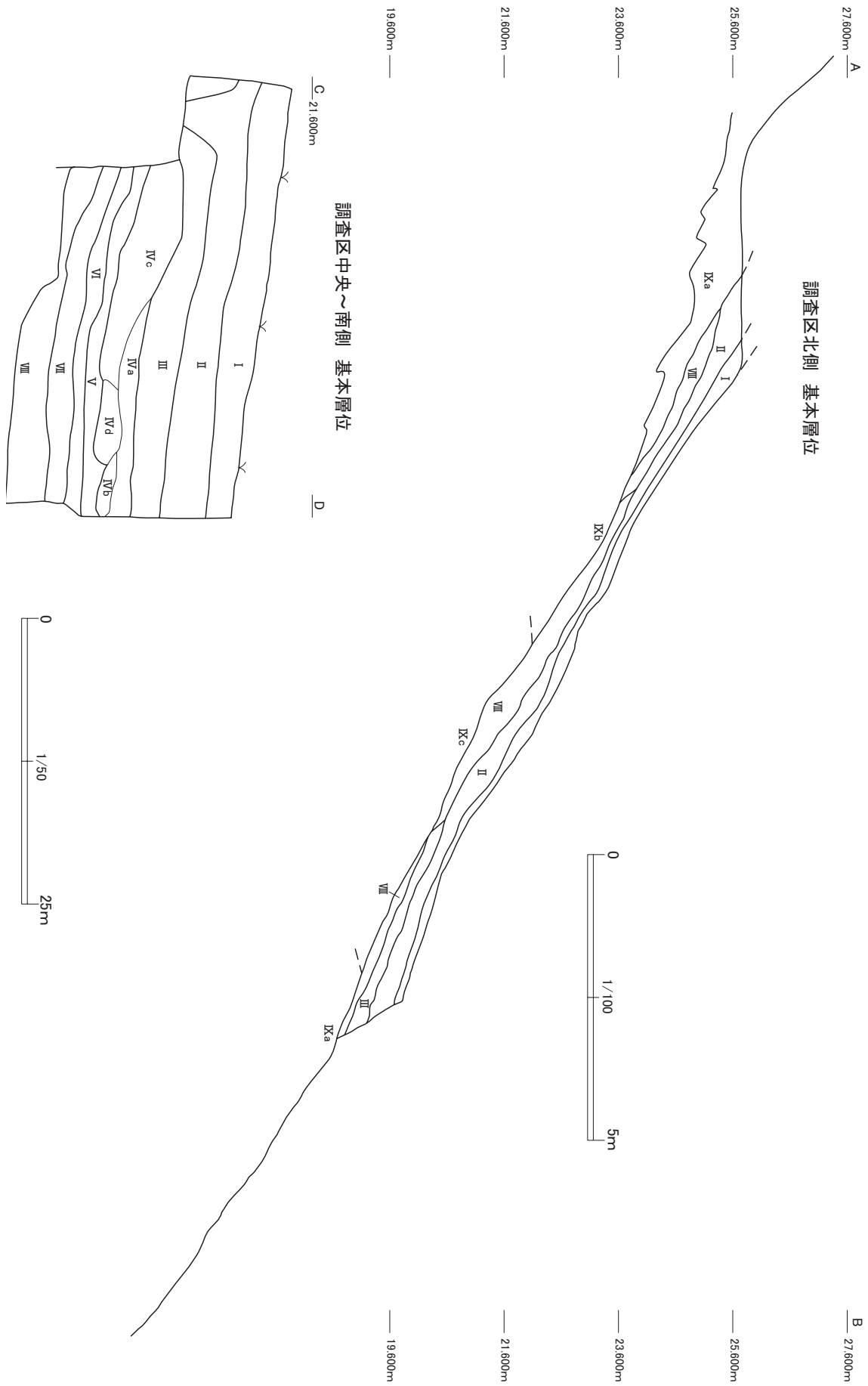
第I層	黒褐色(10YR2/2)	シルト質土	しまり弱	粘性弱	表土
第II層	黒褐色(10YR2/3)	シルト質土	しまり弱	粘性強	
第III層	褐色(10YR4/4)	砂質土	しまり中	粘性弱	炭化物1%・褐色土粒大10%含む
第IVa層	暗褐色(10YR3/4)	砂質土	しまり強	粘性弱	
第IVb層	暗褐色(10YR3/3)	砂質土	しまり強	粘性弱	
第IVc層	褐色(7.5YR4/4)	砂質土	しまり強	粘性弱	
第IVd層	褐色(10YR4/6)	シルト質土	しまり強	粘性強	IVc層の土粒中10%含む
第V層	褐色(7.5YR4/4)	シルト質土	しまり強	粘性中	
第VI層	褐色(7.5YR4/3)	シルト質土	しまり強	粘性中	



第1図 調査区と周辺地形



第2図 調査区設定と基本層位抽出地点



第3図 遺跡の基本層序図

第Ⅶ層	黒褐色(10YR2/2) 砂質土	しまり強	粘性弱	礫多く含む	
第Ⅷ層	浅黄橙色(10YR8/4) 砂質土	しまり中	粘性弱	黒褐色砂40%含む	地山漸移層
第Ⅸa層	浅黄橙色(10YR8/4) 砂	しまり中	粘性弱		地山
第Ⅸb層	浅黄橙色(10YR8/4) シルト質土	しまり中	粘性弱		地山
第Ⅸc層	浅黄橙色(10YR8/4) 砂	しまり中	粘性弱	砂利を多量に含む	地山

第3節 検出遺構と出土遺物

本調査区からは竪穴建物跡7棟、竪穴状遺構5基、テラス状遺構4基、道路側溝跡25条、溝跡7条、集石遺構16基、焼土遺構49基、土坑40基、柱穴様ピット529基を検出し、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土製品、石製品、金属製品などが出土した。平安時代には切土・盛土による大規模な整地の痕跡を確認した。以下時代ごとに遺構・遺物の詳細を記載する。なお、出土遺物詳細は時期や種類ごとに第14～23表に示す。

1 弥生時代の遺構と遺物

(1) 竪穴状遺構

SK I 547 (第4図、図版6-8)

位置：LQ50、LR50・51に位置する。

規模：長軸6.00m、短軸4.11mである。

確認状況：第Ⅸb層上面で暗褐色土の広がりとして確認。

重複遺構：SI 265、SK P 587・588・589・590 に切られる。

SK P 600・943・944 に切られる。

堆積土：4層に分けられた。

深さ・壁：深さ、30cmである。

出土遺物：弥生土器が出土した。そのうちの4点を掲載する。

所見：竪穴状の窪地から地床炉を検出した。炉の周りにはSK P 600・943・944・589・590があり上屋があった可能性がある。出土した遺物から弥生時代前期に帰属すると考えられる。

(2) 溝跡

SD349 (第4図、図版7-2・3)

位置：LT52、MA50・51・52に位置する。

規模：総延長12.5m、幅0.16～0.56m、深さ0.52mである。

確認状況：第Ⅸb層上面で、地山土を含む褐色土の広がりとして確認。

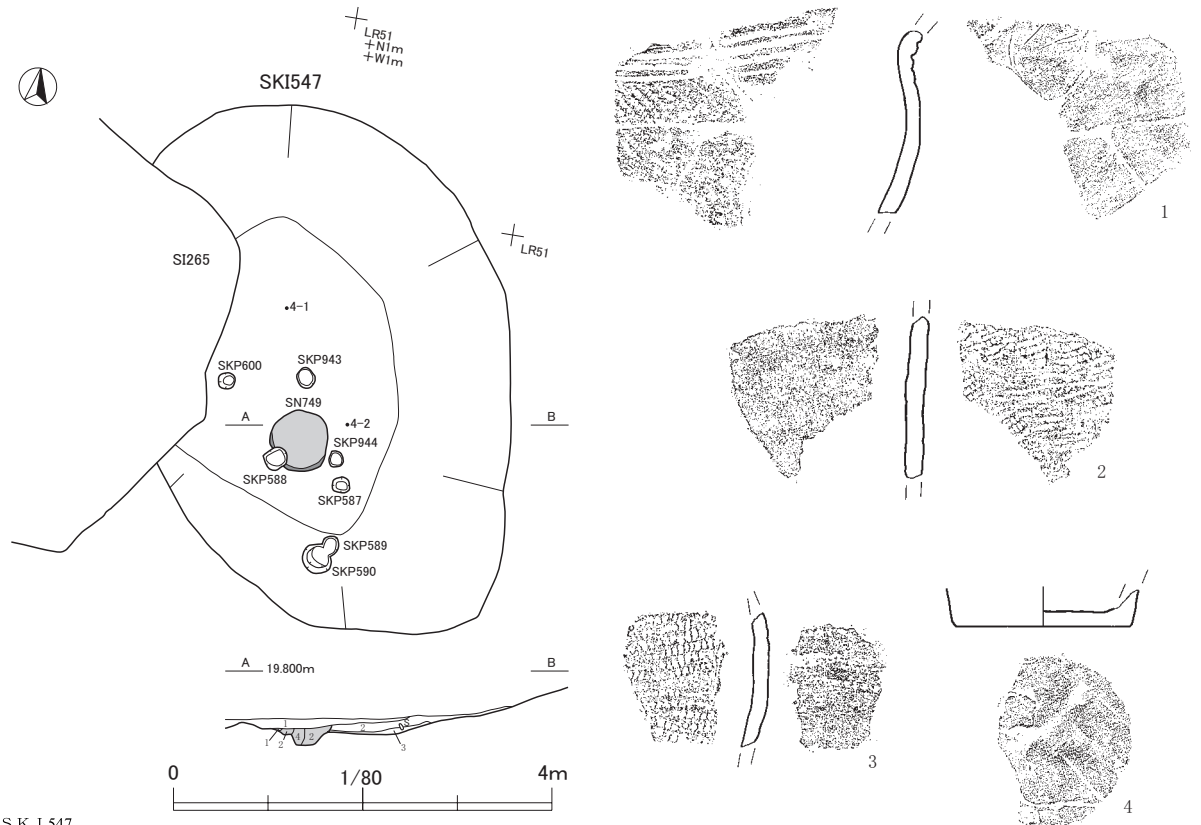
重複遺構：SD546、SK P 644・735に切られる。

堆積土：単層である。

出土遺物：なし。

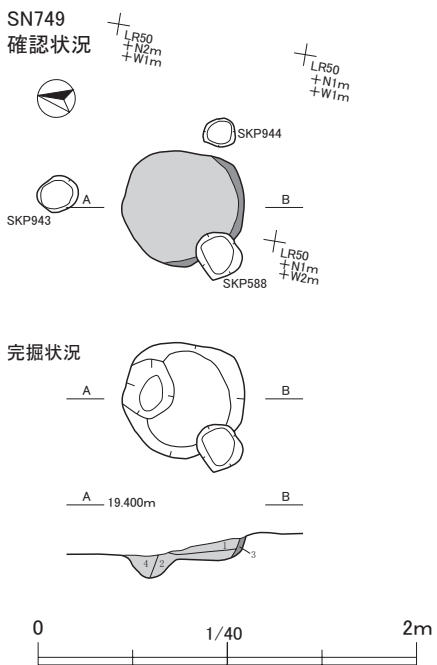
所見：遺物は出土しなかったが、検出面や堆積土から弥生時代の遺構と判断する。

第1章 調査の方法と成果



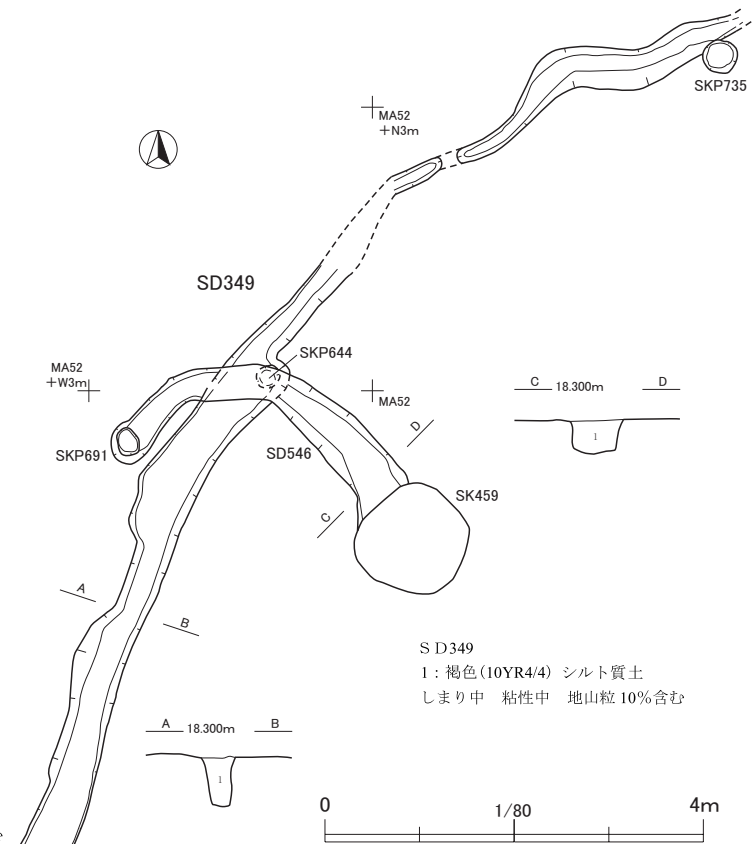
SK I 547

- 1: 暗褐色(10YR3/4) シルト質土 しまり中 粘性強 炭化物1%含む
- 2: 暗褐色(10YR3/3) シルト質土 しまり中 粘性中 炭化物1%未満・地山粒極小〜中3%含む
- 3: 褐色(10YR4/4) シルト質土 しまり中 粘性強 地山粒極小〜大20%含む



SN749

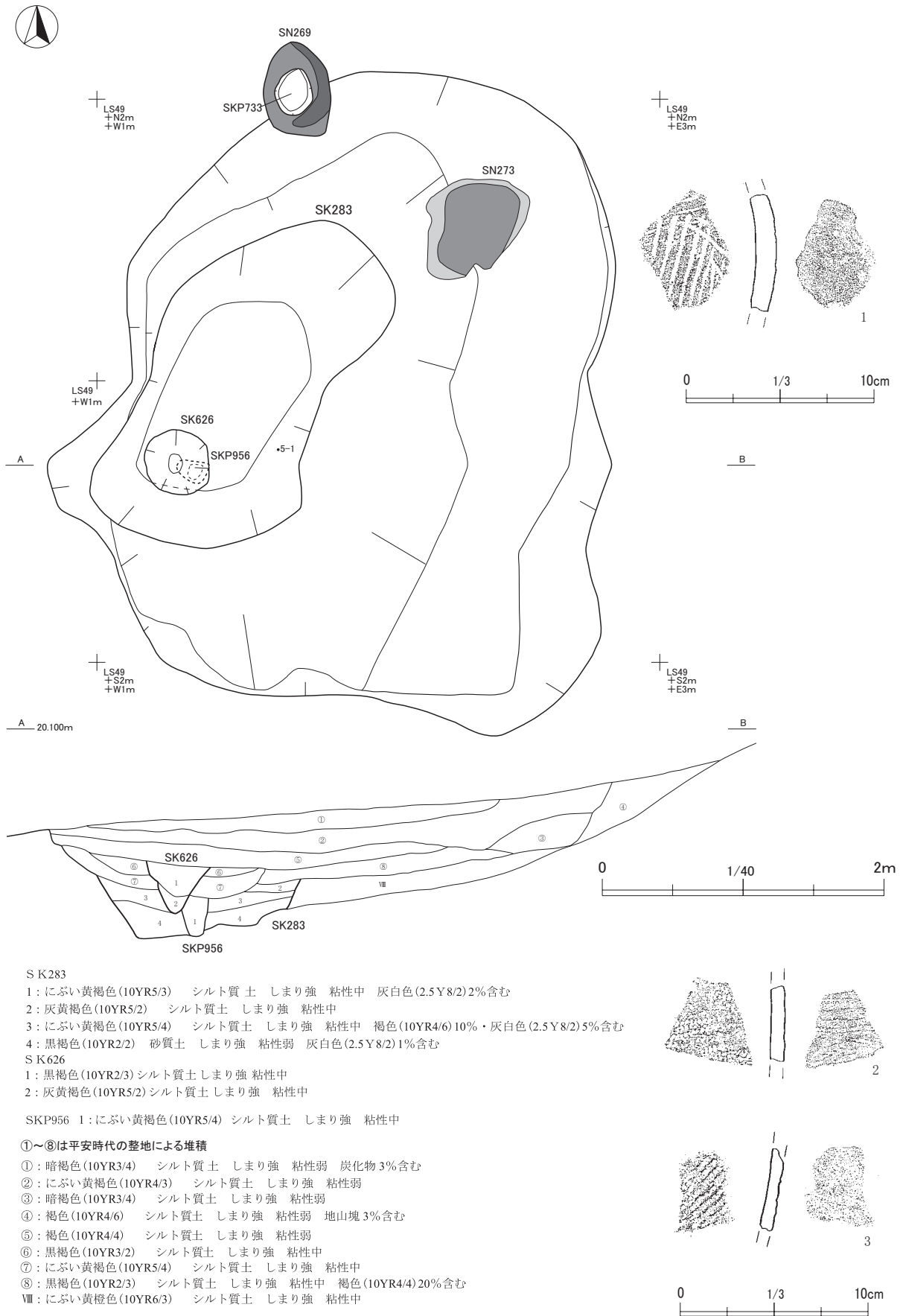
- 1: 暗褐色(10YR3/3) 砂質土 しまり中 粘性中 炭化物2%含む
- 2: 黒褐色(10YR3/2) 砂質土 しまり中 粘性中 炭化物20%含む
- 3: 暗赤褐色(5YR3/6) 砂質土 しまり中 粘性弱 炭化物5% 被熱部分
- 4: 黒褐色(10YR3/2) 砂質土 しまり中 粘性中 炭化物2%含む



SD349

- 1: 褐色(10YR4/4) シルト質土 しまり中 粘性中 地山粒10%含む

第4図 SKI547・SN749・SD349



第5図 SK283・SK626

(3) 土坑

S K 283 (第5図、図版7-5・6・7)

位置：L R 48・49、L S 48・49に位置する。

規模：各軸の長さは、長軸2.65m、短軸1.40m、深さ0.46mである。

確認状況：古代の盛土整地層の下、第IX b層上面で、にぶい黄褐色土・灰黄褐色土の広がりとして確認。

重複遺構：S K 626・S K P 956に切られる。

堆積土：4層に分けられた。

出土遺物：弥生土器が4点出土した。そのうち、3点を掲載する。

所見：検出した層位と出土遺物から弥生時代の遺構である。遺物から詳細な時期は不明であるが、周囲の遺構や同時期の遺物から前期に属すると考えられる。

(4) 柱穴様ピット (第4表)

平安時代に大規模な整地が行われているため、層位的に弥生時代と捉えられたものはないが、弥生土器が出土したピットが3基ある。

2 平安時代の遺構と遺物

(1) 竪穴建物跡

S I 327 (第6図、図版8-1、第12表)

位置：M A 42・43に位置する。

規模：東壁4.06m、(西壁3.70m)、南壁2.30m、北壁1.70mである。

確認状況：第IX a層上面で暗褐色土の広がりとして確認。

重複遺構：S N 277に切られる。

堆積土：3層に分けられた。

壁：残存する各壁の高さは、東壁0.27m、西壁0.08mである。

出土遺物：須恵器2,074グラム、土師器937グラム出土した。そのうちの4点を掲載する。第7図1は土師器坏であるが、底部には焼成後に施された孔があげられている。第7図3は須恵器甕の転用硯であり、意図的に打ち欠いて破壊した痕跡が見られる。

所見：床面から柱穴を5基検出しており、詳細は第11表に示す。また地床炉と考えられる焼土(S N 354)を1基検出している。出土した遺物から9世紀後半から10世紀前半に属する遺構と考えられる。

S I 338 (第6図、図版8-2、第12表)

位置：L T 46、M A 45・46に位置する。

規模：東壁3.63m、西壁2.60m、南壁2.90m、北壁2.71mである。

確認状況：盛土整地層下の第IX a層上面で黒褐色土・黄褐色土の広がりとして確認。

重複遺構：なし。

堆積土：2層に分けられた。

壁：残存する各壁の高さは、東壁0.44m、西壁0.10m、南壁0.21m、北壁0.32mである。

出土遺物：なし。

所見：床面から柱穴を5基検出した。詳細は第11表に掲載する。確認した層位から盛土整地前に構築された遺構であり、出土遺物はないが9世紀代の遺構と考えられる。

(2) 竪穴状遺構

SK I 352 (第6図、図版8-3)

位置：LT42に位置する。

規模：東壁1.64m、西壁1.73m、南壁1.58m、北壁1.87mであり、深さは0.12mである。

確認状況：第IX b層上面で暗褐色土の広がりとして確認。

重複遺構：SK P 828・955に切られる。

堆積土：単層である。

出土遺物：須恵器1点(第7図5)が出土した。

所見：底面から地床炉と考えられる焼土を1基検出した。出土した遺物から9世紀前半の遺構である。

(3) テラス状遺構

丘陵裾部の緩斜面を切土し、平坦面を形成している場所を4カ所で確認した。いずれの遺構底面にも焼土遺構が存在し、柱穴を伴うものもある。堆積土には古代の遺物を含む遺構が多く、SZ 237からは9世紀前半の須恵器坏が出土している。

SZ 236 (第8図、図版8-4・5)

位置：MA46・47・48・49、MB46・47・48・49、MC46・47に位置する。

規模：長軸14.60m、短軸4.70mであり、深さは0.80mである。

確認状況：第IX b層上面にて黄褐色土・にぶい黄褐色土の広がりとして確認。

重複遺構：SD372、SK 740に切られる。

堆積土：3層に分けられた。盛土整地に伴い人為的に埋められている。

出土遺物：須恵器63グラム、土師器691グラム出土した。

所見：底面でSN258、SN351、整地後の面でSN230、SN303を検出した。盛土整地の前後に焼土を形成した面が少なくとも2時期がある。底面からは多くの柱穴様ピットを検出しているが、大きさ、並びが不規則であり、建物があつたかは不明である。

SZ 237 (第9図、図版8-4・6・7・8、9-1)

位置：MC48・49・50、MD47・48・49・50、ME47・48に位置する。

規模：長軸15.05m、短軸4.92mであり、深さは1.24mである。

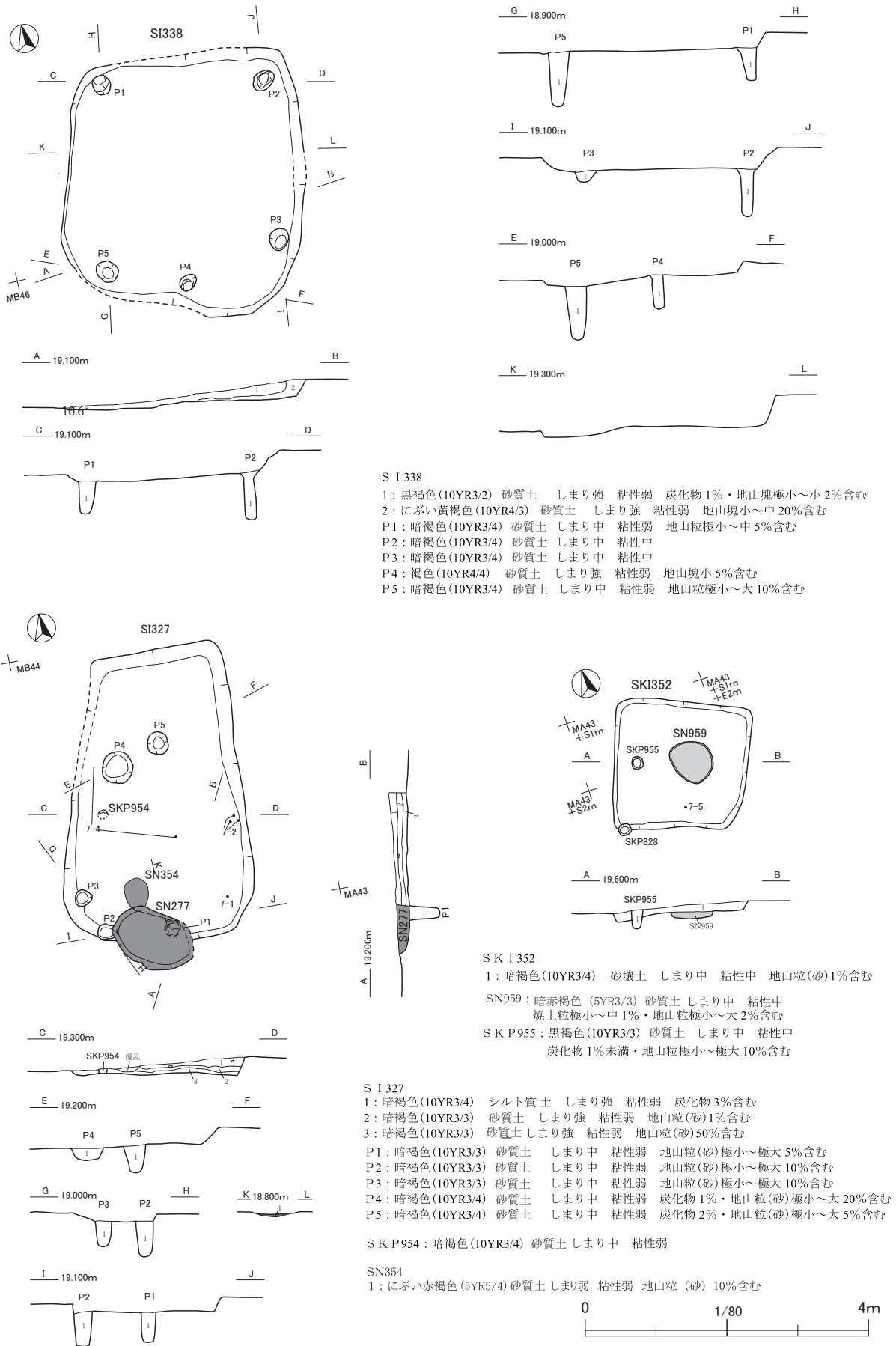
確認状況：第IX b層上面にて暗褐色土の広がりとして確認。

重複遺構：SK P 706に切られる。

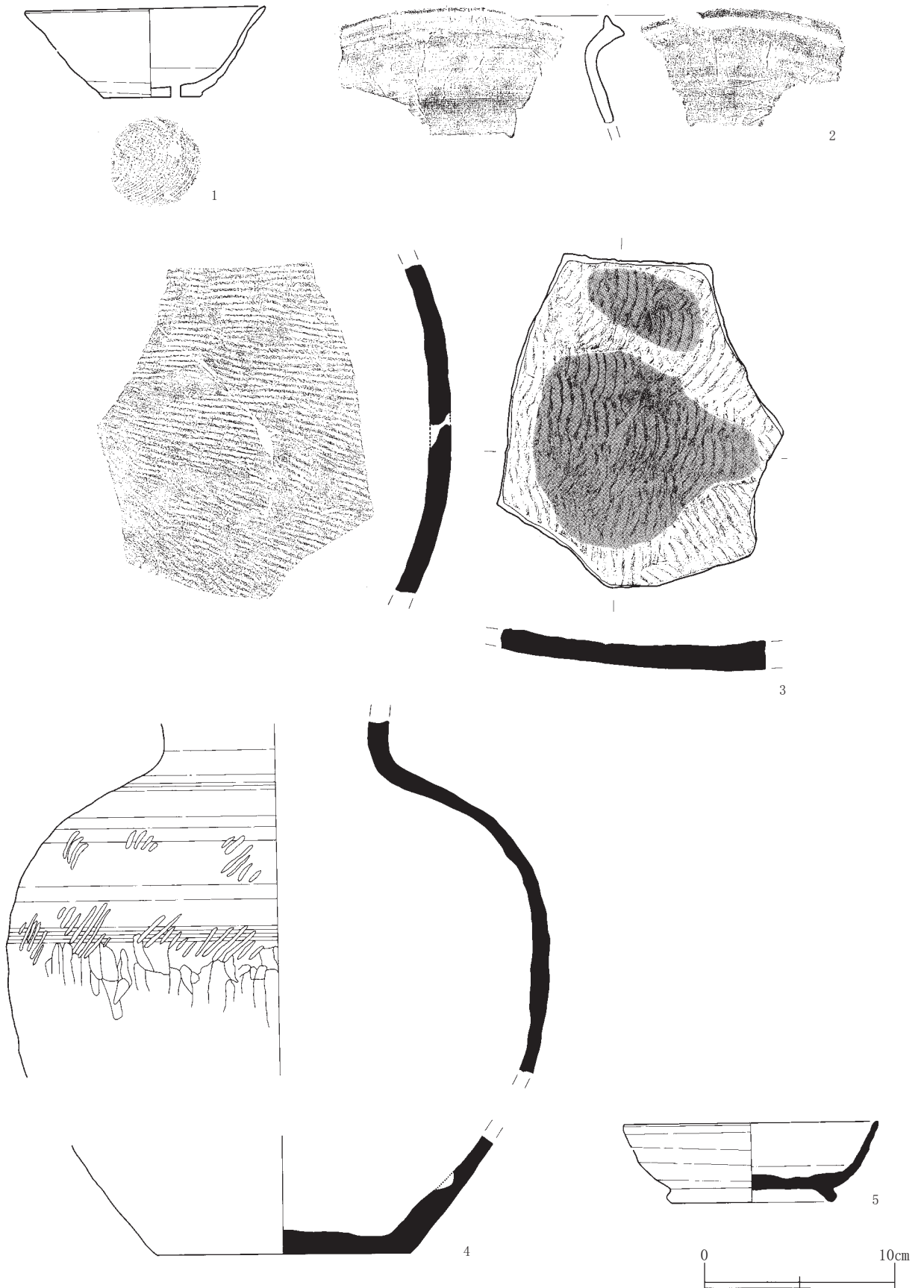
堆積土：5層に分けられた。

出土遺物：須恵器3,293グラム、土師器9,824グラム、製塩土器231グラム出土した。そのうち26点を掲載する。第11図1は須恵器甕の転用硯である。

第1章 調査の方法と成果



第6図 S I 338・S I 327・S K I 352



第7図 遺構内出土遺物(1)

所 見：底面から集石遺構（S Q339）と焼土遺構（S N340）を検出した。S N340からは二次的に被熱した土師器甕が出土しているため地床炉と考えられる。これら底面の施設は出土した遺物から9世紀前半に属すると考えられる。本来は西側へ平坦面がさらに続いていたと思われるが、近代の用水路工事の際に削り取られている。

S Z690（第13図、図版9-2・3）

位 置：L Q53、L R52・53、L S52・53、L T53・54・55、MA53・54・55に位置する。

規 模：長軸13.85m、短軸8.53mであり、深さ1.28mである。

確認状況：第IX b層上面にて褐色土・暗褐色土・黒褐色土・灰黄褐色土の広がりとして確認。

重複遺構：なし。

堆 積 土：10層に分けられる。この堆積状況から、平坦面を形成するために北側に盛土整地したことが分かる。

出土遺物：須恵器8グラム、土師器101グラム、弥生土器237グラムが出土した。

所 見：底面から地床炉（S N341）を検出した。この周囲から柱穴様ピットを検出しており、上屋があった可能性がある。

S Z628（第14図、図版9-4）

位 置：L O50に位置する。

規 模：長軸3.42m、短軸1.60mであり、深さ0.72mである。

確認状況：第IX b層上面で暗褐色土の広がりとして確認。

重複遺構：なし。

出土遺物：なし。

所 見：床面から地床炉を検出した。

（4）道路側溝跡

平安時代の道路側溝跡は調査区南側を中心に22条検出した（第1表）。度重なる整地のため、溝跡として確認することができたのは、最も上面で検出したSM206とSM686の2条だけである。これらより下層のものは、帯状に延びる硬化面のみを検出したものである。最下層で検出したSM411は帯状ではなく面的に硬化面が確認されたことから、路面である可能性もある。硬化する要因としては水酸化鉄分が沈着し硬化する、道路を通行する際に轍状に硬化する等が挙げられるが、最上層で確認した溝跡の深さから（第17図）、前者であると想定される。地形的に最も低く、水が流れ込みやすい、つまり鉄分が沈着しやすいという要因から調査区南側での検出が多い。これらの道路側溝跡には、十和田a火山灰を挟んで7時期の変遷があることを確認した（第15図）。

【1期】SM411

層位的に十和田a火山灰降下前の構築である。最大幅4mの不整形の硬化面の広がり。平坦ではなく全面的に小さな凸凹がみられ、路面である可能性も考えられる。

【2期】 S M604

火山灰堆積直後の構築。幅0.4m前後で帯状の硬化面として確認。

【3期】 S M344

S M604の上位西側に近接して構築。幅0.3～0.4mの帯状の硬化面として確認。

【4期】 S M248

S M344の上位層西側に近接して構築。幅0.3m前後の帯状の硬化面として確認。

【5期】 S M207

S M248の上位層で、幅0.3m前後の帯状の硬化面として確認。この層位に対応する層で馬の歯・下顎骨を出土したS K320を検出している。さらに鍛冶炉と思われる焼土遺構S N249はS M207に先行し、かつS M248の上位層であることから5期の路面形成に先立って構築されたことになる。

【6期】 S M686

S M344の上位層西側に近接して構築。幅0.3m前後の帯状の硬化面として確認。

【7期】 S M206 S M255

S M206は幅0.5m前後の溝・帯状の硬化面として、S M255は幅0.5m前後の帯状の硬化面として、それぞれS M686の上位層で確認。S M206が東側溝、S M255が西側溝である可能性が高い。路面は判然としないが、溝で挟まれた範囲を推定路面とすれば、その幅は約5.6～6.8mである。

以上、検出した道路側溝跡は西側の古期砂丘を避けるように、東側から下がってくる丘陵の裾部を切土して構築していることが検出位置と堆積土の観察から読み取ることができる。

7期に分けられた道路側溝跡は、層位的に火山灰降下直前から10世紀中の範囲に収まることから、比較的短い期間で側溝の更新を繰り返している。その要因として側溝跡が造られた遺跡の南端部は遺跡内でも最も低い部分であり、土砂の流れ込みが相当量あったことが考えられる。

S M686に隣接して検出したS K P280から土師器坏（第16図）が正位で出土している。この坏は底部下端にケズリが施された、秋田城跡調査事務所の分類では赤褐色土器坏Bと呼ばれるものである。S M686自体が底面のみの検出であるためS K P280との前後関係は不明であるが、道路に関連して意図的に埋納されたものである可能性が高い。

(5) 焼土遺構（第19～25図 図版9-8～10-5 第2表）

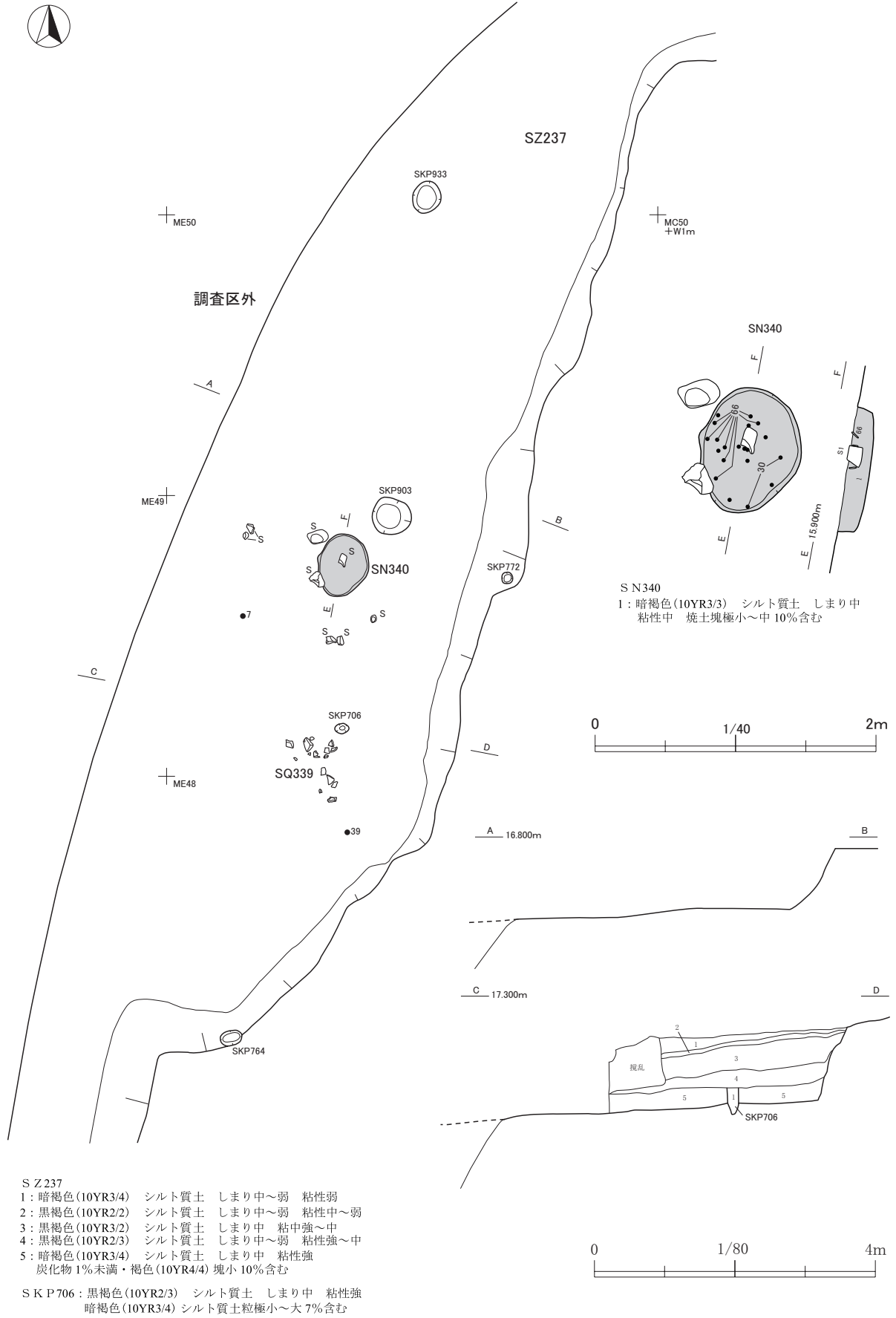
出土遺物または層位的に平安時代の焼土遺構と捉えられるものは42基である。第1表に詳細を示す。このうち、S N239からは土師器甕の他に製塩土器が出土しており、製塩に関連した遺構と考えられる。また、S N257・S N256の南から製塩土器の小破片が多量に出土している（第21図・図版17）これらの焼土遺構も製塩に関連した遺構である可能性がある。S N249からは粒状滓が出土しており、鍛冶関連遺構と想定される。

(6) 土坑（第14・26～27図 図版10-6～10-8 第3表）

出土遺物または層位的に平安時代の土坑と捉えられるものは16基である。第2表に詳細を示す。盛土整地より下層で検出したS K626から製塩土器がまとまって出土している（図版10-6）。また、道路構築に伴う整地面で検出したS K320から馬の歯・下顎骨が出土している。第2章第3節参照。



第8図 SZ236・SN230・303・351・258

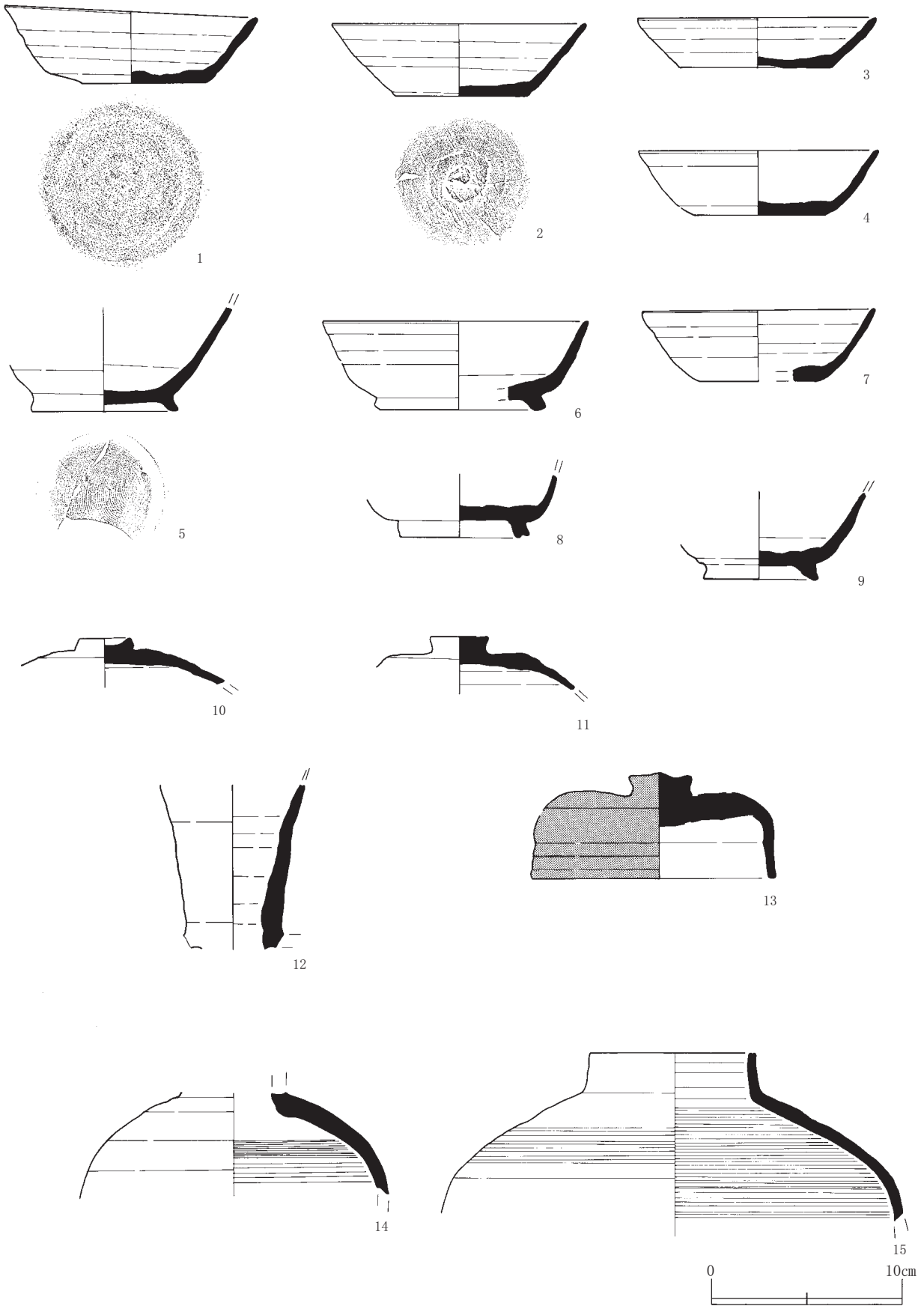


S Z 237

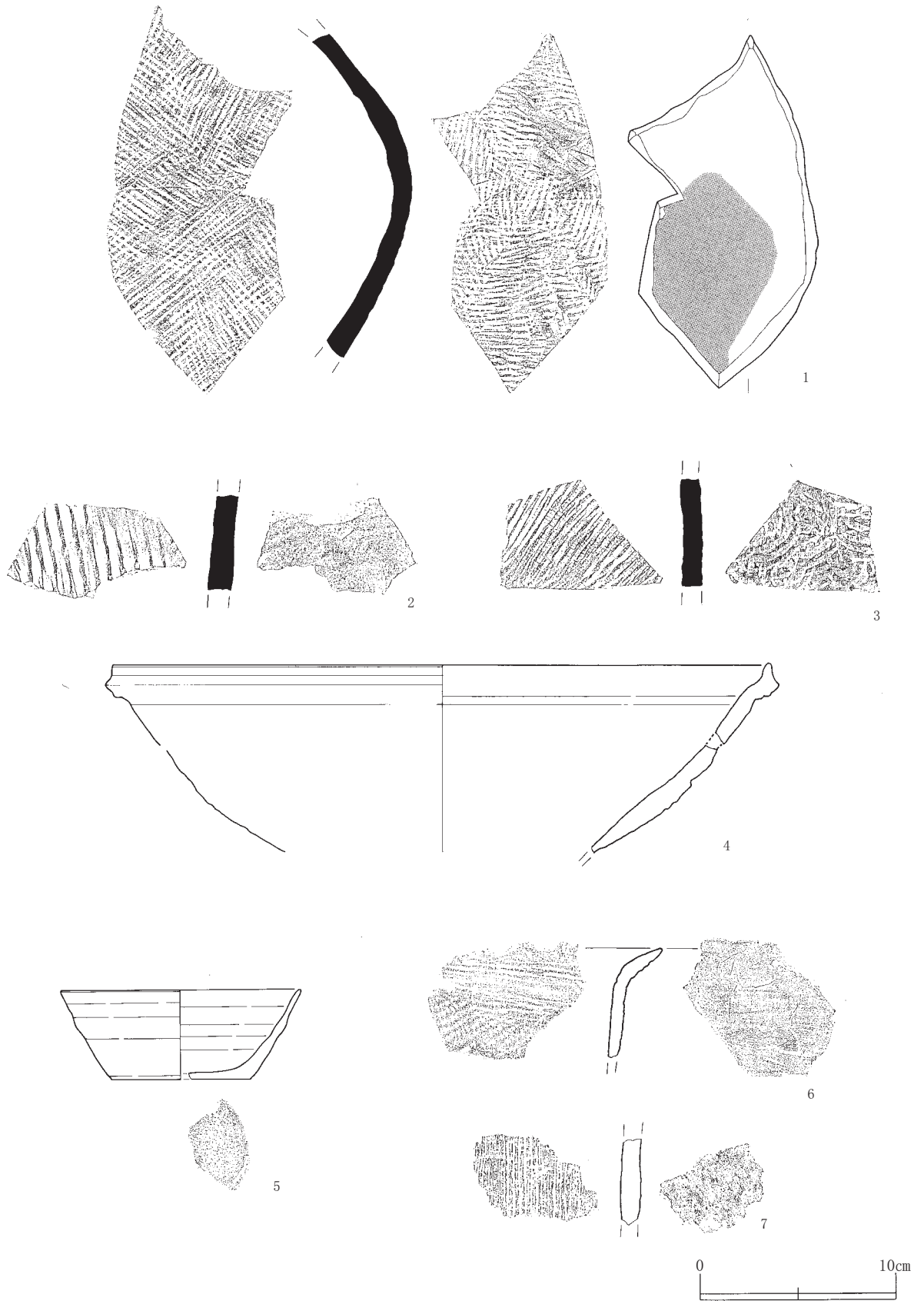
- 1: 暗褐色(10YR3/4) シルト質土 しまり中~弱 粘性弱
- 2: 黒褐色(10YR2/2) シルト質土 しまり中~弱 粘性中~弱
- 3: 黒褐色(10YR3/2) シルト質土 しまり中 粘中強~中
- 4: 黒褐色(10YR2/3) シルト質土 しまり中~弱 粘性強~中
- 5: 暗褐色(10YR3/4) シルト質土 しまり中 粘性強
炭化物1%未満・褐色(10YR4/4) 塊小10%含む

- S K P 706: 黒褐色(10YR2/3) シルト質土 しまり中 粘性強
暗褐色(10YR3/4) シルト質土粒極小~大7%含む

第9図 S Z 237・S N 340・S Q 339



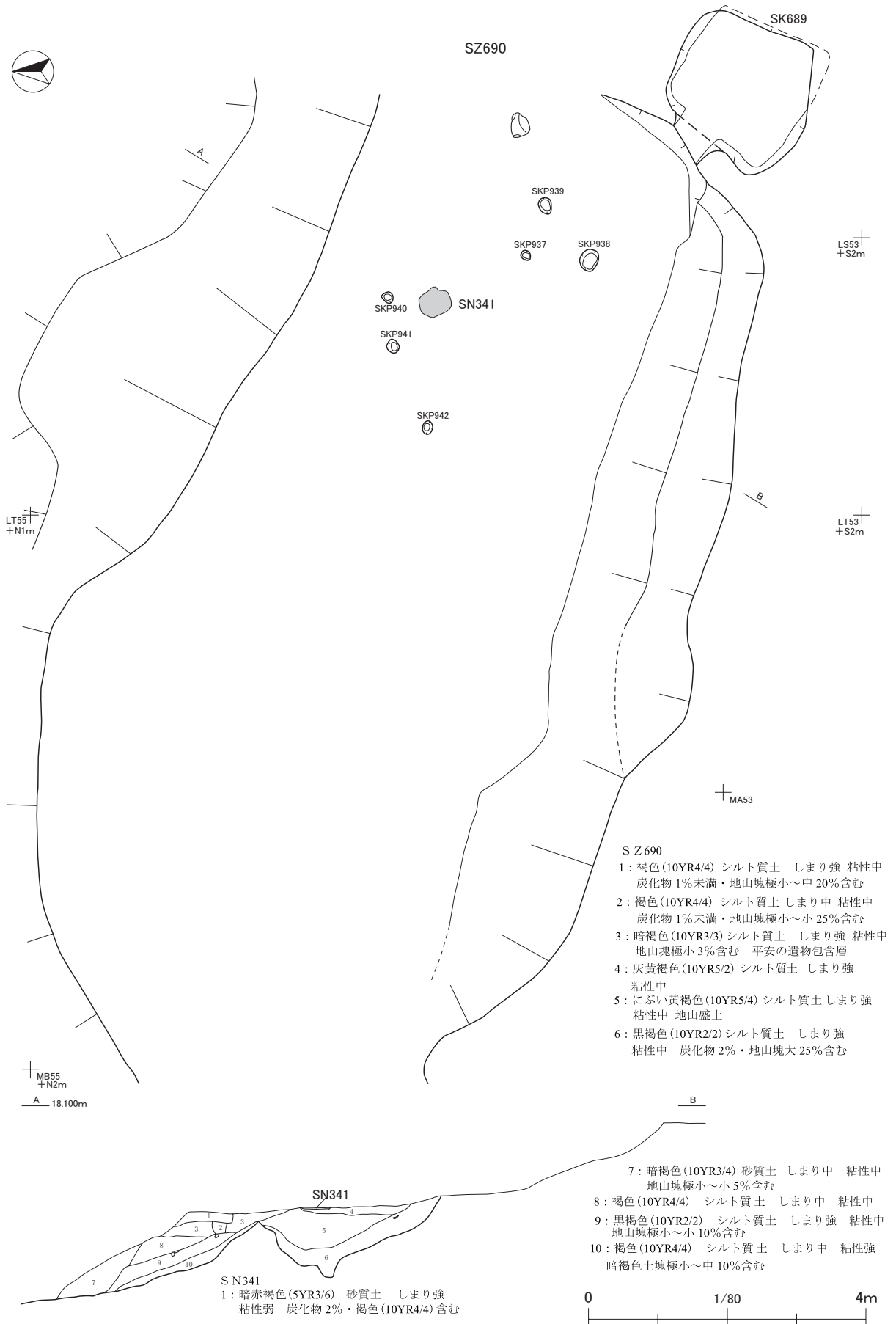
第10図 遺構内出土遺物（2）



第11図 遺構内出土遺物（3）

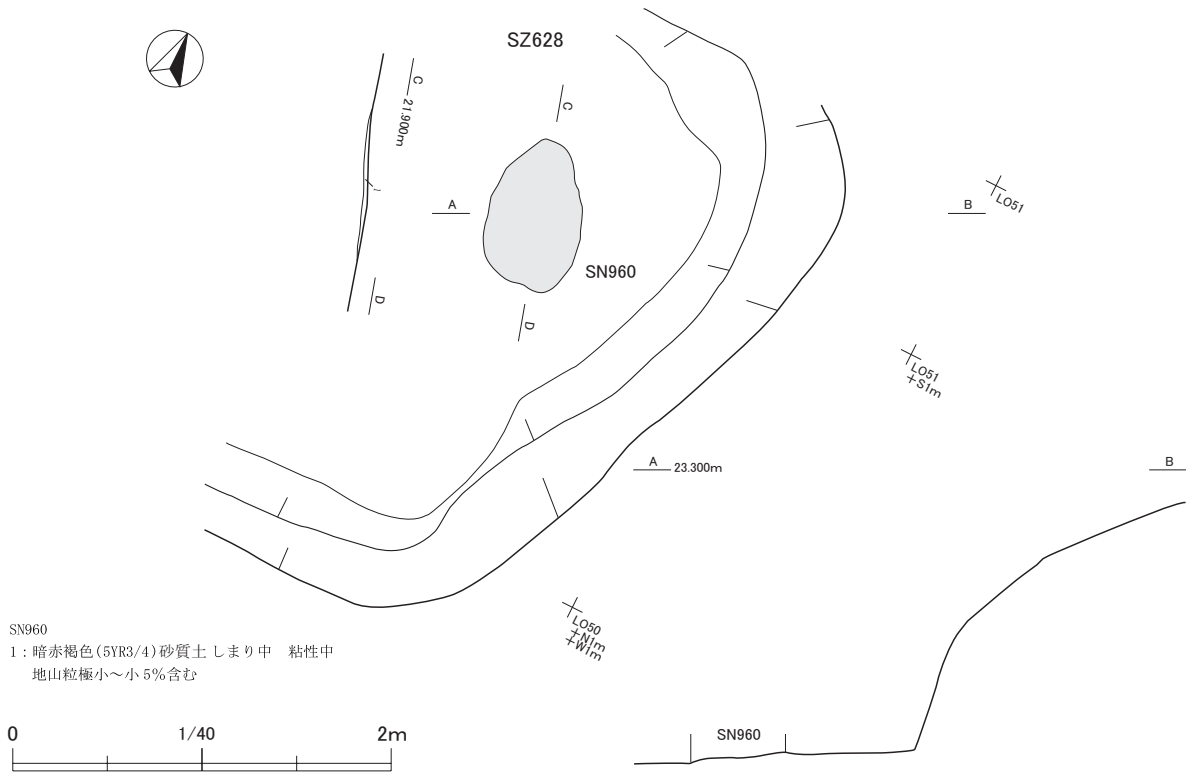


第12図 遺構内出土遺物（4）



第13図 S Z 690・S N 341

第1章 調査の方法と成果

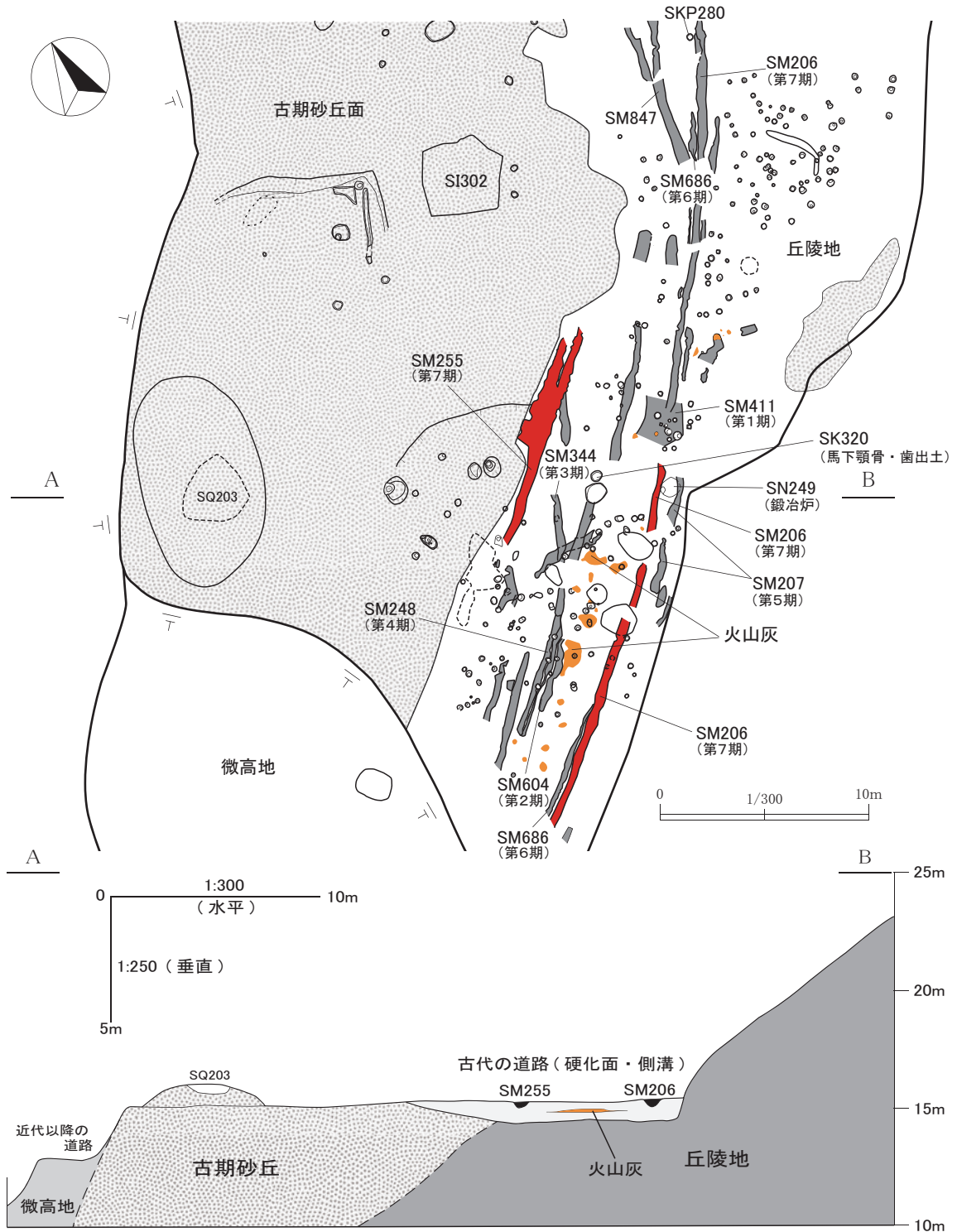


第14図 S Z 628

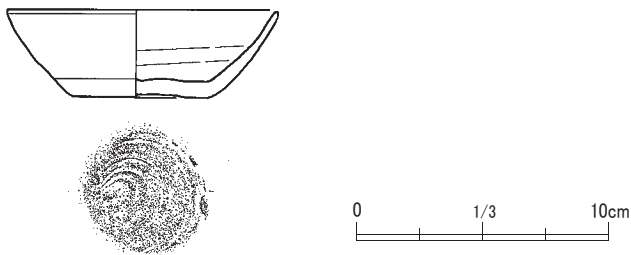
遺構名	検出区	検出長 (m)	重複(上下)		時期
			切る(下)	切られる(上)	
SM206	LP44・45, LQ44~46 LR43, LS41~43, LT39~41, MA38 MB36~39, MC35・36, MD34・35, ME33・33, MF32・33	(63.8)	SM686 SM411 SN249 (SN253) SN581 SKP725 SKP702	SM259	7期
SM207	MA38・39, MB36・37・38, MC35・36, MD34・35, MF32	(33.3)	SN249		5期
SM248	MC36・37, MD35・36, ME34・35, MF33・34	(14.6)	(SM344) SKP390 SKP433 SKP297 SKP298	SKP359 SKP438 SKP399 SKP722	4期
SM255	MC37, MD36・37, ME35・36・37, MF35	11.2	(SM815)		7期
SM259	LQ・LR43, LS42・43, LT42, MA・MB42	(17.3)	SM206 S1289 SN277 SN282		近世
SM260	LT42・43	2.7	SN276 SN281		近世以降か
SM315	MD37	5.34			
SM344	ME34・35・36, MF33・34	(11.2)	(SM604)	SKP343 SKP605 SKP359 (SM248)	3期
SM411	MA36, MB36・37, MC36, MD・MF35	-		(SM344) (SM206) SKP440~452	1期
SM604	ME・MF34	3.68		SKP359 (SM344) SKP358	2期
SM627	LP52・53, LQ51・52	(10.4)			
SM629	LO51・52	(4.4)			
SM686	LT40・41, MA38・39, MB37・38	(21.4)		SM206	6期
SM806	MF34, MG33	5.85			
SM807	MF・MG34	2.73			
SM813	MD34	1.05			
SM814	MD34	1.56			
SM815	MD36・37	2.55		(SM255)	
SM847	MA39・40	(7.0)			
SM848	MA40	2.82			
SM849	MA41・42	(1.6)	SN271 SKP803 SKP822	SM961	
SM850	MA41・42	1.81	SN214	(SM961)	
SM869	MB36	0.60			
SM945	MB38	1.44			
SM961	MA42	2.19	SM849 (SM850) SKP820		近世以降か

※検出長の()内の数値は推定値である

第1表 道路側溝跡一覧

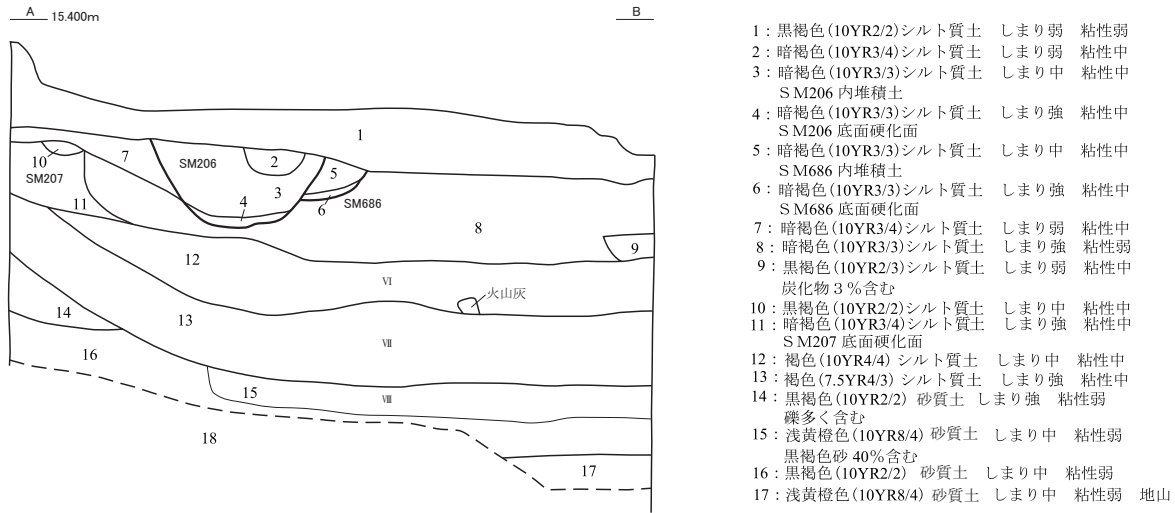


第15図 道路側溝跡の立地と変遷

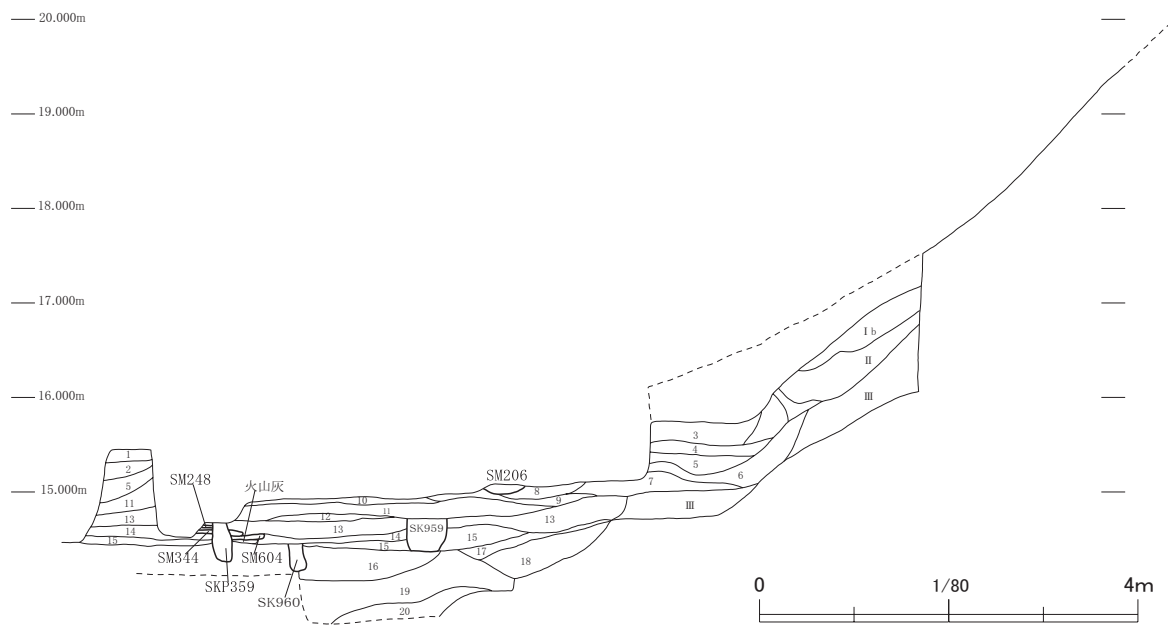


第16図 SKP280出土土師器

第1章 調査の方法と成果



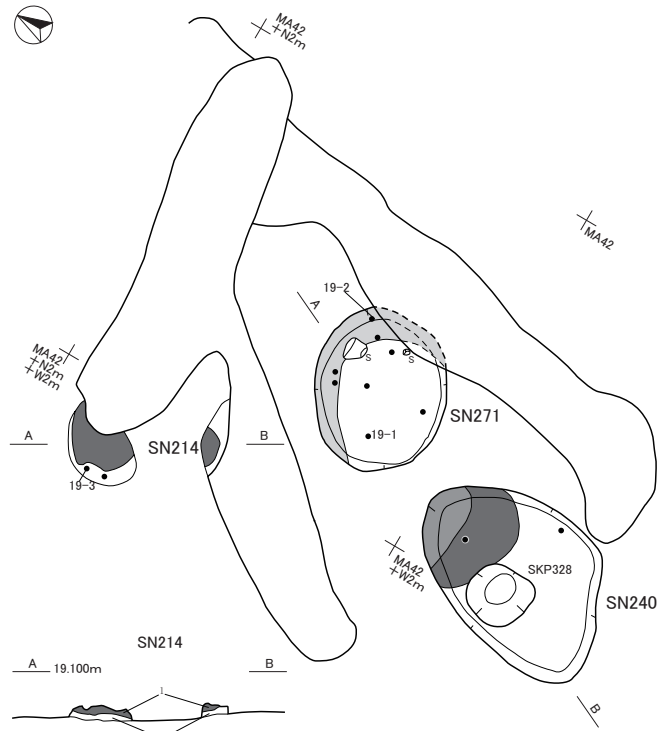
第17図 調査区南壁断面図



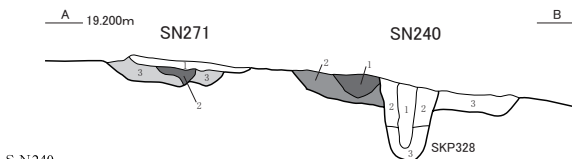
- 1: にぶい黄褐色(10YR4/3) 砂質土 しまり強 粘性弱
- 2: 浅黄褐色(10YR8/4) 砂土 しまり強 粘性弱 黒褐色土 30%含む
- 3: 黒褐色(10YR2/2)シルト質土 しまり弱 粘性強
- 4: 黒褐色(10YR3/2)シルト質土 しまり弱 粘性強
- 5: 黒褐色(10YR2/2)シルト質土 しまり弱 粘性強 炭化物粒 1%
- 6: 黒褐色(10YR3/2)シルト質土 しまり弱 粘性強 炭化物粒 3%
- 7: 暗褐色(10YR3/3)シルト質土 しまり弱 粘性弱
- 8: 暗褐色(10YR3/4)シルト質土 しまり中 粘性弱 炭化物粒 1%
- 9: 黒褐色(10YR2/3)シルト質土 しまり弱 粘性中 炭化物粒 3%
- 10: 暗褐色(10YR3/4)シルト質土 しまり弱 粘性中
- 11: 黒褐色(10YR2/3)シルト質土 しまり弱 粘性中 炭化物粒 3%
- 12: 黒褐色(10YR3/2)シルト質土 しまり中 粘性中 黄褐色土 3%含む
- 13: 黒褐色(10YR2/2)シルト質土 しまり中 粘性中
- 14: 黒褐色(10YR2/3)シルト質土 しまり弱 粘性強 暗褐色土 15%含む
- 15: 暗褐色(10YR3/3)シルト質土 しまり中 粘性弱
- 16: 褐色(10YR4/4) 砂質土 しまり中 粘性弱
- 17: 黒褐色(10YR3/2)砂質土 しまり中 粘性中
- 18: 褐色(10YR4/4) 砂質土 しまり強 粘性弱 黄褐色土 10%含む
- 19: 黒褐色(10YR2/3)砂質土 しまり中 粘性弱 地山塊中 10%含む
- 20: 褐色(10YR4/4)シルト質土 しまり強 粘性中 黒褐色土 20%含む

- I b: 暗褐色(10YR3/4)シルト質土 しまり弱 粘性中
 - II: 黒褐色(10YR2/3)シルト質土 しまり中 粘性強
 - III: にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質土 しまり弱 粘性中
- SK959
 - 1: 黒褐色(10YR3/2)シルト質土 しまり中 粘性弱
 - SKP359
 - 1: 黒褐色(10YR3/2)シルト質土 しまり弱 粘性弱
 - SM248
 - 1: 黒褐色(10YR2/2)シルト質土 しまり強 粘性弱
 - SM344
 - 1: にぶい黄褐色(10YR5/3)シルト質土 しまり強 粘性弱
 - SM604
 - 1: 黒褐色(10YR3/2)シルト質土 しまり強 粘性弱
 - SM206
 - 1: 暗褐色(10YR3/4)シルト質土 しまり強 粘性弱

第18図 道路構築に伴う整地状況断面図

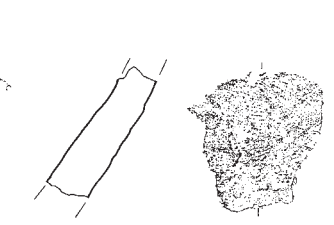
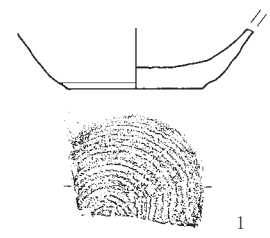


S N 214
 1: 赤褐色(5YR4/8) シルト質土 しまり強 粘性中
 2: 黒褐色(10YR2/3) シルト質土 しまり強 粘性弱

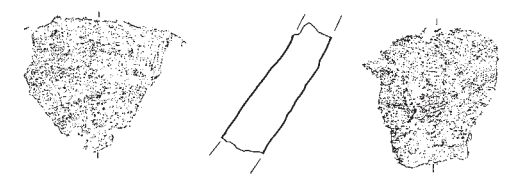


S N 240
 1: 暗褐色(5YR3/4) シルト質土 しまり強 粘性中 暗褐色(10YR3/3)3%含む
 2: 暗褐色(7.5YR3/4) シルト質土 しまり中 粘性中 黄褐色(7.5YR8/8)1%未満含む
 3: 暗褐色(10YR3/4) シルト質土 しまり中 粘性中

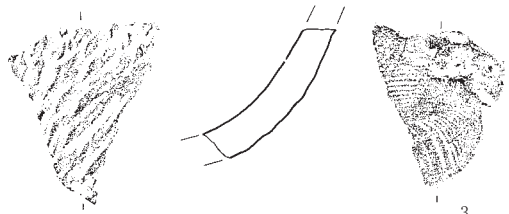
S N 271
 1: 暗褐色(10YR3/4) シルト質土 しまり中 粘性中
 暗褐色(7.5YR3/4)10%・黒褐色(10YR2/3)30%含む
 2: 暗褐色(7.5YR3/4) シルト質土 しまり強 粘性中
 暗赤褐色(5YR3/6)10%・暗褐色(10YR3/4)10%含む
 3: 褐色(7.5YR4/4) シルト質土 しまり中 粘性中 炭化物1%・赤褐色(5YR4/8)粒1%含む



SN271 出土遺物

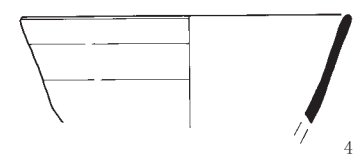


2



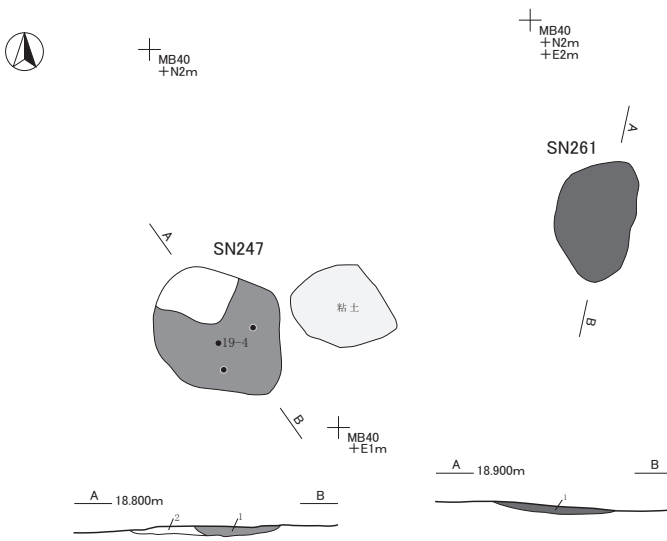
3

SN214 出土遺物



4

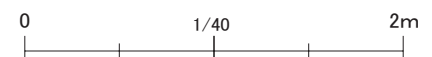
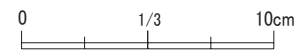
SN247 出土遺物



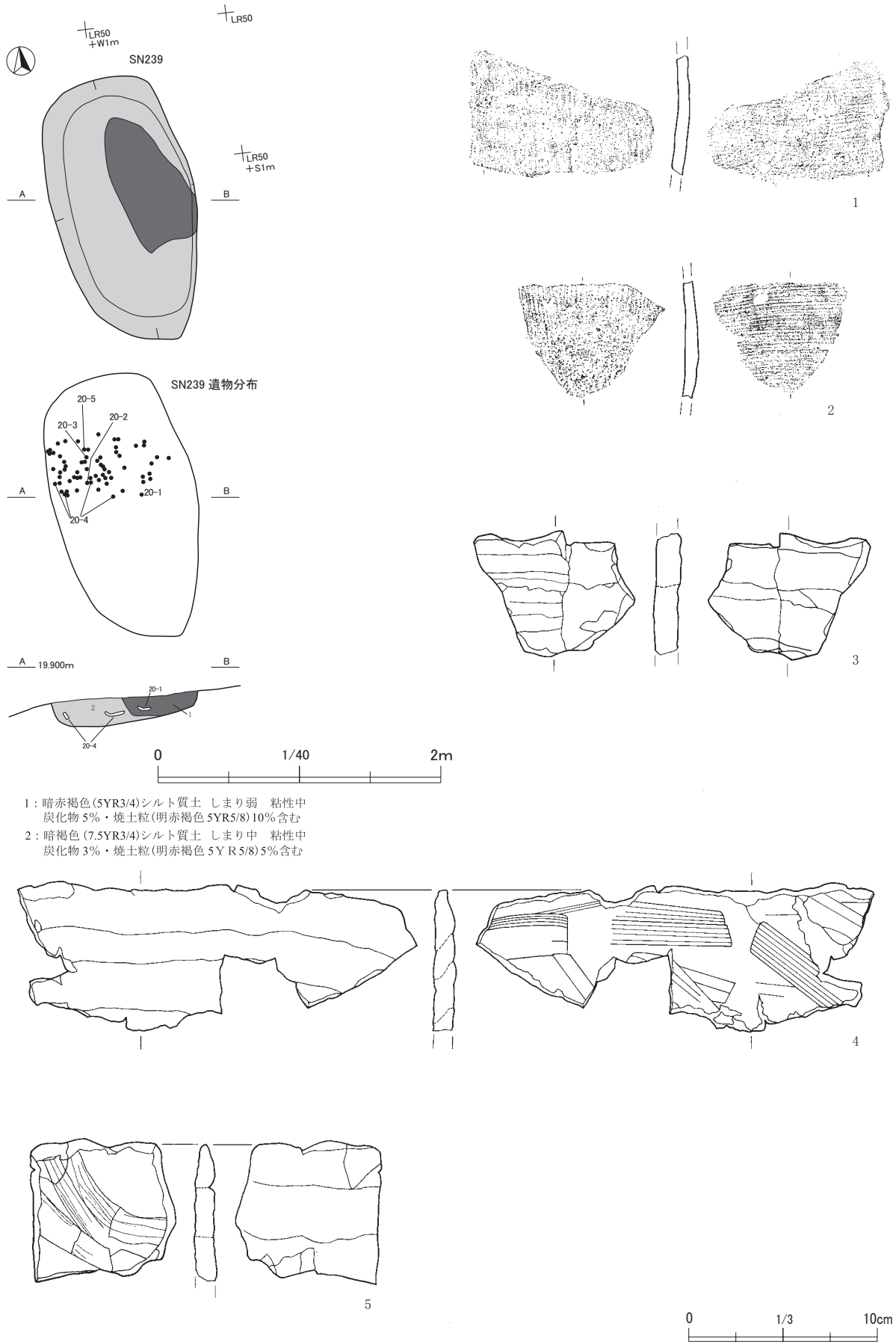
S K P 328
 1: 暗褐色(10YR3/3) シルト質土 しまり中 粘性中
 2: 暗褐色(10YR3/4) シルト質土 しまり強 粘性中
 暗褐色(7.5YR3/4)25%含む
 3: 褐色(7.5YR4/4) シルト質土 しまり中 粘性中

S N 261
 1: 橙色(5YR6/8) シルト質土 しまり強 粘性中
 暗褐色(7.5YR3/4)40%含む

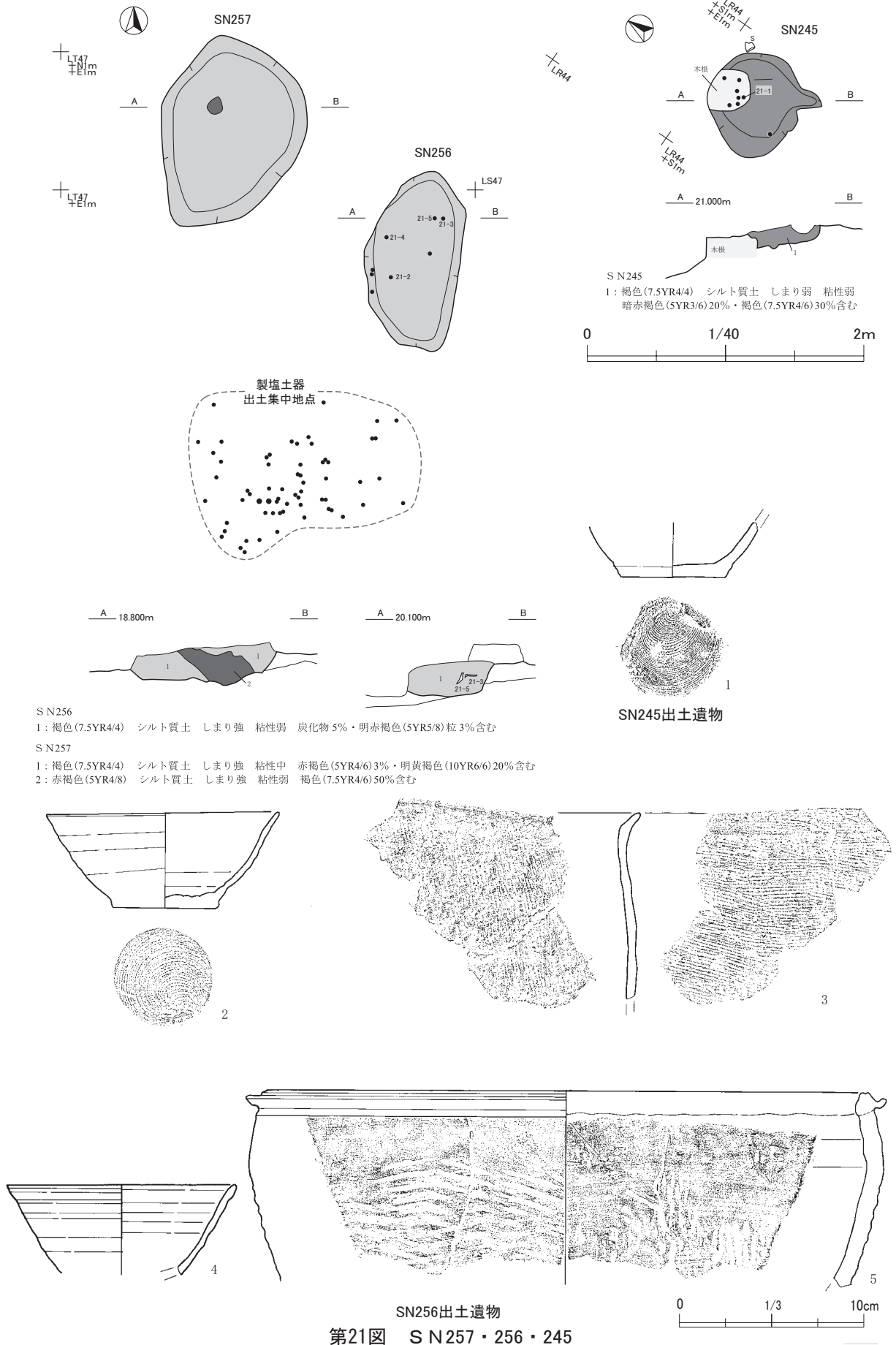
S N 247
 1: 暗褐色(7.5YR3/3) シルト質土 しまり弱 粘性弱
 暗赤褐色(5YR3/4)5%含む
 2: 暗褐色(10YR3/3) シルト質土 しまり弱 粘性弱



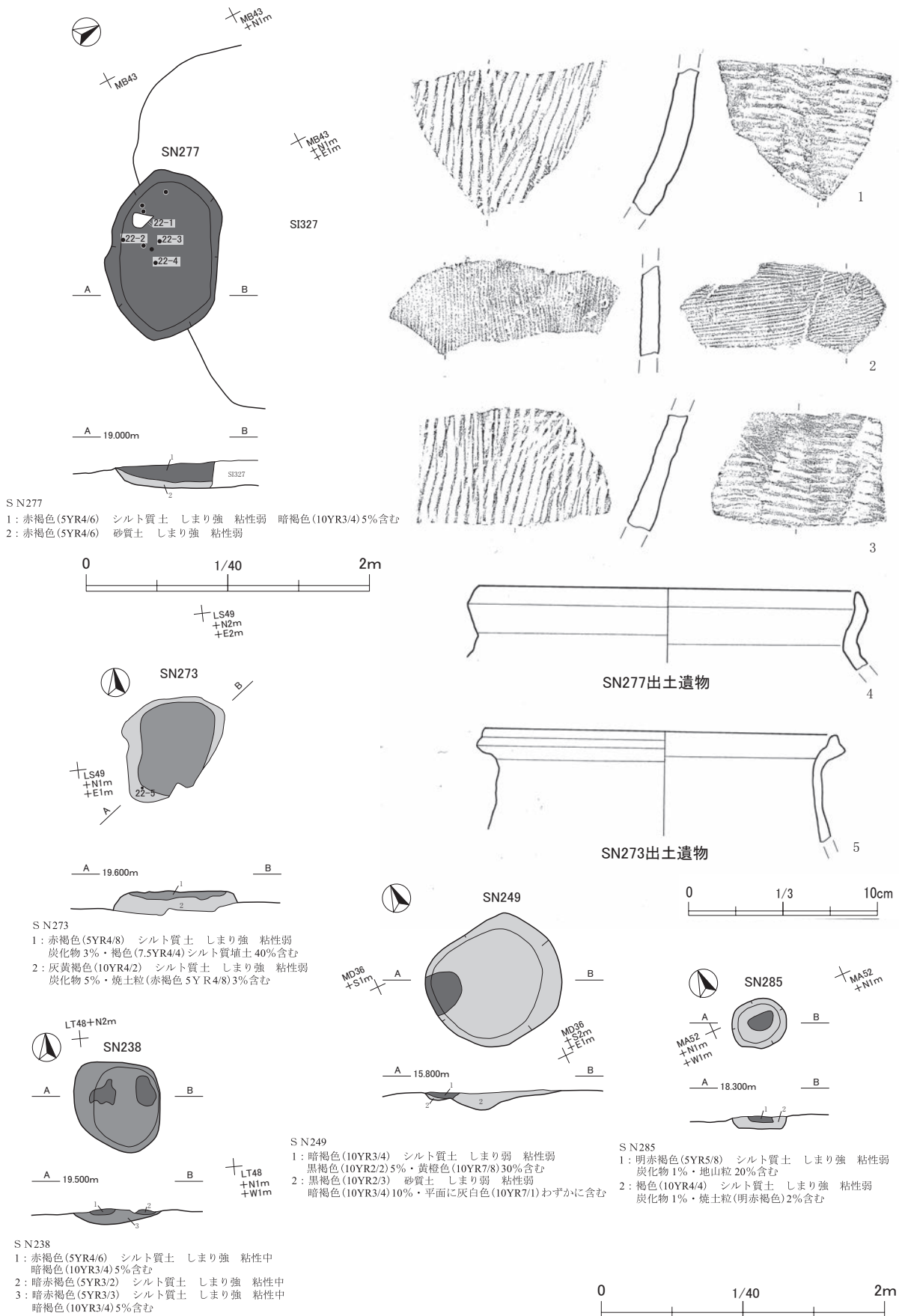
第19図 S N 214・240・271・247・261



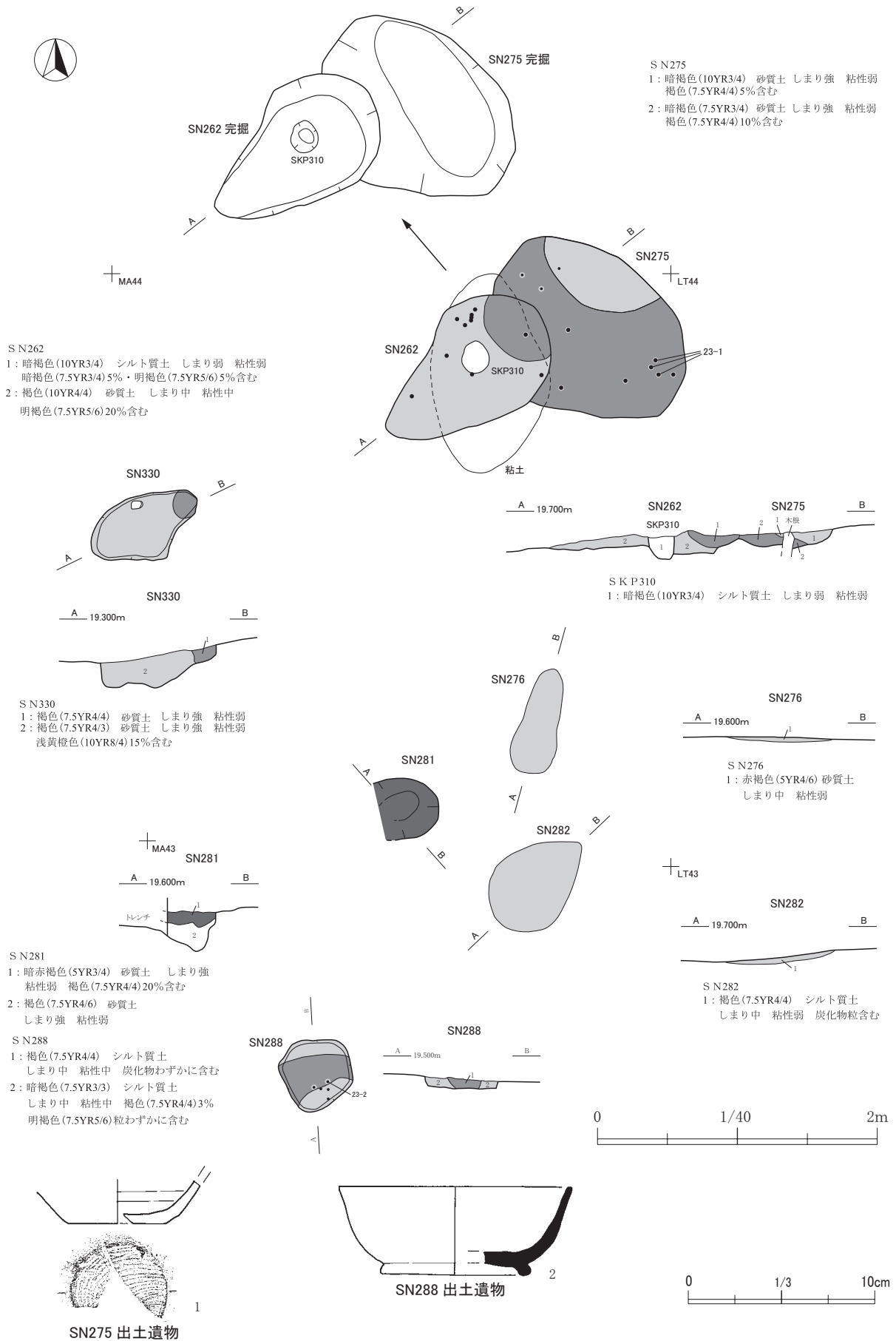
第20図 S N239



第1章 調査の方法と成果

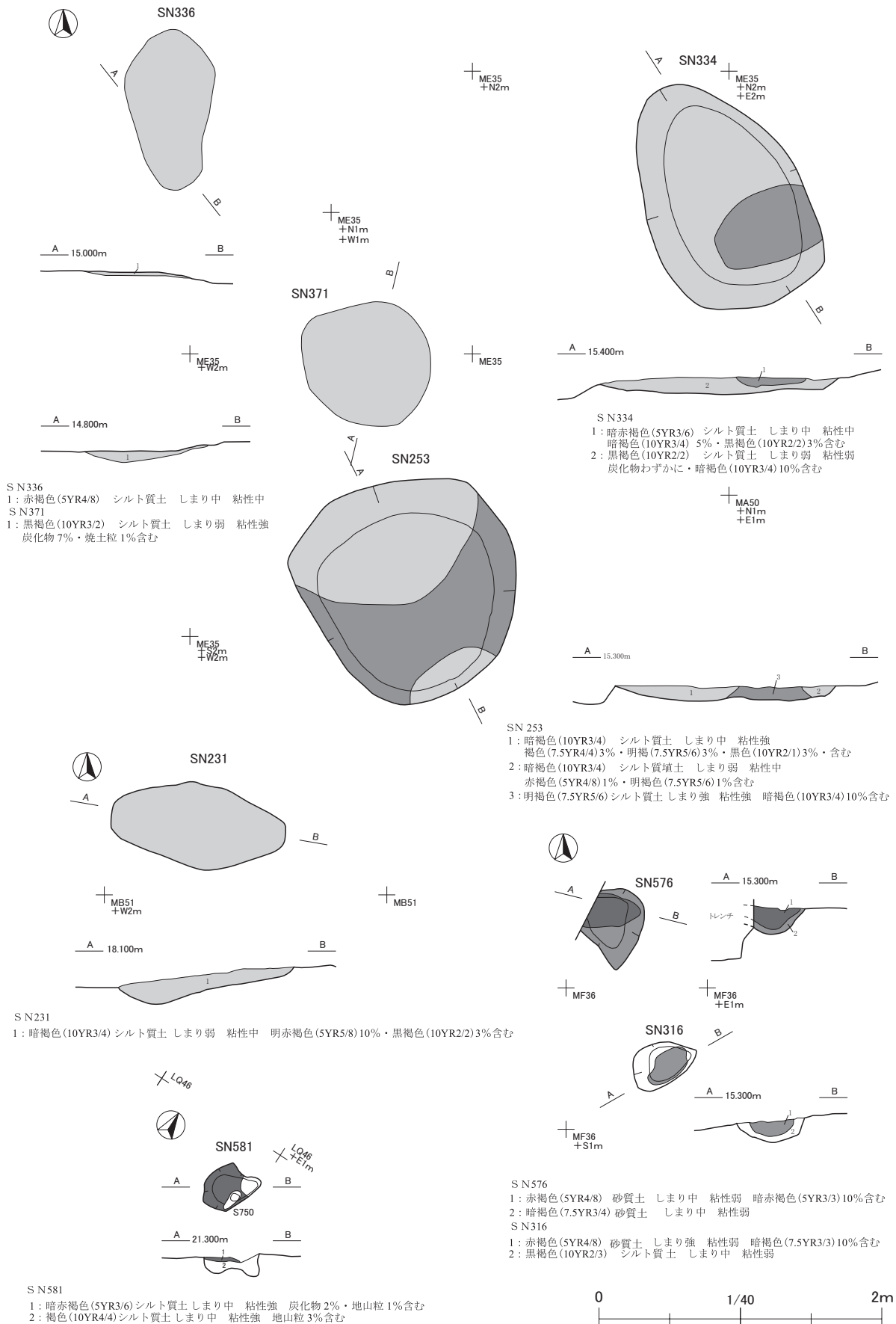


第22図 SN277・273・238・249・285

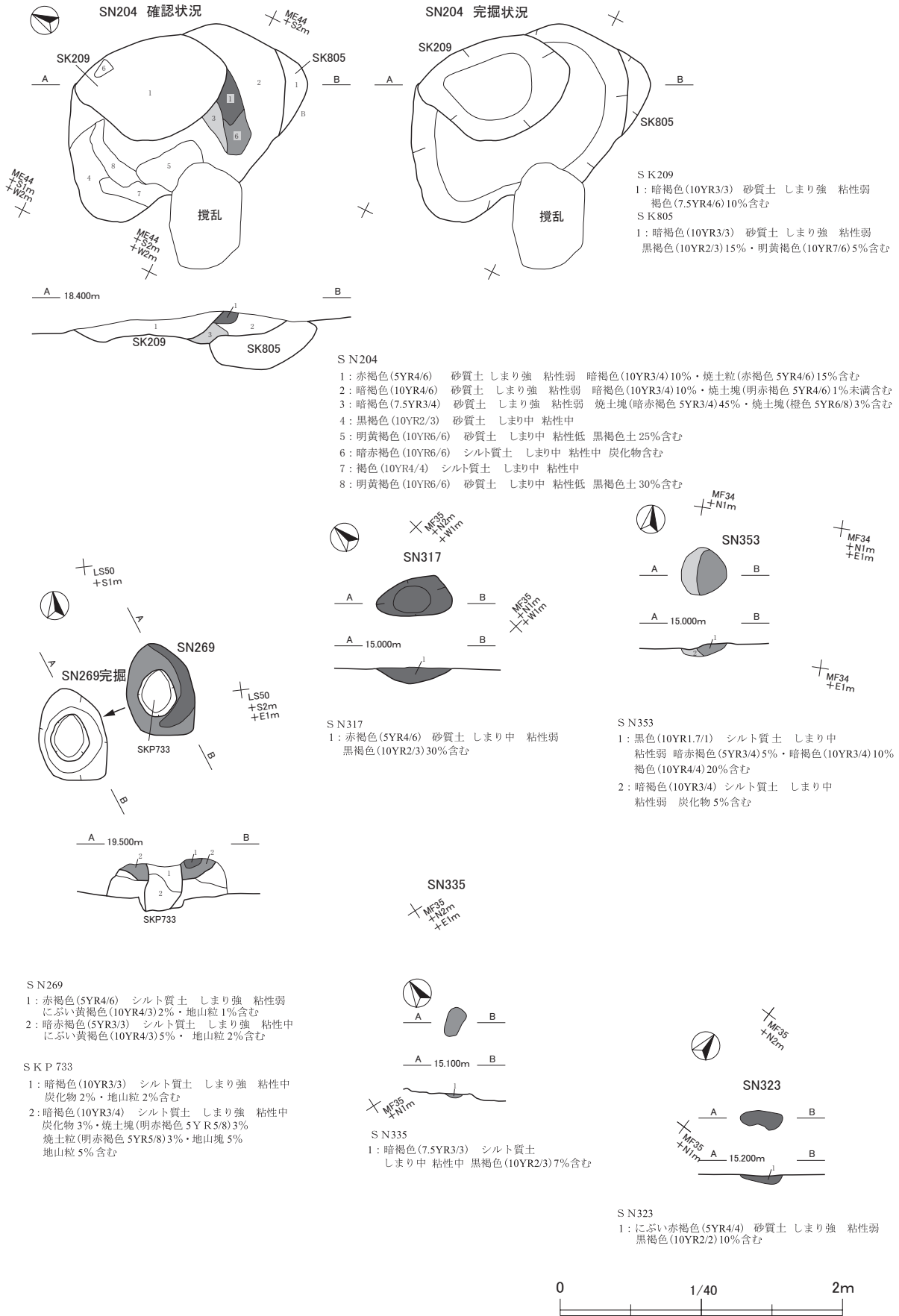


第23図 S N262・275・330・281・276・282・288

第1章 調査の方法と成果



第24図 SN336・334・371・253・231・581・576・316



第25図 S N 204・269・317・353・335・323

第1章 調査の方法と成果

遺構	挿図番号	検出区	重複		確認面	規模 (m)			出土遺物(グラム)			所見・備考
			旧(切る)	新(切られる)		長軸	短軸	深さ	須恵器	土師器	製塩	
SN204	25	ME43			IXa	1.83	1.18	0.41		35.4		
SN214	19	MA42			Ⅲ層	0.46	0.31	0.08		343.6		
SN230	8	MB48			盛土上面	0.59	0.35	0.08				
SN231	24	MB51			盛土中	1.24	0.58	0.14				
SN238	22	LT48			盛土上面	0.72	0.62	0.11	3.5	51.9		
SN239	20	LR49			盛土上面	(1.91)	(1.02)	0.26	55.4	1049.6	3476.4	製塩炉
SN240	19	MA41		SKP328	Ⅱ層	1.20	0.80	0.24	94.4	92.7		
SN245	21	LQ43			Ⅲ層	0.78	0.74	0.17		54.5		
SN247	19	MA41			Ⅲ層	0.79	0.66	0.07	13.6	43		
SN249	22	MC35		SM206	18図-19層	0.94	0.82	0.14		110.5		粒状滓出土
SN253	24	MD34			18図-8層	(1.58)	(1.48)	0.10				
SN256	21	LS46			盛土上面	1.30	0.70	0.40		292.9		
SN257	21	LS46			盛土上面	1.40	1.06	0.31	4.1			
SN258	8	MB47			SZ236床直上	0.32	0.24	0.04				
SN261	19	MA41			Ⅲ層	0.66	0.43	0.08				
SN262	23	LT43		SKP310	Ⅲ層	1.36	0.86	0.16	37.8	206.8		
SN269	25	LR49			盛土上面	0.68	0.48	0.16		100.4		
SN271	19	MA42			Ⅱ層	0.86	0.70	0.24		226.7		
SN273	22	LR49			盛土上面	0.87	0.65	0.17		54.7		
SN275	23	LS43			Ⅲ層	1.56	1.18	0.14		157.7		
SN276	23	LT43			Ⅲ層	0.76	0.32	0.04		16.2		
SN277	22	MA42		SM259	S1327上面	1.14	0.82	0.18		16.2		
SN281	23	LT42			Ⅲ層	(0.48)	(0.24)	0.28				
SN282	23	LT42			Ⅲ層	0.80	0.56	0.10				
SN285	22	MA52			IX b層	0.40	0.34	0.09		6		
SN288	23	LT42			Ⅱ層	0.54	0.52	0.08				
SN303	8	MB48			盛土上面	1.28	0.94	0.15				
SN316	24	ME35			道路整地中	0.47	0.30	0.16				
SN317	25	MF35			道路整地中	0.53	0.28	0.12				
SN323	25	ME35			道路整地中	0.29	0.13	0.06		20.1		
SN330	23	LT43			Ⅲ層	0.84	0.48	0.30				
SN334	24	MD35			18図-5層	(1.70)	(1.14)	0.13	18.5	148.2		
SN335	25	ME35			18図-5層	0.21	0.12	0.04				
SN336	24	ME35			18図-5層	1.14	0.63	0.06				
SN340	9	MD48			SZ237床面	0.91	0.74	0.28	40.7	240.1		
SN341	13	LS53			SZ690床面	0.46	0.44	0.03				
SN351	8	MB47			SZ236床面	0.30	0.10	0.12				
SN353	25	ME34			18図-9層	0.34	0.32	0.10				
SN354	6	MA43			IXa上面	0.46	0.32	0.04				
SN371	24	ME35			Ⅵ層	0.96	0.88	0.12				
SN576	24	ME36			道路整地中	(0.58)	(0.40)	0.20				

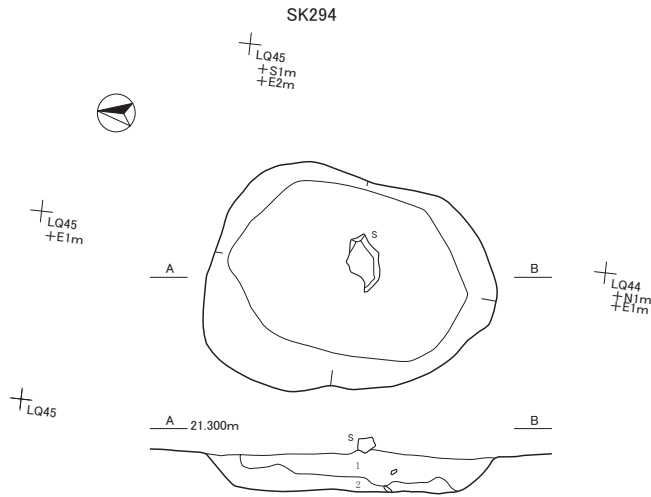
※()内の数値は残存値である

第2表 平安時代の焼土遺構一覧

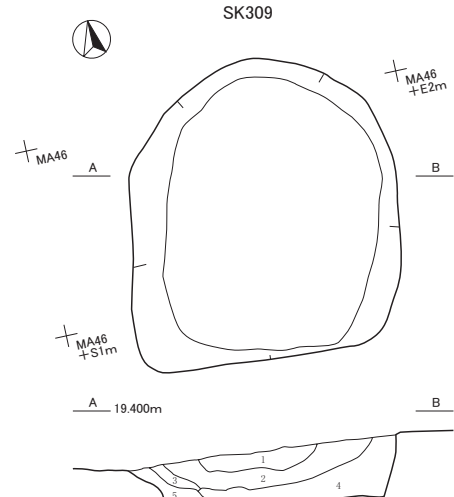
遺構	挿図番号	検出区	重複		確認面	規模 (m)			出土遺物(グラム)			所見・備考
			旧(切る)	新(切られる)		長軸	短軸	深さ	須恵器	土師器	製塩	
SK264	27	LP44			IX b層	0.63	0.61	0.08		4.2		
SK279	27	LT44			IXa層・IXb層	1.26	0.70	0.15		38		
SK287	29	LS50		S1265	盛土整地上面			0.17	23.8	14.3		
SK294	26	LP44			IX b層	1.55	1.20	0.24	55.3	480.3		
SK309	26	LT45			盛土整地下	1.82	1.58	0.40		76.1		
SK318	26	MF36			IXa層	0.92	0.48	0.42		2.4		
SK320	26	MD36			盛土整地中	0.53	0.42	0.10				馬歯・骨出土
SK321	26	MD35			盛土整地中	1.04	0.94	0.10	4.5	56.7		
SK322	26	MF37			IXa層	1.33	1.14	0.50		26.8		
SK333	26	MA41			IX b層	1.00	0.42	0.18		2.7		
SK626	5	LS49	SK283		盛土整地層下	0.51	0.49	0.36			2907.1	
SK666	27	MB47			IXa層	0.76	0.52	0.17				
SK762	27	MB48			IXa層	0.76	0.46	0.26		8.8		
SK763	27	MB46			IXa層	0.84	0.39	0.15				
SK780	27	MD42			IXa層	(1.19)	(0.48)	0.68	45.3			
SK958	27	LP63			IX b層	(1.36)	(0.68)	0.55		2.4		

※()内の数値は残存値である

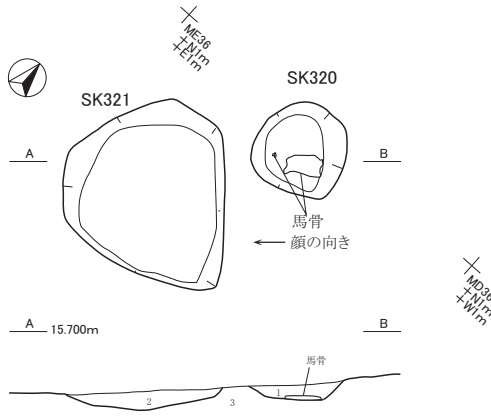
第3表 平安時代の土坑一覧



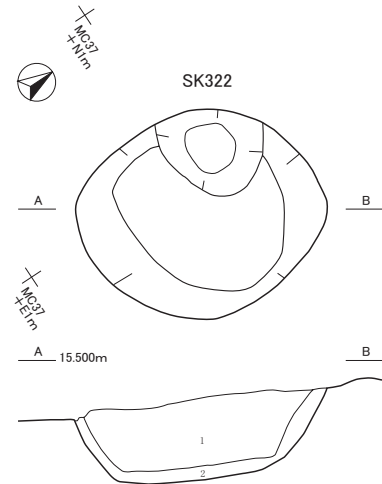
- S K 294
 1: 暗褐色(10YR3/3) シルト質土 しまり中 粘性中 炭化物3%・地山粒1%含む
 2: 暗褐色(10YR3/4) シルト質土 しまり中 粘性中 炭化物1%・地山粒3%含む



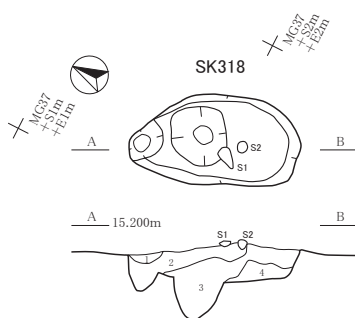
- S K 309
 1: 暗褐色(10YR3/4) 砂質土 しまり強 粘性弱 地山塊極小1%含む
 2: 褐色(10YR4/6) 砂質土 しまり強 粘性弱 地山塊小2%含む
 3: 褐色(10YR4/4) 砂質土 しまり強 粘性弱 地山塊小1%含む
 4: 暗褐色(10YR3/4) 砂質土 しまり強 粘性弱 地山塊極小3%含む
 5: 暗褐色(10YR3/3) 砂質土 しまり強 粘性弱 地山粒2%含む



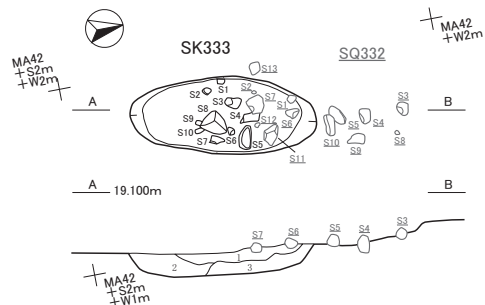
- S K 320・S K 321
 1: 黒褐色(10YR2/2) シルト質土 しまり弱 粘性中 黒褐色(10YR2/3) わずかに含む
 2: 黒色(10YR2/1) シルト質土 しまり弱 粘性強
 3: 黒褐色(10YR2/2) シルト質土 しまり中 粘性強 整地層



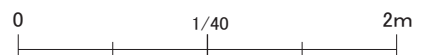
- S K 322
 1: 黒褐色(10YR2/2) 砂質土 しまり中 粘性弱 炭化物1%含む
 2: 浅黄橙色(10YR8/4) 砂質土 しまり中 粘性弱 黒褐色(10YR2/2) 20%含む



- S K 318
 1: 黒褐色(10YR2/2) 砂質土 しまり中 粘性弱
 2: 黒褐色(10YR2/3) 砂質土 しまり中 粘性弱 地山粒(砂)5%含む
 3: 黒褐色(10YR2/2) 砂質土 しまり中 粘性弱 地山粒(砂)2%含む
 4: 暗褐色(10YR3/3) 砂質土 しまり弱 粘性弱 地山粒(砂)10%含む

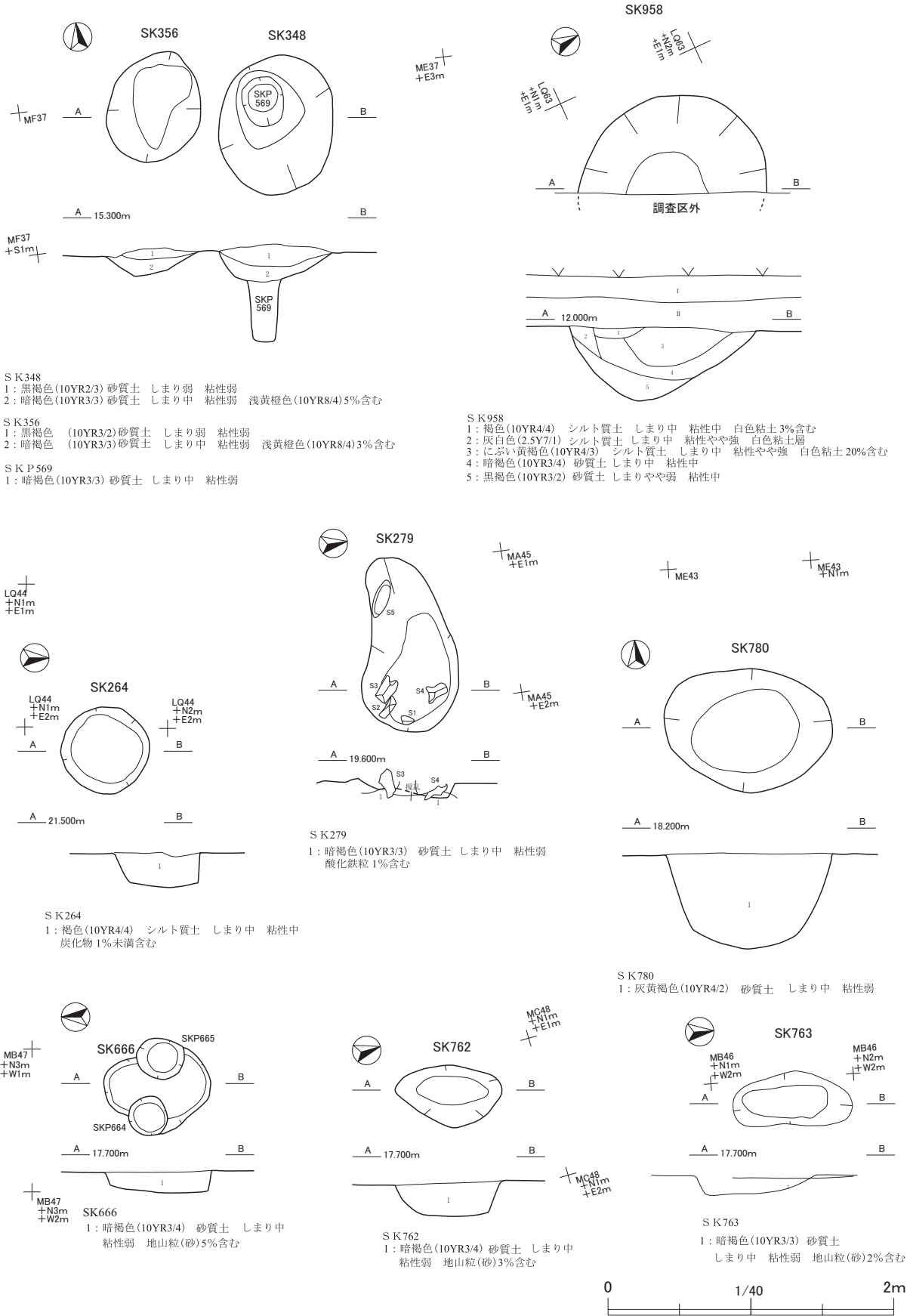


- S K 333
 1: 暗褐色(10YR3/3) シルト質土 しまり強 粘性弱
 2: 暗褐色(10YR3/4) シルト質土 しまり強 粘性弱 地山粒2%含む
 3: 暗褐色(10YR3/4) シルト質土 しまり強 粘性弱 地山粒7%含む

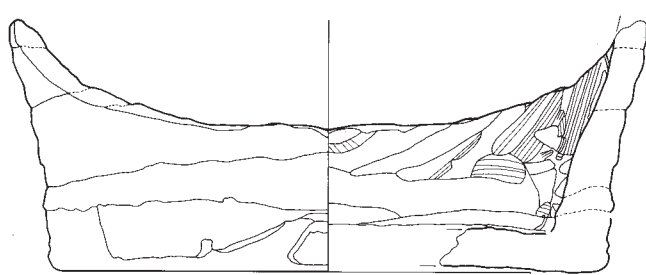


第26図 S K 294・309・320・321・322・318・333

第1章 調査の方法と成果



第27図 SK 356・348・958・264・279・780・666・762・763



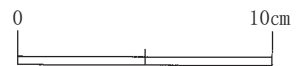
SK626 出土遺物



SK294 出土遺物



SK763 出土遺物



第28図 遺構内出土遺物実測図(5)

第1章 調査の方法と成果

SKP番号	検出区	平面形	規模(m)			底面標高(m)	備考	時期	土層注記				
			長軸	短軸	深さ				色	土性	しまり	粘性	
428	L S 45	楕円形	0.50	0.44	0.81	18.769	弥生土器片出土	弥生	暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	炭化物1%未満・地山粒極小～小5%
437	L S 46	円形	0.36	0.33	0.46	18.788	弥生土器片出土	弥生	暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	地山粒極小～小1%
510	L Q 44	楕円形	0.52	0.39	0.47	20.276	弥生土器片出土	弥生	暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	地山粒極小～小1%
280	L T 40	円形	0.32	0.30	0.04	18.496		古代	暗褐色(10YR3/4)	S i C L	中	中	
295	MC 36	楕円形	0.25	0.21	0.37	15.648		古代	黒褐色(10YR2/2)	S i C L	弱	中	
296	MC 36	楕円形	0.15	0.11	0.27	15.602	SM248を切る	古代	黒褐色(10YR2/2)	S i C L	弱	中	
310	L T 43	楕円形	0.21	0.17	0.22	19.347	SN262を切る	古代	暗褐色(10YR3/4)	S i C L	弱	弱	
326	L S 46	円形	0.24	0.24	0.27	19.003		古代	暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	地山粒極小～小1%
328	MA 41	楕円形	0.44	0.35	0.51	18.427	SN240を切る	古代	暗褐色(10YR3/3)	S i C L	中	中	
362	MF 35	楕円形	0.41	0.31	0.68	13.936		古代	黒褐色(10YR2/3)	S i C L	弱	中	褐色(10YR4/4)5%
364	MF 35	楕円形	0.35	0.29	0.72	13.883		古代	黒褐色(10YR2/3)	S L	弱	弱	炭化物1%・暗褐色(10YR3/4)10%
365	ME 35	円形	0.27	0.26	0.45	14.156		古代	黒褐色(10YR2/2)	S i C	弱	強	褐色(10YR4/4)5%
379	ME 34	楕円形	0.40	0.30	0.31	14.275		古代	黒褐色(10YR2/3)	S i C	弱	中	
388	MD 35	楕円形	0.42	0.30	0.36	14.597		古代	黒褐色(10YR3/2)	S i C	弱	中	
409	L T 39	楕円形	0.29	0.23	0.38	18.235		古代	暗褐色(10YR3/2)	S i C	弱	強	
410	MA 38・39	楕円形	0.26	0.23	0.33	17.698		古代	暗褐色(10YR3/2)	S i C	弱	強	
468	L R・L S 47	楕円形	0.30	0.25	0.45	18.874		古代	暗褐色(10YR3/4)	L	中	弱	地山粒極小～小2%
511	L Q 43	円形	0.32	0.31	0.50	20.219	土師器出土	古代	暗褐色(10YR3/4)	L	中	弱	地山粒極小～大10%
513	L Q 44	円形	0.42	0.39	0.67	19.936	SM206の下、土師器出土	古代	暗褐色(10YR3/3)	L	中	中	地山粒極小～中5%
514	L R 44	楕円形	0.32	0.27	0.31	20.009	土師器出土	古代	暗褐色(10YR3/3)	L	中	弱	炭化物1%未満・地山粒極小～中3%
587	L R 50	楕円形	0.19	0.17	0.14	19.199	SK1547を切る	古代	暗褐色(10YR3/3)	S i C	中	強	地山粒2%
588	L R 50	円形	0.25	0.25	0.28	19.061	SK1547・SN749を切る	古代	暗褐色(10YR3/3)	S i C	強	強	炭化物1%・地山粒2%
593	L R 51	円形	0.22	0.21	0.34	18.665		古代	暗褐色(10YR3/3)	S i C	弱	強	地山粒3%
607	ME 35	楕円形	0.33	0.28	0.63	14.275	SM344を切る	古代	黒褐色(10YR2/3)	S i C L	弱	中	
657	MB 46	楕円形	0.52	0.43	0.60	17.079		古代	暗褐色(10YR3/4)	L S	中	弱	粘土塊小1%・地山粒(砂)5%
664	MB 47	円形	(0.29)	(0.27)	0.45	17.099	SK666と新旧不明	古代	暗褐色(10YR3/4)	L S	中	弱	地山粒(砂)3%
665	MB 47	円形	(0.34)	(0.31)	0.53	17.069	SK666と新旧不明	古代	暗褐色(10YR3/4)	L S	中	弱	地山粒(砂)3%
675	MA 47・48	円形	0.31	0.29	0.42	17.322		古代	褐色(10YR4/4)	L S	中	中	地山粒(砂)15%
728	L P 45	楕円形	0.30	0.25				古代	褐色(7.5YR4/4)	H C	弱	強	炭化物1%
731	MA 43	楕円形	0.30	0.27	0.33	18.656		古代	黒褐色(10YR2/3)	S L	弱	弱	
732	MA 42	円形	0.30	0.28	0.42	18.469	SKP788を切る	古代	黒褐色(10YR2/3)	S L	中	弱	
739	MA 42	円形	0.38	0.37	0.35	18.409		古代	黒褐色(10YR2/3)	L S	中	弱	
744	MC 46	円形	0.26	0.24	0.22	17.255		古代	暗褐色(10YR3/3)	S L	中	弱	地山粒(砂)3%
747	MB 48	楕円形	0.39	0.34	0.42	17.149		古代	暗褐色(10YR3/4)	S L	中	弱	地山粒(砂)2%
781	ME 39	楕円形	0.42	0.37	0.48	16.188	SK1319関連か、SK1319-P4	古代					
783	MC 40	楕円形	0.45	0.39	0.23		土師器出土	古代	暗褐色(10YR3/3)	L S	中	弱	炭化物1%・地山粒(砂)10%
786	L T 43	楕円形	0.28	0.22	0.36			古代	暗褐色(10YR3/3)	S L	中	弱	地山粒(砂)2%
788	MA 42	楕円形	(0.32)	0.26	0.37	18.496	SKP732に切られる、土師器出土	古代	黒褐色(10YR2/3)	S L	強	弱	地山粒2%
789	L S 46	楕円形	0.31	0.28	0.20		土師器出土	古代	暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	地山粒極小～小1%
870	MD 47	円形	0.17	0.16	0.24	16.676		古代	黒褐色(10YR2/2)	S i C L	弱	中	地山粒2%
663	MB 46	円形	0.24	0.22	0.15	17.459		古代	褐色(10YR4/4)	L S	中	弱	地山粒(砂)25%
664	MB 46	円形	0.45	0.42	0.26	17.415		古代	暗褐色(10YR3/4)	L S	中	弱	地山粒(砂)10%
665	MB 46	楕円形	0.38	0.25	0.26	17.296		古代	暗褐色(10YR3/3)	L S	中	弱	地山粒(砂)5%
666	MB 46	楕円形	0.28	0.25	0.20	17.457		古代	褐色(10YR4/4)	L S	中	弱	地山粒(砂)10%
668	MB 46	楕円形	0.24	0.21				古代	暗褐色(10YR3/4)	L S	中	弱	地山粒(砂)5%
669	MB 46	円形	0.26	0.24	0.08	17.500		古代	暗褐色(10YR3/4)	L S	中	弱	地山粒(砂)5%
660	MB 47・46	楕円形	0.43	0.34	0.13	17.555		古代	暗褐色(10YR3/4)	L S	中	弱	地山粒(砂)5%
661	MB 46	楕円形	0.21	0.18	0.20	17.513		古代	暗褐色(10YR3/4)	L S	中	弱	地山粒(砂)5%
662	MB 47	楕円形	0.45	0.39	0.35	17.318		古代	暗褐色(10YR3/4)	L S	中	弱	地山粒(砂)2%
663	MB 47	楕円形	0.25	0.21	0.26	17.417		古代	暗褐色(10YR3/4)	L S	中	弱	地山粒(砂)3%
667	MA 47	円形	0.26	0.24	0.26	17.422		古代	暗褐色(10YR3/4)	L S	中	弱	地山粒(砂)2%
668	MB 47	楕円形	0.42	0.31	0.22	17.422		古代	暗褐色(10YR3/4)	L S	中	弱	地山粒(砂)10%
669	MB 47	楕円形	0.33	0.29	0.25	17.375		古代	暗褐色(10YR3/4)	L S	中	弱	地山粒(砂)7%
670	MA・MB 47	円形	0.44	0.42	0.55	17.156		古代	暗褐色(10YR3/4)	L S	中	弱	地山粒(砂)2%
671	MA 47	楕円形	0.44	0.32	0.41	17.316	SKP672を切る	古代	暗褐色(10YR3/3)	S L	中	弱	地山粒(砂)1%
672	MA 47	楕円形	(0.29)	(0.14)	0.33	17.408	SKP671に切られる	古代	暗褐色(10YR3/4)	L S	中	弱	地山粒(砂)2%
673	MA 47	楕円形	0.24	0.19	0.35	17.400		古代	暗褐色(10YR3/4)	L S	中	弱	地山粒(砂)5%
674	MA 47	円形	0.32	0.30	0.49	17.256		古代	暗褐色(10YR3/4)	L S	弱	弱	地山粒(砂)5%
676	MA 48	楕円形	0.39	0.34	0.43	17.299		古代	褐色(10YR4/4)	L S	中	中	地山粒(砂)10%
677	MA 48	楕円形	0.40	0.31	0.39	17.391		古代	褐色(10YR4/4)	L S	弱	中	地山粒(砂)2%
678	MA 48	楕円形	0.37	0.31	0.49	17.321		古代	暗褐色(10YR3/4)	L S	中	中	地山粒(砂)15%
679	MA 48	楕円形	0.39	0.33	0.44	17.395		古代	褐色(10YR4/4)	L S	弱	中	地山粒(砂)5%
680	MA 48	円形	0.43	0.42	0.45	17.385		古代	暗褐色(10YR3/4)	L S	中	中	炭化物1%未満・地山粒(砂)2%
681	MA 48	楕円形	0.26	0.21	0.37	17.472		古代	褐色(10YR4/4)	L S	弱	中	地山粒(砂)1%
682	MA 48・49	円形	0.44	0.42	0.63	17.188		古代	褐色(10YR4/4)	L S	中	中	地山粒(砂)10%
683	MA 48・49	楕円形	0.23	0.19	0.30	17.471		古代	褐色(10YR4/4)	L S	中	中	地山粒(砂)10%
684	MA 49	楕円形	0.29	0.24	0.39	17.436		古代	褐色(10YR4/4)	S L	中	中	地山粒(砂)5%
685	MB 47	円形	0.29	0.27	0.19	17.476		古代	暗褐色(10YR3/4)	L S	中	弱	地山粒(砂)3%
706	MD 48	楕円形	(0.20)	(0.18)	0.43	15.549		古代	黒褐色(10YR2/3)	S i C	中	強	暗褐色(10YR3/4) S i C 粒極小～大7%
745	MC 46	円形	0.24	0.23	0.28	17.275		古代	暗褐色(10YR3/4)	S L	中	弱	黄褐色(10YR5/8) S i C 塊小1%・地山粒(砂)3%
746	MB・MC 46	円形	0.33	0.32	0.25	17.344		古代	暗褐色(10YR3/4)	S L	中	弱	地山粒(砂)3%
748	MB 48	楕円形	0.35	0.26	0.23			古代	暗褐色(10YR3/4)	S L	中	弱	地山粒(砂)2%
752	MB 46	楕円形	0.29	0.25	0.27	17.307		古代	暗褐色(10YR3/3)	S L	中	弱	地山粒(砂)2%
753	MB 46・47	楕円形	0.47	0.30	0.44	17.220		古代	暗褐色(10YR3/3)	S L	弱	弱	黄褐色(10YR5/8) S i C 塊小1%・地山粒(砂)2%
754	MB 47	円形	0.24	0.24	0.22	17.391		古代	暗褐色(10YR3/3)	S L	中	弱	地山粒(砂)3%
755	MB 47	楕円形	0.45	0.35	0.44	17.141		古代	暗褐色(10YR3/4)	S L	中	弱	
756	MB 47	楕円形	0.27	0.21	0.24	17.234		古代	暗褐色(10YR3/4)	S L	中	弱	黄褐色(10YR5/8) S i C 塊小～大3%・地山粒(砂)2%
757	MB 47	楕円形	0.43	0.35	0.40	17.130		古代	暗褐色(10YR3/3)	S L	中	弱	地山粒(砂)2%
758	MB 47	円形	0.31	0.30	0.38	17.187		古代	暗褐色(10YR3/3)	S L	弱	弱	地山粒(砂)2%
759	MB 47	楕円形	(0.44)	(0.34)	0.36	17.258	SKP761を切る、SKP760と新旧不明	古代	暗褐色(10YR3/3)	S L	中	弱	地山粒(砂)2%
760	MB 47	楕円形	(0.28)	(0.24)	0.37	17.258	SKP761を切る、SKP759と新旧不明	古代	暗褐色(10YR3/3)	S L	中	弱	地山粒(砂)2%
761	MB 47	楕円形	(0.23)	(0.19)			SKP759,SKP760に切られる	古代	暗褐色(10YR3/3)	S L	中	弱	地山粒(砂)2%
764	MD 47	楕円形	0.31	0.22	0.25	16.385		古代	黒褐色(10YR2/2)	S i C L	弱	中	地山粒2%
772	MC 48	円形	0.17	0.17	0.43	16.397		古代	黒褐色(10YR2/3)	S i C	中	中	地山粒2%
774	MC 48	円形	0.28	0.27	0.20	17.395		古代	暗褐色(10YR3/3)	S i C	中	中	地山粒3%

※()内の数値は残存値である

第4表 SKP観察表 (1)

第3節 検出遺構と出土遺物

SKP番号	検出区	平面形	規模(m)			底面標高(m)	備考	時期	土層注記				
			長軸	短軸	深さ				色	土性	しまり	粘性	
903	MD48	円形	0.54	0.51	0.54	15.155		古代	暗褐色(10YR3/4)	S L	中	弱	炭化物1%
933	MD50	楕円形	0.48	0.41	0.25	15.595		古代	暗褐色(10YR3/4)	S L	中	弱	地山粒(砂)10%
937	L S 53	楕円形	0.16	0.14	0.16	16.718		古代	暗褐色(10YR3/4)	S i C	強	中	地山粒5%
938	L S 53	楕円形	0.32	0.27	0.15	16.834		古代	にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C	強	中	地山粒7%
939	L R 53	楕円形	0.25	0.20	0.09	16.859		古代	にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C	強	中	地山粒5%
940	L S 54	楕円形	0.17	0.15	0.35	16.332		古代	にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C	強	中	緑灰色(7.5GY6/1)HC10%・地山粒5%
941	L S 54	円形	0.20	0.19	0.38	16.311		古代	にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C	強	中	地山粒3%
942	L S 54	楕円形	0.19	0.15	0.34	16.351		古代	暗褐色(10YR3/4)	S i C	強	中	地山粒3%
580	L T 52	円形	0.27	0.25	0.56	17.580	中世・銭貨出土	中世	暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	中	地山粒5%
784	MD42・43	楕円形	0.35	0.30	0.21	17.866	銭貨出土	中世	暗褐色(10YR3/4)	L S	中	弱	地山粒(砂)極小～中5%
792	MC44	楕円形	0.43	0.34	0.30	17.942	SKI785-P4、土師器出土	中世	暗褐色(10YR3/4)	L	中	弱	地山粒(砂)10%
837	MC44	楕円形	0.45	0.40	0.30	17.947	SI785-P1、銭貨出土	中世	暗褐色(10YR3/4)	L S	中	弱	
838	MC44	楕円形	0.41	0.29	0.11		SI785関連、SI785-P6	中世	暗褐色(10YR3/4)	L S	中	弱	地山粒(砂)7%
839	MC44	楕円形	0.43	0.33	0.30	17.806	SI785関連、SI785-P5	中世	暗褐色(10YR3/4)	L S	中	弱	地山粒(砂)20%
840	MB44	楕円形	0.40	0.27	0.33	18.081	SI785関連、SI785-P2	中世	褐色(10YR4/4)	L	中	弱	地山粒(砂)20%
841	MB44	楕円形	0.42	0.33	0.40	18.120	SI785関連、SI785-P3	中世	暗褐色(10YR3/3)	L	中	弱	地山粒(砂)10%
455	MA 49	楕円形	0.26	0.17	0.13	18.089		中世	暗褐色(10YR3/3)	S i C	中	中	地山粒2%・地山塊2%
456	MA 49	楕円形	0.48	0.39	0.48	17.710		中世	暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	中	地山粒7%・地山塊7%
460	MA 50	楕円形	0.28	0.22	0.16	17.956		中世	暗褐色(10YR3/3)	S i C	中	中	地山粒5%
461	L T 50	楕円形	0.39	0.33	0.85	17.280		中世	暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	中	地山粒2%
462	L T 50	楕円形	0.27	0.24	0.19	17.975		中世	暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	中	地山粒3%
466	L T 49	円形	0.52	0.48	0.64	17.540		中世	暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	中	地山粒20%
467	L T 50	楕円形	0.40	0.36	0.15	18.144	SD465を切る	中世	褐色(10YR4/4)	S i C	中	中	地山粒2%
500	L T 51	楕円形	0.21	0.18	0.12	17.936		中世	暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	中	地山粒2%
501	L T 51	楕円形	0.20	0.16	0.09	17.971		中世	暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	中	地山粒3%
502	L T 51	円形	0.25	0.23	0.65	17.545	SD465を切る	中世	暗褐色(10YR3/3)	S i C	中	中	地山粒5%
503	L T 51	楕円形	0.42	0.38	0.23	17.856		中世	暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	中	地山粒3%
505	L T 51	楕円形	0.27	0.21	0.39	17.831	SD465を切る	中世	暗褐色(10YR3/3)	S i C	中	中	地山粒2%
507	L T 49	楕円形	0.57	0.35	0.55	17.599		中世	暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	中	地山粒3%
508	MA 49・50	楕円形	0.39	0.35	0.41	17.689		中世	にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C	中	中	地山粒1%
544	L S 51	楕円形	(0.31)	(0.16)	0.31	18.388	SKI304関連か	中世	暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	中	地山粒2%
545	MA 50	円形	0.49	0.45	0.53	17.560		中世	暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	中	地山粒3%
544	L T 39	円形	0.12	0.11	0.12	18.271		中世	暗褐色(10YR3/4)	S i C	弱	強	
573	M F 36	円形	0.32	0.30	0.19	14.775		中世	黒褐色(10YR2/3)	S	弱	弱	
577	MA 50	楕円形	0.31	(0.17)	0.13	18.036	SN208に切られる、SKP695を切る	中世	暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	中	地山粒3%
578	MA 50	楕円形	0.37	0.30	0.25	17.828	SN241の下	中世	暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	中	地山粒3%
580	L T 52	円形	0.27	0.25	0.56	17.580	銭貨出土	中世	暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	中	地山粒5%
591	L T 50	楕円形	0.60	0.33	0.22	17.978		中世	暗褐色(10YR3/3)	S i C	中	強	地山塊小～大10%
598	L S 52	楕円形	0.19	0.16	0.84	17.480	SI291に切られる	中世	暗褐色(10YR3/4)	S i C	強	中	地山粒2%・地山塊小2%
630	L T 52	楕円形	0.50	0.41	0.42	17.628		中世	暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	中	地山粒3%
631	L T 52	楕円形	0.40	0.30	0.37	17.693		中世	にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C	中	中	地山粒3%
632	L T 52	楕円形	(0.39)	(0.33)	0.58	17.485	SKP632と新旧不明	中世	暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	中	地山粒3%
633	L T 52	楕円形	(0.29)	(0.24)	0.41	17.644	SKP632と新旧不明	中世	にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C	中	中	地山粒5%
634	L T 52	楕円形	0.22	0.18	0.18	17.858		中世	暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	中	地山粒3%
635	L T 52	楕円形	0.42	0.30	0.74	17.295		中世	暗褐色(10YR3/3)	S i C	中	中	地山粒2%
636	L T 52	円形	0.39	0.38	0.20	17.842		中世	にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C	中	中	地山粒5%
637	L T 52	楕円形	0.22	0.19	0.25	17.784		中世	暗褐色(10YR3/3)	S i C	中	中	地山粒2%
638	L T 52	円形	0.21	0.20	0.10	17.926		中世	にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C	中	中	地山粒5%
639	L T 51	円形	0.25	0.23	0.24	17.838		中世	暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	中	地山粒3%
640	L T・MA50	楕円形	0.32	0.28	0.44	17.669		中世	暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	中	地山粒2%
641	L T 50	楕円形	0.20	0.16	0.44	17.716		中世	にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C	中	中	地山粒3%
642	L T 50	楕円形	0.26	0.20	0.15	18.015		中世	にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C	中	中	地山粒5%
643	MA 50	楕円形	0.35	0.25	0.45	17.609		中世	にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C	中	中	地山粒2%
692	MA 49	楕円形	0.38	0.34	0.38	17.725		中世	暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	中	地山粒(砂) 15%
694	L T 51	楕円形	0.21	0.18	0.19	18.150		中世	暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	中	地山粒5%
695	MA 50	円形	0.23	0.22	0.45	17.726	SN208,SKP577に切られる	中世	暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	中	地山粒3%
696	L T・MA50	楕円形	0.46	0.34	0.48	17.641		中世	暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	中	地山粒3%
734	MA 50	楕円形	0.46	0.37	0.36	17.710	SN313に切られる	中世	暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	中	地山粒3%
735	L T 52	円形	0.37	0.36	0.33	17.603	SD349を切る	中世	褐色(10YR4/4)	S i C	中	中	地山粒2%
742	M C 46	円形	0.24	0.24	0.23	17.279		近世	暗褐色(10YR3/3)	S L	中	弱	地山粒(砂)2%
213	M D 42	楕円形	0.35	0.15					黒褐色(10YR3/2)	S L	強	弱	
220	M C 46	楕円形	0.29	0.26					暗褐色(10YR3/4)	S L	強	弱	
228	M C 47	楕円形	0.27	0.22					暗褐色(10YR3/4)	S L	強	弱	
278	L T 43	円形	0.24	0.23	0.16	19.168	SM260の下		暗褐色(10YR3/3)	S L	中	弱	地山粒(砂)3%
297	M C 36	楕円形	0.23	0.20	0.62	15.340	SM248の下		黒褐色(10YR2/2)	L	中	中	地山粒極小～大10%
298	M C 36・37	楕円形	0.33	0.29	0.70	15.324			黒褐色(10YR2/2)	L	中	中	地山粒極小～小1%
301	M C 37	楕円形	0.28	0.25	0.42	15.571			黒褐色(10YR2/3)	L	中	中	地山粒1%
311	L R 49				0.36	19.180			暗褐色(10YR3/4)	S i C L	強	弱	褐色(7.5YR4/4)20%
343	M E 35	楕円形	0.27	0.23	0.30	14.335			黒褐色(10YR3/2)	S i C L	中	弱	炭化物1%
357	M E 34	楕円形	0.28	0.25	0.27	14.064			黒褐色(10YR2/3)	S i C	弱	中	細形、褐色(7.5YR4/4)10%
358	M E・M F 34	楕円形	0.26	0.20	0.02	14.173	SM344を切る		黒褐色(10YR3/2)	S i C	弱	中	
359	M E 34	円形	0.26	0.24	0.33	14.259	SM344を切る		黒褐色(10YR3/2)	S i C L	弱	弱	
361	M E・M F 35	円形	0.33	0.30	0.72	13.888			暗褐色(10YR3/3)	S i C L	弱	中	炭化物3%・黒褐色(10YR2/3)10%・褐色(10YR4/4)10%
363	M F 35	楕円形	0.35	0.30	0.61	13.993			黒褐色(10YR2/3)	S L	弱	弱	暗褐色(10YR3/4)15%
366	M E 35	楕円形	0.35	0.24	0.47	14.192			黒褐色(10YR2/3)	S i C	弱	強	炭化物1%・黄褐色(10YR5/6)3%
367	M E 36	楕円形	0.24	0.21	0.11	14.459			暗褐色(10YR3/4)	L S	弱	弱	黒褐色(10YR2/2)10%・浅黄褐色(10YR6/4)20%
373	M F 35	円形	0.24	0.22	0.35	14.259			暗褐色(10YR3/4)	S L	弱	弱	
374	M F 35	円形	0.23	0.21					黒褐色(10YR2/3)	S i C L	弱	弱	
375	M E 34	楕円形	0.30	0.27	0.21	14.336			黒褐色(10YR2/3)	S i C L	弱	中	褐色(10YR4/4)10%
376	M E 34	楕円形	0.37	0.22	0.26	14.295			黒褐色(10YR3/2)	S i C	弱	中	にぶい黄褐色(10YR5/4)5%
377	M E 34	円形	0.30	0.28	0.40	14.168			黒褐色(10YR2/3)	S i C L	弱	中	
378	M E 34	円形	0.30	0.28	0.24	14.334			暗褐色(10YR3/3)	S i C	弱	中	
381	M D 35	楕円形	0.92	0.55	0.25	14.530			黒褐色(10YR3/2)	S i C	弱	中	
382	M D 35	楕円形	0.29	0.25	0.18	14.617			黒褐色(10YR3/2)	S i C	弱	中	
383	M D・M E 35	楕円形	0.29	0.25	0.27	14.575			黒褐色(10YR3/2)	S i C L	弱	中	
384	M D・M E 35	楕円形	0.28	0.25	0.41	14.447			黒褐色(10YR3/2)	S i C	弱	中	

※()内の数値は残存値である

第5表 SKP観察表(2)

第1章 調査の方法と成果

SKP番号	検出区	平面形	規模(m)			底面標高(m)	備考	時期	土層注記			
			長軸	短軸	深さ				色	土性	しまり	粘性
385	MD35	円形	0.30	0.29	0.35	14.577		黒褐色(10YR3/2)	S i C	弱	中	
386	MD35	楕円形	(0.29)	(0.15)	0.38	14.610	SM248に切られる	黒褐色(10YR3/2)	S i C L	弱	中	
387	MD35	楕円形	(0.32)	(0.29)	0.28	14.659		黒褐色(10YR3/2)	S i C L	弱	中	炭化物1%
390	MD35	楕円形	0.41	0.30	0.54	14.388	SN334の下	黒褐色(10YR3/2)	S i C	弱	中	
391	MD35	円形	0.29	0.28	0.26	14.678		黒褐色(10YR3/2)	S i C L	弱	中	
392	MD35	楕円形	0.31	0.24	0.19	14.766		黒褐色(10YR3/2)	S i C L	弱	中	
393	MD35	円形	0.22	0.21		14.570		黒褐色(10YR2/3)	S i C	弱	中	
394	MC35	円形	0.25	0.25	0.20	15.581		暗褐色(10YR3/4)	S i C L	弱	弱	
395	MG33	円形	0.20	0.19	0.24	13.703		褐色(7.5YR4/3)	S i C	弱	強	
396	MF33	楕円形	0.23	0.20	0.35	13.803		褐色(7.5YR4/3)	S i C	弱	中	
397	MF33	円形	0.25	0.24	0.51	13.672		褐色(7.5YR4/3)	S i C	弱	中	炭化物1%
398	MF34	楕円形	0.21	0.18				黒褐色(10YR2/3)	S i C L	弱	弱	褐色(7.5YR4/4)3%
399	MF34	楕円形	0.27	0.23	0.10	14.436	SM344を切る	黒褐色(10YR3/2)	S i C L	弱	中	
401	ME34	円形	0.24	0.24	0.43	13.980		黒褐色(10YR3/2)	S i C	中	中	
402	ME34	楕円形	0.26	0.23	0.52	13.868		黒褐色(10YR3/2)	S i C	弱	中	
403	ME34	楕円形	0.23	0.20	0.31	14.144	SM206の下	黒褐色(10YR3/2)	S i C L	弱	中	
404	ME34	円形	0.19	0.19	0.23	14.267	SM206の下	暗褐色(10YR3/4)	S i C L	弱	弱	
405	ME34	円形	0.29	0.28	0.22	14.363	SM206の下	暗褐色(10YR3/3)	S i C L	弱	中	
406	ME34	円形	0.27	0.25	0.30	14.363		褐色(10YR4/4)	S i C L	弱	中	
407	ME33	円形	0.17	0.16	0.28	14.505		褐色(10YR4/4)	S i C L	弱	中	
408	ME33	楕円形	0.20	0.18	0.13	14.680		褐色(10YR4/4)	S i C L	弱	中	
412	MC36	楕円形	0.30	0.26	0.23	15.605		黒褐色(10YR2/3)	S i C L	弱	中	
413	MC36	円形	0.25	0.23	0.83	15.198		黒褐色(10YR2/3)	L	中	中	地山粒極小～小2%
414	MC37	楕円形	0.24	0.17	0.25	15.646		黒褐色(10YR2/3)	L	中	中	
415	MA37	楕円形	0.19	0.16	0.66	16.305		暗褐色(10YR3/4)	S L	弱	弱	
416	MA37	円形	0.22	0.21	0.54	16.541		黒褐色(10YR2/3)	S i C L	弱	中	
417	MB37	円形	0.30	0.30	0.32	16.606		黒褐色(10YR2/2)	S i C L	弱	中	
418	MB37	楕円形	0.26	0.23	0.33	16.551		黒褐色(10YR2/2)	S i C L	弱	中	
419	MB37	円形	0.27	0.27	0.35	16.469		黒褐色(10YR2/3)	S i C L	弱	中	炭化物1%
420	MB37	円形	0.24	0.23	0.51	16.282		黒褐色(10YR3/2)	S i C L	弱	中	
421	MB37	楕円形	0.34	0.27	0.54	16.330		黒褐色(10YR2/3)	S i C L	弱	中	
422	MA37	円形	0.23	0.22	0.59	16.418		黒褐色(10YR3/2)	S L	弱	弱	
423	MA37	楕円形	0.30	0.23	0.45	16.434		黒褐色(10YR3/2)	S L	弱	弱	
424	MB37	円形	0.30	0.29	0.61	16.171		黒褐色(10YR2/3)	S i C L	弱	弱	
425	MB37	楕円形	0.28	0.25	0.47	16.141		暗褐色(10YR3/4)	S i C L	弱	弱	
426	MB37	楕円形	0.25	0.22	0.46	16.079		暗褐色(10YR3/3)	S i C L	弱	中	
427	MB37	円形	0.21	0.20	0.23	16.331		黒褐色(10YR3/2)	S i C L	弱	中	
429	MB37	円形	0.20	0.19	0.27	16.418		黒褐色(10YR2/3)	S i C L	弱	中	
430	MB37	円形	0.25	0.25	0.23	16.311		暗褐色(10YR3/3)	S i C	弱	強	
431	MB37	円形	0.18	0.17	0.08	16.445		黒褐色(10YR2/3)	S i C	弱	強	
432	MC37	円形	0.28	0.28	0.34	16.093		黒褐色(10YR2/2)	S i C	弱	強	炭化物1%
433	MC37	円形	0.14	0.13	0.17	16.323	SM248の下	黒褐色(10YR3/2)	S i C L	弱	中	
434	MC37	楕円形	0.21	0.16	0.19	16.152		黒褐色(10YR2/2)	S i C	弱	中	
435	MC36	楕円形	0.17	0.13	0.25	15.594		黒褐色(10YR2/2)	S i C L	弱	中	
436	MD36	円形	0.25	0.24	0.38	15.075		黒褐色(10YR2/3)	S i C L	弱	弱	
438	MC36	楕円形	0.24	0.21	0.20	15.570	SM248を切る	黒色(10YR2/1)	S i C	弱	中	
439	MC37	楕円形	0.15	0.13	0.92	15.029		黒褐色(10YR2/2)	S i C	弱	中	
440	MC36	円形	0.32	0.30	0.56	15.236		黒褐色(10YR2/3)	S i C L	弱	中	
441	MC36	円形	0.14	0.14	0.11	15.507		暗褐色(10YR3/4)	S i C L	弱	中	炭化物1%
442	MC36	円形	0.21	0.20	0.25	15.392		黒褐色(10YR3/2)	S i C L	弱	中	
443	MC36	方形	0.19	0.18	0.11	15.458		暗褐色(10YR3/4)	S i C L	弱	中	
444	MC36	方形	0.16	0.16	0.11	15.439		暗褐色(10YR3/4)	S i C L	弱	中	
445	MC36	円形	0.24	0.23	0.20	15.556		黒褐色(10YR2/3)	S L	弱	弱	
446	MC36	円形	0.12	0.12	0.15	15.530		黒褐色(10YR3/2)	S L	弱	弱	
447	MC36	楕円形	0.38	0.29	0.40	15.289		黒褐色(10YR2/3)	S i C L	弱	中	
448	MC36	円形	0.40	0.40	0.27	15.285		暗褐色(10YR3/3)	S i C L	中	弱	炭化物1%
449	MC36	円形	0.20	0.20	0.31	15.211		黒褐色(10YR3/2)	S i C L	弱	中	
450	MC36	円形	0.20	0.20	0.23	15.255		黒褐色(10YR3/2)	S i C L	弱	弱	
451	MC36	円形	0.21	0.20	0.17	15.340		黒褐色(10YR2/3)	S i C L	弱	弱	炭化物1%
452	MC36	方形	0.25	0.25	0.26	15.370		暗褐色(10YR3/3)	S L	弱	弱	
453	MA49	楕円形	0.20	0.18	0.24	17.939		暗褐色(10YR3/3)	S i C	中	中	地山粒3%・地山塊3%
454	MA49	円形	0.18	0.17	0.12	18.137		暗褐色(10YR3/3)	S i C	中	中	地山粒3%・地山塊3%
469	MB38	楕円形	0.25	0.20	0.54	16.825		黒褐色(10YR2/3)	S i C L	弱	弱	
470	MB38	楕円形	0.25	0.20	0.24	17.205		黒褐色(10YR3/2)	S i C	弱	強	
471	MB38・39	楕円形	0.31	0.26	0.40	17.112		暗褐色(10YR3/4)	S i C	弱	強	
472	MB39	円形	0.26	0.24	0.27	17.332		暗褐色(7.5YR3/4)	S i C	弱	強	
473	MA・MB39	楕円形	0.30	0.23	0.44	17.240		暗褐色(7.5YR3/3)	S i C	弱	強	炭化物1%
474	MB39	円形	0.19	0.18	0.32	17.307		黒褐色(10YR3/2)	S i C	弱	強	
475	MB38	円形	0.27	0.26	0.48	16.773		黒褐色(10YR2/2)	S i C L	中	中	
476	MA37・38	円形	0.21	0.20	0.40	16.885		黒褐色(10YR3/2)	S i C L	弱	弱	
477	MA38	楕円形	0.26	0.22	0.45	16.826		黒褐色(10YR3/2)	S i C L	弱	中	
478	MA38	円形	0.22	0.20	0.14	17.467		黒褐色(10YR3/2)	S i C L	弱	弱	炭化物1%
479	MA38	円形	0.29	0.27	0.41	17.518		黒褐色(10YR3/2)	S i C L	弱	中	
480	MA38	楕円形	0.21	0.16	0.17	17.637		暗褐色(10YR3/4)	S i C L	弱	中	
481	MA38	円形	0.20	0.20	0.71	17.012		黒褐色(10YR3/2)	S i C L	弱	中	
482	MA38	楕円形	0.22	0.19	0.37	17.187		黒褐色(10YR2/3)	S i C L	弱	中	
485	MA38	円形	0.18	0.17	0.33	17.455		暗褐色(10YR3/4)	S i C L	弱	中	
486	MA38	楕円形	0.18	0.15	0.32	17.378		暗褐色(10YR3/4)	S L	弱	弱	
487	MA38	円形	0.27	0.26	0.31	17.357		暗褐色(10YR3/4)	S i C L	弱	中	褐色(10YR4/6)60%、掘形？
488	MA38	楕円形	0.33	0.29	0.13	17.462		暗褐色(10YR3/4)	S i C L	弱	弱	炭化物1%・褐色(10YR4/6)60%、掘形？
491	MA38	円形	0.33	0.31	0.34	17.292		暗褐色(10YR3/4)	S i C L	弱	弱	褐色(10YR4/6)70%、掘形？
492	MA37	楕円形	0.28	0.25	0.32	17.213		黒褐色(10YR3/2)	S i C L	弱	弱	炭化物1%
493	MA37	楕円形	0.26	0.23	0.31	17.250		黒褐色(10YR3/2)	S L	弱	弱	炭化物1%
495	LT・MA37	円形	0.27	0.27	0.63	17.125		暗褐色(10YR3/3)	S L	弱	弱	
496	LT37	円形	0.33	0.32	0.34	17.647		黒褐色(10YR3/2)	S L	中	弱	
498	LT37	楕円形	0.36	0.31	0.38	17.875		黒褐色(10YR3/2)	S L	弱	弱	
499	MB・MC36	楕円形	0.25	0.22	0.49	15.932		黒褐色(10YR2/2)	S i C	弱	強	
504	LT51	円形	0.31	0.30	0.16	17.956		にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C	中	中	地山粒3%
516	LS・LT38	楕円形	0.41	0.35	0.38	18.158		にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C L	中	弱	地山粒(砂)5%
517	LT38	楕円形	0.32	0.27	0.52	18.103		にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C L	中	弱	地山粒(砂)5%

※()内の数値は残存値である

第6表 SKP観察表(3)

SKP番号	検出区	平面形	規模(m)			底面標高(m)	備考	時期	土層注記			
			長軸	短軸	深さ				色	土性	しまり	粘性
518	L T 38	円形	0.30	0.29	0.36	17.985		にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C L	中	弱	地山粒(砂)3%
519	L T 38	円形	0.24	0.24	0.33	17.983		にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C L	中	弱	地山粒(砂)3%
520	L T 38	楕円形	0.23	0.20	0.30	17.954		にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C L	中	弱	地山粒(砂)3%
521	L T 38	楕円形	0.21	0.18	0.32	17.847	SD308の底面検出	にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C L	中	弱	地山粒(砂)3%
522	L T 38	円形	0.27	0.27	0.23	18.123		にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C L	中	弱	地山粒(砂)3%
523	L T 38	楕円形	0.30	0.26	0.32	17.938		にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C L	中	弱	地山粒(砂)3%
524	L T 38	円形	0.26	0.26	0.21	17.893		にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C L	中	弱	地山粒(砂)3%
525	L T 38	楕円形	0.19	0.14	0.14	17.865		にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C L	中	弱	地山粒(砂)2%
526	L T 38	楕円形	0.21	0.17	0.33	17.678		にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C L	中	弱	地山粒(砂)5%
527	L T 38	円形	0.30	0.28	0.43	17.472		灰黄褐色(10YR4/2)	S i C L	中	弱	地山粒(砂)5%
528	L T 37・38	円形	0.34	0.31	0.63	17.334		にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C L	中	弱	地山粒(砂)3%
529	L T 38	円形	0.30	0.28				にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C L	中	弱	地山粒(砂)5%
530	L T 38	楕円形	0.24	0.19				暗褐色(10YR3/3)	S i C L	中	弱	地山粒(砂)3%
531	L T 38	楕円形	0.24	0.21	0.29	17.790		にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C L	中	弱	炭化物1%・地山粒(砂)2%
532	L T 38	楕円形	0.26	0.23	0.29	18.060		暗褐色(10YR3/3)	S i C L	中	弱	地山粒(砂)2%
533	L T 38	楕円形	0.28	0.25	0.30	18.222		にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C L	中	弱	炭化物1%・地山粒(砂)3%
534	L T 38	円形	0.28	0.28	0.27	17.653		暗褐色(10YR3/3)	S i C L	中	弱	地山粒(砂)2%
535	L T 38	円形	0.21	0.20	0.24	17.708		暗褐色(10YR3/3)	S i C L	中	弱	地山粒(砂)2%
536	L T 38	円形	0.28	0.26	0.45	17.510		にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C L	中	弱	地山粒(砂)2%
537	L T 38	楕円形	0.20	(0.17)	0.28	17.618	SKP538に切られる	にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C L	中	弱	地山粒(砂)2%
538	L T 38	楕円形	0.24	0.21	0.31	17.603	SKP537を切る	にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C L	中	弱	地山粒(砂)2%
539	L T 38	楕円形	0.29	0.23	0.28	17.642	SKP947を切る	にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C L	中	弱	地山粒(砂)1%
540	L T 38	楕円形	0.25	0.21	0.28	17.578		にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C L	中	弱	地山粒(砂)2%
541	L T 38	円形	0.14	0.14	0.33	17.492		にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C L	中	弱	地山粒(砂)2%
548	L T 39	楕円形	0.21	0.19	0.27	18.194		暗褐色(10YR3/2)	S i C L	弱	中	
549	L T 39	円形	0.19	0.18	0.35	18.368		暗褐色(10YR3/2)	S i C	弱	強	褐色(10YR4/4)20%
550	MA 39	円形	0.25	0.24	0.24	17.888		暗褐色(10YR3/2)	S i C	弱	中	
551	L T 39	円形	0.24	0.22	0.27	18.213		暗褐色(10YR3/2)	H C	弱	強	
552	L T 39	楕円形	0.26	0.23	0.31	18.112		暗褐色(10YR3/3)	S i C	弱	強	
553	L T 39	円形	0.19	0.18	0.19	18.093		褐色(10YR4/4)	S i C L	弱	中	
555	L T 38・39	円形	0.24	0.23	0.27	18.230		暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	強	
556	L T 38	円形	0.24	0.22	0.24	18.321		黒褐色(10YR3/2)	S i C	弱	強	
557	L T 38	円形	0.26	0.26	0.38	18.024		暗褐色(10YR3/3)	S i C	弱	強	
558	L T 38	円形	0.24	0.24	0.24	17.990		暗褐色(10YR3/3)	S i C	弱	強	掘形有り
559	L T 38	円形	0.22	0.22	0.34	17.890		暗褐色(10YR3/3)	S i C	弱	強	
560	MA 39	楕円形	0.19	0.17	0.25	17.832		黒褐色(10YR3/2)	S i C L	弱	中	炭化物1%
561	L S 38	円形	0.20	0.19	0.41	18.382	SKP562を切る	黒褐色(10YR3/2)	S i C	弱	強	
562	L S 38	楕円形	0.25	0.22	0.56	18.172	SKP561に切られる	黒褐色(10YR3/2)	S i C	弱	強	
563	L S 38	楕円形	0.30	0.25	0.32	18.215		黒褐色(10YR3/2)	S i C L	弱	弱	
564	L S 38	楕円形	0.28	0.25	0.21	18.884		褐色(10YR4/4)	S i C	弱	強	
565	L S 38	楕円形	0.31	0.28	0.27	18.950		暗褐色(10YR3/3)	S i C L	弱	中	掘形、褐色(7.5YR4/4)
566	L S 38	円形	0.36	0.33	0.34	19.051		黒褐色(10YR2/3)	S L	中	弱	炭化物1%
567	L S 38	円形	0.35	0.33	0.34	18.970		暗褐色(10YR3/3)	S L	弱	弱	炭化物1%
568	L S 38	円形	0.31	0.30	0.22	18.931		黒褐色(10YR3/2)	S i C L	弱	弱	炭化物1%
569	ME 36・37	楕円形	0.35	0.29	0.40	14.480	SK348の底面検出	暗褐色(10YR3/3)	S	中	弱	
570	ME・MF 37	楕円形	0.36	0.32	0.41	14.851		黒褐色(10YR2/3)	S	弱	弱	
571	MF 37	円形	0.29	0.28	0.21	14.891		黒褐色(10YR3/2)	S	中	弱	
572	MF 36	楕円形	0.35	0.30	0.50	14.479		黒褐色(10YR2/2)	S	弱	弱	
574	MF 36	円形	0.35	0.34	0.34	14.498		黒褐色(10YR2/3)	S	中	弱	
575	MF 35	円形	0.22	0.22	0.32	14.238		黒褐色(10YR2/2)	S	中	弱	炭化物1%
579	MA 50	楕円形	0.50	0.44	0.67	17.415		暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	中	地山粒5%
582	L R 52	楕円形	0.30	0.27	0.34	18.629		暗褐色(10YR3/3)	S i C	強	強	地山粒2%
583	L R 52	円形	0.30	0.28	0.47	18.405		暗褐色(10YR3/3)	S i C	中	強	炭化物1%・地山粒5%
584	L R 52	楕円形	0.28	0.22	0.17	18.710		にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C	中	強	地山粒2%
586	L R 52						欠番	暗褐色(10YR3/3)	S i C	中	強	地山粒5%
589	L R 50	楕円形	0.22	0.18	0.24	19.102	SKI547を切る、SKP590と新旧不明	暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	強	地山粒2%
590	L R 50	楕円形	0.33	0.28	0.11	19.264	SKI547を切る、SKP589と新旧不明	暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	強	地山粒2%
592	L S 51	楕円形	0.19	0.16	0.18	18.617		暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	強	地山粒2%
594	L R 51	円形	0.20	0.19	0.47	18.755		暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	強	炭化物1%・地山粒2%
595	L R 51	楕円形	0.25	0.21	0.25	19.018		暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	強	地山粒2%
596	L R 51	円形	0.24	0.23	0.28	19.108		にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C	中	強	炭化物1%・地山粒3%
597	L R 51	楕円形	0.25	0.21	0.14	19.288		褐色(10YR4/4)	S i C	中	強	地山粒2%
599	L R 51	楕円形	0.24	0.19	0.18	18.885		暗褐色(10YR3/3)	S i C	中	強	地山粒2%
600	L R 50	円形	0.19	0.18	0.37	18.736	SKI547を切る	暗褐色(10YR3/4)	S i C	弱	強	地山粒2%
601	L S 51	楕円形	0.25	0.20	0.08	18.829		暗褐色(10YR3/4)	S i C	強	強	地山粒5%・地山塊小5%
605	ME 35・36	楕円形	0.37	0.25	0.44	14.696	SM344を切る	黒褐色(10YR2/2)	S i C L	弱	中	
606	ME 36	楕円形	(0.24)	(0.10)	0.21	14.914	SM255の下	黒褐色(10YR2/3)	S L	中	弱	
608	MF 35	円形	0.12	0.12	0.24	14.128		黒褐色(10YR3/2)	S i C L	弱	中	
609	MF 35	楕円形	0.22	0.19	0.26	14.147	SKP610を切る	暗褐色(10YR3/4)	S i C L	弱	中	
610	MF 35	楕円形	0.21	(0.19)	0.49	13.917	SKP609に切られる	黒褐色(10YR2/3)	S i C L	弱	中	
611	MF 35	楕円形	0.18	0.14	0.02	14.440		黒褐色(10YR2/2)	S i C L	弱	中	
612	MF 34	円形	0.25	0.24				暗褐色(10YR3/4)	S i C L	中	中	
613	MG 34	楕円形	(0.25)	(0.17)	0.44	13.890	西側調査区外へ	黒褐色(10YR3/2)	S L	弱	弱	
614	MG 34	円形	0.24	0.22	0.42	13.865		暗褐色(10YR3/4)	S i C L	弱	中	
615	MG 34	円形	0.22	0.22	0.41	13.898		暗褐色(10YR3/4)	S i C L	弱	中	
616	MF 34	楕円形	0.27	0.22	0.27	14.094		暗褐色(10YR3/3)	S i C L	弱	中	
617	MF・MG 34	楕円形	(0.31)	(0.17)	0.42	13.965	MG35坑下断面	黒褐色(10YR2/3)	S i C L	弱	弱	
618	MF 34・35	円形	0.28	0.26	0.29	14.087		黒褐色(10YR3/2)	S i C L	弱	弱	
619	MF 34	楕円形	0.28	0.25	0.32	14.077		黒褐色(10YR2/3)	S i C L	弱	弱	
621	MG 34	円形	0.11	0.11	0.37	13.912		暗褐色(10YR3/3)	S i C L	弱	弱	
622	MF 34	円形	0.23	0.21	0.38	14.128		黒褐色(10YR2/3)	S i C L	弱	弱	
623	MF 34	円形	0.10	0.10	0.22	14.064		暗褐色(10YR3/2)	S i C L	弱	中	
624	MF 34	円形	0.11	0.10	0.24	14.121		黒褐色(10YR3/2)	S i C L	弱	弱	炭化物1%
644	MA 52	円形	0.25	0.24	0.27	17.408	SD349を切る	褐色(10YR4/4)	S i C	中	中	地山粒5%
645	MA 52	楕円形	0.25	0.20	0.18	17.658		暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	中	地山粒2%
646	MA 52	楕円形	0.28	0.25	0.34	17.464		にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C	中	中	炭化物1%・地山粒2%
647	MA 52	楕円形	0.35	0.26	0.25	17.421		にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C	中	中	地山粒2%
648	MA 52	楕円形	0.23	0.19	0.17	17.586		暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	中	地山粒2%
649	MA 52	円形	0.26	0.24	0.25	17.550		にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C	中	中	地山粒2%

※()内の数値は残存値である

第7表 SKP観察表(4)

第1章 調査の方法と成果

SKP番号	検出区	平面形	規模(m)			底面標高(m)	備考	時期	土層注記				
			長軸	短軸	深さ				色	土性	しまり	粘性	
650	MA53	円形	0.33	0.32	0.30	17.363			にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C	中	中	地山粒3%
651	MA52	楕円形	0.27	0.24	0.32	17.599			にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C	中	中	地山粒3%
652	MA53	楕円形	0.36	0.29	0.25	17.379			にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C L	中	中	地山粒5%
688	MB51	楕円形	0.37	0.33	0.51	17.365			暗褐色(10YR3/4)	S i C L	中	中	地山粒3%
691	MA51	楕円形	0.29	0.23			SD546と新旧不明		にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C	中	中	地山粒3%
693	MB51	円形	0.22	0.21	0.24	17.513			にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C L	中	中	地山粒2%
699	LQ42	円形	0.44	0.40	0.34	20.316			褐色(7.5YR4/3)	S L	弱	弱	
700	LR42	円形	0.25	0.24	0.18	19.985			黒褐色(10YR2/3)	H C	中	強	
701	LS42	楕円形	0.27	0.24	0.13	19.925			黒褐色(10YR2/3)	H C	中	強	
702	LS42	楕円形	0.28	0.24	0.18	19.810			暗褐色(10YR3/4)	H C	中	強	
703	LS43	円形	0.47	0.46	0.70	19.135			黒褐色(10YR2/3)	H C	弱	強	
704	LS43	楕円形	0.23	0.20	0.10	19.889			暗褐色(10YR3/3)	S i C	弱	強	
705	LS43	円形	0.26	0.25	0.32	19.698			褐色(10YR4/6)	H C	中	強	
707	LO43	楕円形	0.26	0.22	0.20	22.096			暗褐色(10YR3/4)	S i C	弱	強	
708	LO43	円形	0.21	0.21	0.24	21.771			褐色(10YR4/4)	S i C	弱	強	
709	LO43	楕円形	0.38	0.31	0.28	21.816			暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	強	
710	LP44	円形	0.21	0.20	0.17	21.090			暗褐色(10YR3/4)	H C	弱	強	炭化物1%
711	LP44	円形	0.38	0.36	0.13	21.156			暗褐色(10YR3/4)	H C	弱	強	
712	LP44	楕円形	0.29	0.26	0.30	21.016			暗褐色(10YR3/4)	H C	弱	強	炭化物1%
713	LP44	楕円形	0.28	0.24	0.45	20.973			暗褐色(10YR3/4)	H C	弱	強	
714	LP44	円形	0.26	0.26	0.17	21.317			暗褐色(10YR3/4)	H C	弱	強	
715	LP44	円形	0.32	0.31	0.21	21.335			暗褐色(10YR3/4)	H C	弱	強	
716	LP43	楕円形	0.29	0.19	0.15	21.391			暗褐色(10YR3/4)	H C	弱	強	
717	LP43	円形	0.23	0.21	0.26	20.945			暗褐色(10YR3/4)	H C	弱	強	
718	LP43	楕円形	0.28	0.22	0.34	21.170			暗褐色(10YR3/4)	S i C	弱	中	
719	LP43	楕円形	0.26	0.20	0.13	21.475			暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	強	
721	MD35	円形	0.27	0.27	0.43	14.563			黒色(10YR2/1)	S i C	弱	中	掘形部分、黒褐色(10YR3/2)
722	MF34	楕円形	0.30	0.21	0.47	14.137	SM344を切る		黒褐色(10YR3/2)	S i C L	弱	中	
724	LQ45	楕円形	0.19	0.17	0.15	20.825			暗褐色(10YR3/4)	H C	弱	強	
725	LP・LQ45	円形	0.26	0.26	0.19	20.768	SM206の上		褐色(7.5YR4/3)	H C	弱	強	炭化物1%
726	LP45	楕円形	0.22	0.19	0.13	20.825			褐色(7.5YR4/4)	H C	弱	強	
727	LP45	円形	0.32	0.30					褐色(7.5YR4/4)	H C	弱	強	炭化物1%
729	LP45	楕円形	0.28	0.22	0.19	21.428			褐色(7.5YR4/4)	H C	弱	強	炭化物1%
736	LR54	楕円形	0.23	0.19	0.17	15.933			黒褐色(10YR3/2)	S i C	強	中	地山粒3%
737	LR49	楕円形	0.33	0.26	0.37	19.027	SN269を切る		暗褐色(10YR3/3)	S i C	強	中	炭化物2%・地山粒2%
738	LR41	楕円形	0.35	0.30	0.32	20.194			褐色(7.5YR4/4)	H C	弱	強	明褐色(7.5YR5/6)
743	MC46	楕円形	0.27	0.22	0.14	17.342			暗褐色(10YR3/3)	S L	中	弱	地山粒12%
751	MA42	円形	0.24	0.23	0.16	18.639			黒褐色(10YR2/3)	S i C L	中	弱	
765	MD47	楕円形	0.29	0.25	0.18	16.475			暗褐色(10YR3/3)	S i C	中	中	地山粒2%
766	MD47	楕円形	0.22	0.19	0.22	16.509			黒褐色(10YR2/3)	S i C	中	中	地山粒5%
767	MD47	楕円形	0.26	0.22	0.36	16.400			黒褐色(10YR2/2)	S i C	弱	中	地山粒2%
768	MC47	楕円形	0.20	0.16	0.16	16.635			黒褐色(10YR2/2)	S i C	中	中	地山塊小5%
769	MC48	楕円形	0.31	0.25	0.20	16.782			黒褐色(10YR2/2)	S i C	弱	中	地山塊小2%
770	MC48	円形	0.30	0.28	0.36	16.545			黒褐色(10YR2/3)	S i C	弱	中	地山塊小2%
771	MC48	楕円形	0.19	0.16	0.15	16.318			にぶい黄褐色(10YR6/3)	L i C	中	中	黒褐色(10YR2/3) S i C 2%・地山粒2%
773	MC48	楕円形	0.40	0.35	0.29	17.207			暗褐色(10YR3/3)	S i C L	弱	中	地山粒2%
775	LT46	楕円形	0.22	0.18	0.23	19.599			暗褐色(10YR3/3)	S i C	強	中	地山粒3%
776	LT46	円形	0.19	0.19	0.26				暗褐色(10YR3/3)	S i C	強	中	地山粒5%
777	MA45	楕円形	0.33	0.26	0.25				暗褐色(10YR3/3)	S L	中	弱	黄褐色(10YR5/8) S i C L 塊小~中2%・地山粒(砂)5%
778	MB44	楕円形	0.33	0.28	0.23				暗褐色(10YR3/4)	S L	中	弱	地山粒(砂)3%
779	MB45	楕円形	0.26	0.21	0.10				黒褐色(10YR2/3)	S L	中	弱	地山粒3%
794	MF34	楕円形	0.20	0.16	0.03	14.415	SM344を切る		黒褐色(10YR3/2)	S i C	弱	中	
795	MC39	楕円形	0.35	0.29	0.12				暗褐色(10YR3/3)	L S	中	弱	地山粒(砂)10%
796	MC39	楕円形	0.36	0.30	0.11				暗褐色(10YR3/3)	L S	中	弱	地山粒(砂)10%
797	MD41	楕円形	0.34	0.30	0.52				褐色(10YR4/4)	L S	中	弱	地山粒(砂)5%
798	MC41	楕円形	0.21	0.19	0.15				褐色(10YR4/4)	L S	中	弱	地山粒(砂)5%
800	MB41	楕円形	0.28	0.25	0.32		SI286に切られる		暗褐色(10YR3/3)	L S	中	弱	炭化物2%
801	MB41	円形	0.25	0.23	0.10				褐色(10YR4/4)	L S	中	弱	地山粒(砂)10%
802	MB41	円形	0.32	0.30	0.22				褐色(10YR4/4)	L S	中	弱	地山粒(砂)10%
803	MA41	円形	0.20	0.20	0.37	18.636			暗褐色(10YR3/3)	L S	中	弱	地山粒極小~中7%
804	MA41	円形	0.20	0.19	0.41	18.600			暗褐色(10YR3/3)	L S	中	弱	地山粒極小~大10%
808	MD43	楕円形	0.30	0.25	0.33	17.690			褐色(10YR4/4)	L S	中	弱	地山粒(砂)極小~大10%
810	MD42	楕円形	0.34	0.29	0.22	17.863			暗褐色(10YR3/3)	L S	中	弱	地山粒(砂)10%
812	MC43	楕円形	(0.36)	(0.10)			SI286に切られる		黒褐色(10YR2/3)	S L	弱	弱	地山粒(砂)2%
816	MB43	円形	0.32	0.30	0.31	18.337			褐色(10YR4/4)	S L	中	弱	地山粒(砂)極小~小1%
817	MB43	楕円形	0.51	0.41	0.26	18.410			暗褐色(10YR3/3)	S L	中	弱	地山粒(砂)極小~大10%
818	MA43	楕円形	0.29	0.26	0.45	18.213			褐色(10YR4/4)	S L	中	弱	地山粒(砂)極小~中2%
819	MA42	円形	0.23	0.22	0.39	18.686			暗褐色(10YR3/3)	L S	中	弱	炭化物1%
820	MA42	円形	0.34	0.31	0.44	18.601			暗褐色(10YR3/3)	L S	中	弱	地山粒極小~小2%
821	MA42	楕円形	0.20	0.18	0.26	18.809			暗褐色(10YR3/3)	L S	中	弱	地山粒極小~極大15%
822	MA41・42	楕円形	0.49	0.31	0.46	18.598			暗褐色(10YR3/3)	L S	中	弱	地山粒極小~極大15%
823	MB41・42	楕円形	(0.35)	(0.31)	0.22	18.324	SI286に切られる		黒褐色(10YR2/3)	S L	中	弱	地山粒(砂)2%
824	LT43	円形	0.21	0.20	0.15				暗褐色(10YR3/3)	S L	中	弱	地山粒(砂)2%
825	LT43	楕円形	0.21	0.19	0.22				暗褐色(10YR3/3)	S L	弱	弱	地山粒(砂)3%
826	LT43	楕円形	0.25	0.21	0.18				暗褐色(10YR3/3)	S L	中	弱	地山粒(砂)3%
827	LT43	楕円形	0.35	0.29	0.30				暗褐色(10YR3/4)	S L	中	弱	地山粒(砂)3%
828	LT42	円形	0.18	0.17	0.33	18.788	SK1352を切る		暗褐色(10YR3/3)	L S	中	中	地山粒極小~中5%
829	LT42	楕円形	0.19	0.16	0.38	18.731			暗褐色(10YR3/3)	L S	中	弱	炭化物1%未滿・地山粒極小~大10%
830	LQ43	楕円形	0.17	0.17	0.29	20.412			暗褐色(10YR3/4)	L S	中	中	地山粒極小~小1%
831	LQ43	楕円形	0.28	0.24	0.14	20.595			暗褐色(10YR3/4)	L S	中	中	地山粒極小~小1%
832	LQ43	円形	0.23	0.22	0.37	20.466			暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	地山粒極小~大7%
833	LQ43	円形	0.21	0.20	0.26	20.743			暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	地山粒極小~小1%
834	LQ43	楕円形	0.36	0.28	0.27	20.680			暗褐色(10YR3/4)	L S	中	中	地山粒極小~小1%
835	LP・LQ43	円形	0.29	0.27	0.28	20.725			暗褐色(10YR3/4)	L S	中	中	地山粒極小~小2%
836	LP・LQ43	楕円形	0.26	0.22	0.11	20.897			暗褐色(10YR3/4)	L S	中	中	炭化物1%・地山粒極小~小1%
843	MA44	楕円形	0.32	0.29	0.35	18.425			暗褐色(10YR3/3)	S L	中	弱	地山粒(砂)極小~中2%
844	MA44	円形	0.45	0.42	0.26	18.560			暗褐色(10YR3/3)	S L	中	弱	地山粒(砂)極小~中3%
845	MA44	楕円形	0.45	0.35	0.44	18.440			暗褐色(10YR3/3)	S L	中	弱	地山粒(砂)極小~極大10%
846	MA44	円形	0.32	0.30	0.15				暗褐色(10YR3/4)	S L	中	弱	地山粒(砂)2%
851	LT・MA44	楕円形	0.39	0.33	0.34				暗褐色(10YR3/3)	S L	中	弱	地山粒(砂)2%

第3節 検出遺構と出土遺物

SKP番号	検出区	平面形	規模(m)			底面標高(m)	備考	時期	土層注記			
			長軸	短軸	深さ				色	土性	しまり	粘性
852	L T 44	楕円形	0.29	0.25	0.35			暗褐色(10YR3/3)	S L	中	弱	地山粒(砂)2%
853	L T 44	円形	0.36	0.33	0.23			暗褐色(10YR3/4)	S L	中	弱	地山粒(砂)3%
854	L T 45	楕円形	0.26	0.23	0.22			暗褐色(10YR3/3)	S L	中	弱	地山粒(砂)3%
855	L S・L T 45	楕円形	0.30	0.23	0.03	19.355		暗褐色(10YR3/3)	S L	中	中	地山粒極小～中5%
856	L S 45	楕円形	0.30	0.25	0.47	18.947		暗褐色(10YR3/3)	L	中	中	地山粒極小～小1%
857	L S 45	楕円形	0.44	0.36	0.51	19.018		暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	
859	L S 45	楕円形	0.38	0.34	0.65	19.066		暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	地山粒極小～大1%
860	L S 45	楕円形	0.34	0.25	0.63	19.145		暗褐色(10YR3/4)	S L	中	中	地山粒極小～小2%
861	L O 45	円形	0.23	0.22	0.42	20.283		暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	炭化物1%・地山粒極小～小5%
862	L Q 45	楕円形	0.30	0.26	0.49	20.260		暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	地山粒極小～中2%
863	L R 44	楕円形	0.35	0.26	0.18	20.269		暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	地山粒極小～大10%
864	L R 44	円形	0.28	0.26	0.36	19.831		暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	炭化物1%・地山粒極小～大5%
865	L R・L S 44	円形	0.32	0.31	0.46	19.613		暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	地山粒極小～中5%
866	L Q 44	楕円形	0.27	0.24	0.05	20.567		暗褐色(10YR3/3)	L	中	中	炭化物1%
867	L Q 44	楕円形	0.26	0.22	0.05	20.751		暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	地山粒極小～中2%
871	M D 47	円形	0.18	0.18	0.18	16.805		暗褐色(10YR3/3)	S i C	中	中	地山粒2%
872	M D 47	円形	0.23	0.22	0.11	16.759		黒褐色(10YR2/2)	S i C	弱	中	地山粒2%
873	M C 47	楕円形	0.23	0.19	0.16	16.682		黒褐色(10YR2/2)	S i C	中	中	地山塊5%
874	L T 47	楕円形	0.16	0.14	0.41	18.491		暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	地山粒極小～小1%
875	L T 47	楕円形	0.30	0.25	0.44	18.463		黒褐色(10YR2/2)	L	中	中	地山粒極小～中5%
876	L T 47	楕円形	0.19	0.15	0.12	18.717		暗褐色(10YR3/4)	L S	中	中	地山粒極小～小2%
877	L T 47	円形	0.26	0.24	0.09	18.969		黒褐色(10YR3/2)	L S	中	中	地山粒極小～小5%
878	L T 47	楕円形	0.24	0.21	0.10	18.936		暗褐色(10YR3/3)	L S	中	中	炭化物1%未満・地山粒極小～小10%
879	L T・L S 47	楕円形	0.20	0.16	0.12	18.990		黒褐色(10YR3/2)	L S	中	中	地山粒極小～中5%
880	L S 47	楕円形	0.18	0.15	0.09	19.030		黒褐色(10YR3/2)	L S	中	中	地山粒極小～中2%
881	L S 47	円形	0.32	0.31	0.48	18.684		黒褐色(10YR2/3)	L	中	中	炭化物1%未満・地山粒極小～小1%
882	L S 47	楕円形	0.28	0.23	0.61	18.653		暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	地山粒極小～小2%
885	L S 46	円形	0.29	0.27	0.32	18.952		暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	炭化物1%未満・地山粒極小～中2%
886	L S 46	楕円形	0.41	0.32	0.34	18.955		暗褐色(10YR3/3)	S L	中	中	地山粒極小～中2%
887	L S 46	楕円形	0.21	0.19	0.48	18.799		暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	地山粒極小～小3%
888	L S 46	円形	0.20	0.20	0.40	18.859		暗褐色(10YR3/4)	S L	中	中	地山粒極小～中1%
889	L S 46	楕円形	0.37	0.30	0.57	18.728		暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	地山粒極小～小1%
890	L S 46	円形	0.22	0.21	0.40	18.908		暗褐色(10YR3/4)	S L	中	中	地山粒極小～小1%
891	L S 46	楕円形	0.63	0.47	0.44	19.046		暗褐色(10YR3/4)	S L	中	中	地山粒極小～小2%
892	L S 46	楕円形	0.25	0.21	0.35	19.150		暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	炭化物1%未満・地山粒極小～小1%
893	L S 46	楕円形	0.33	0.27	0.51	19.025		暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	地山粒極小～中2%
894	L S 46	楕円形	0.42	0.30	0.40	19.229		暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	地山粒極小～中1%
895	L S 46	楕円形	0.46	0.37	0.34	19.294		暗褐色(10YR3/4)	S L	中	中	地山粒極小～大5%
896	L R 47	楕円形	0.29	0.26	0.48	19.321		暗褐色(10YR3/4)	L S	中	弱	地山粒極小～中2%
897	L R 47	円形	0.30	0.29	0.27	19.625		暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	地山粒極小～大5%
898	L Q・L R 47	楕円形	0.38	0.25	0.31	20.015		黒褐色(10YR2/3)	L S	中	中	地山粒極小～小5%
899	L R 46	楕円形	0.28	0.22	0.65	18.658		暗褐色(10YR3/4)	S i L	中	中	地山粒極小～中2%
900	L R 46	円形	0.22	0.22	0.44	18.971		暗褐色(10YR3/3)	S L	中	中	地山粒極小～中7%
901	L R 46	楕円形	0.33	0.28	0.39	19.101		褐色(10YR4/4)	S L	中	中	地山粒極小～小1%
902	L R 46	円形	0.26	0.24	0.43	19.638		黒褐色(10YR2/3)	L S	中	中	地山粒極小～中2%
904	L T 49・50	円形	0.23	0.22	0.10	18.635		暗褐色(10YR3/4)	S i C	強	強	地山粒5%・地山塊小5%
905	L T 49	円形	0.23	0.22	0.38	18.420		暗褐色(10YR3/3)	L S	中	中	地山粒極小～小2%
906	L T 48・49	円形	0.22	0.21	0.44	18.384		暗褐色(10YR3/4)	L S	強	中	地山粒極小～小1%
907	L T 48	円形	0.29	0.27	0.25	18.660		暗褐色(10YR3/4)	L S	中	中	地山粒極小～中5%
908	L T 48	円形	0.27	0.26	0.10	18.731		暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	地山粒極小～極大20%
909	L T 48	楕円形	0.31	0.26	0.54	18.321		暗褐色(10YR3/3)	L	中	強	地山粒極小～大5%
910	L T 48	楕円形	0.26	0.22	0.47	18.402		暗褐色(10YR3/4)	L	中	強	地山粒極小～小1%
911	L T 48	楕円形	0.34	0.24	0.40	18.439		暗褐色(10YR3/4)	L	中	強	地山粒極小～中2%
912	L S 48	楕円形	0.26	0.14	0.44	18.628	SKP913を切る	暗褐色(10YR3/3)	L	中	中	地山粒極小～中5%
913	L S 48	円形	(0.23)	(0.22)	0.43	18.628	SKP912に切られる	暗褐色(10YR3/3)	L S	中	中	炭化物2%・地山粒極小～小1%
914	L S 48	楕円形	0.15	0.12	0.52	18.536		暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	地山粒極小～小1%
915	L S 48	円形	0.21	0.20	0.51	18.569		褐色(10YR4/4)	L	中	強	地山粒極小～大10%
916	L S 48	円形	0.23	0.21	0.48	18.651		暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	地山粒極小～小2%
917	L S 48	楕円形	0.25	0.22	0.54	18.608		暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	地山粒極小～中5%
918	L S 48	円形	0.24	0.23	0.18	18.960		暗褐色(10YR3/4)	L	中	弱	地山粒極小～小1%
919	L S 48	円形	0.23	0.21	0.38			暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	地山粒極小～小7%
920	L S 48	楕円形	0.21	0.19	0.52	18.650		暗褐色(10YR3/3)	L	中	中	地山粒極小～大10%
921	L S 48	円形	0.20	0.19	0.51	18.680		暗褐色(10YR3/3)	L	中	中	炭化物1%・地山粒極小～小1%
922	L R 48	円形	0.15	0.14	0.31	19.119		暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	地山粒極小～小5%
923	M G 34	楕円形	0.24	0.20	0.38	13.930		黒褐色(10YR3/2)	S i C L	弱	中	
924	L O 43	楕円形	0.25	0.21	0.12	22.201		暗褐色(10YR3/4)	S i C	弱	強	
925	L O 43	楕円形	0.24	0.21	0.09	22.105		暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	強	
926	L O 43	楕円形	0.34	0.28	0.07	22.234		暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	強	
927	L P 42	円形	0.30	0.29	0.10	21.488		黒褐色(10YR3/2)	L S	中	弱	地山粒(砂)2%
928	L P 42	楕円形	0.30	0.24	0.08	21.566		黒褐色(10YR3/2)	L S	中	弱	地山粒(砂)5%
929	L P 42	楕円形	0.34	0.27	0.11	21.452		黒褐色(10YR3/2)	L S	中	弱	地山粒(砂)10%
930	L O 42	楕円形	0.28	0.25	0.06	22.211		暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	強	
931	L O 42	楕円形	0.28	0.25	0.08	22.330		暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	強	
932	L O 42	円形	0.36	0.35	0.08	22.275		暗褐色(10YR3/4)	S i C	中	強	
934	L P 51	円形	0.22	0.20	0.22	20.489		暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	地山粒極小～大3%
935	L P 51	円形	0.28	0.27	0.30	20.618		暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	地山粒極小～大5%
936	L O 51	円形	0.22	0.21	0.17	20.858		暗褐色(10YR3/3)	L	中	強	地山粒極小～極大5%
943	L R 50	楕円形	0.23	0.19	0.12	18.958	SK1547を切る	にぶい黄色(2.5Y6/3)	H C	中	強	暗褐色土粒極小～極大1%
944	L R 50	楕円形	0.18	0.16	0.20	19.045	SK1547を切る	暗褐色(10YR3/4)	L	中	中	地山粒極小～中5%
946	M F 35	楕円形	0.34	0.22	0.46	14.133		黒褐色(10YR2/2)	S i C L	弱	中	
947	L T 38	楕円形	0.25	0.22	0.22	17.705	SKP539に切られる	にぶい黄褐色(10YR4/3)	S i C L	中	弱	地山粒(砂)1%
949		楕円形	0.43	0.34	0.37	11.364	SD951を切る	黄褐色(10YR5/6)	L	中	中	
950		円形	0.24	0.24	0.14	11.630		褐色(10YR4/6)	L	中	中	
952		円形	0.37	0.34	0.11	11.628		褐色(10YR4/6)	L	中	中	
954	MA 43				0.08	18.710	SI327を切る	暗褐色(10YR3/4)	S L	中	弱	
955	L T 42	楕円形	0.19	0.15	0.29	18.918	SK1352に切られる	暗褐色(10YR3/3)	L S	中	中	炭化物1%未満・地山粒極小～極大10%
956	LS49						SK283を切る。 SK626に切られる					

※()内の数値は残存値である

第9表 SKP観察表(6)

(7) 柱穴様ピット (第4～9表)

テラス状遺構の底面や確認面で検出し、古代と捉えられる柱穴様ピットは91基である。第4表に詳細を掲載する。

3 中世の遺構と遺物

(1) 竪穴建物跡

S I 2 6 5 (第29図、図版11-1～5、第12表)

位置：LR50、LS49・50・51、LT49に位置する。

規模：東壁3.70m、西壁3.70m、南壁3.50m、北壁3.38mである。

確認状況：第IX b層及び古代の盛土整地層上面にて、暗褐色土の広がりとして確認。

重複遺構：SK287・956、SKI547を切る。

堆積土：26層に分けられた。人為的埋め戻しによる埋没である。

壁：残存する各壁の高さは、東壁0.68m、西壁0.42m、南壁0.34m、北壁0.60mである。

出土遺物：P1とした地床炉から美濃産施釉陶器皿(第29図1)が出土した。他に弥生土器13g、須恵器11g、土師器834gが出土している。

所見：床面からは柱穴16基、地床炉と考えられる焼土遺構2基(SN957・958)を検出した。

SN957は焼土面が2面あり、上面の検出面からは粒状滓が出土している。柱穴の詳細は第12表に示す。南西に向かってL字状の出入口を持つ建物の形態や出土した遺物から、16世紀代に構築された遺構である。

S I 2 8 6 (第30図、図版11-6～8、第12表)

位置：MB41・42・43、MC42・43に位置する。

規模：東壁4.94m、西壁4.92m、南壁3.00m、北壁3.14mである。

確認状況：第IX a層上面で黒褐色土の広がりとして確認。

重複遺構：SKP800・812・823を切る。

堆積土：12層に分けられた。

壁：残存する各壁の高さは、東壁0.40m、西壁0.28m、南壁0.28m、北壁0.30mである。

出土遺物：石硯1点、銭貨18点、砥石2点、鉄製品(釘)3点が出土した。他に須恵器28g、土師器1,757g、製塩土器11gが出土している。

所見：床面で柱穴を14基検出した。詳細を第12表に示す。北西に向かってL字状の出入口を持つ建物の形態や出土した遺物から、中世に構築された遺構である。

S I 2 9 1 (第32図、図版12-1、第12表)

位置：LR・LS・LT51・52に位置する。

規模：東壁3.02m、(西壁3.72m)、南壁4.86m、(北壁5.06m)である。

確認状況：第IX b層上面で褐色土の広がりとして確認。

重複遺構：SI312を切り、SKP598に切られる。

堆積土：単層である。